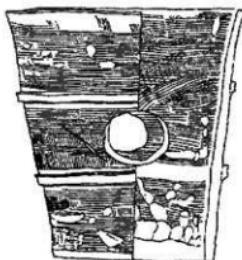


後平茶臼古墳・後平遺跡

【第2分冊】



2002

財團法人 岐阜県文化財保護センター

あと ひら ちや うす こ ふん あと ひら い せき

後平茶臼古墳・後平遺跡

【第2分冊】

2002

財団法人 岐阜県文化財保護センター

目 次

(第2分冊)

第5章	B地区の遺構と遺物	1
第1節	I期の遺構と遺物（縄文時代早期～後期）	（藤田） 1
第2節	II期の遺構と遺物（縄文時代晚期）	（藤田） 5
第3節	III期の遺構と遺物（弥生時代末～古墳時代初頭）	（藤田・角張） 6
第6章	自然科学分析	25
第1節	後平茶臼古墳出土埴輪の蛍光X線分析	（三辻利一） 25
第2節	赤みを帯びた粘土質物の成分分析	（小村美代子） 30
第3節	後平遺跡出土炭化材の樹種同定	（植田弥生） 34
第7章	考 察	39
第1節	砂行・南青柳・深橋前遺跡と後平遺跡との関連	（安田・藤田） 39
第2節	後平茶臼古墳について	（藤田） 41
遺物観察表		
図版		

挿図目次

(第2分冊)

第133図	B地区西区Ⅰ・Ⅱ期遺構配置図	2
第134図	西区Ⅰ期SIB01, SKB01, SKB02平面図・断面図	3
第135図	西区Ⅰ期PB01, PB02平面図・断面図	4
第136図	西区Ⅱ期PB03, PB04平面図・断面図	5
第137図	B地区東区Ⅲ期遺構配置図	7
第138図	東区Ⅲ期SBB01～SBB03平面図・断面図	9
第139図	東区Ⅲ期SBB04, SDB01, SDB02平面図・断面図	11
第140図	東区Ⅲ期PB05～PB08平面図・断面図	14
第141図	B地区西区Ⅲ期遺構配置図	15
第142図	西区Ⅲ期SBB05平面図・断面図	17
第143図	西区Ⅲ期SBB06平面図・断面図	18
第144図	西区Ⅲ期PB09～PB14平面図・断面図	20
第145図	西区Ⅲ期PB15～PB21平面図・断面図	22
第146図	B地区SBB01～SBB06, SDB01Ⅲ層出土遺物	23
第147図	B地区Ⅲ期SBB04, SDB01Ⅳ・V層出土石器	24
第148図	A群埴輪の両分布図	27
第149図	B群埴輪の両分布図	28
第150図	赤みを帯びた粘土質物の蛍光X線スペクトル図	33
第151図	赤みを帯びた粘土質物のX線回折スペクトル図	33

付図目次

付図1	後平茶臼古墳A区・D区埴輪出土位置図
付図2	後平茶臼古墳B区埴輪出土位置図
付図3	後平茶臼古墳C区埴輪出土位置図
付図4	後平茶臼古墳墳丘北側軒落埴輪出土位置図

表目次

(第2分冊)

第7表	後平茶臼古墳出土埴輪の分析データ	29
第8表	石室床石の付着粘土質物から検出された元素	31
第9表	石室床石の付着粘土質物から検出された鉱物	31
第10表	後平遺跡出土炭化材樹種	38
第11表	後平遺跡遺構別出土炭化材樹種	38
第12表	土器観察表A地区	45

第13表 土器観察表B地区.....	57
第14表 墓輪観察表.....	58
第15表 鉄製品観察表.....	69
第16表 石器観察表A地区.....	70
第17表 石器観察表B地区.....	72

図版目次

(第2分冊)

- 図版1 空中写真撮影
- 図版2 A地区調査前風景
- 図版3 A地区土層断面, SIA01
- 図版4 PA01~PA03, SKA01~SKA03
- 図版5 SKA04~SKA08
- 図版6 SKA09, SKA10, NRA01
- 図版7 SBA01~SBA03
- 図版8 SBA03~SBA05
- 図版9 SBA06, SBA07~SBA10
- 図版10 SBA07~SBA10, SBA12~SBA18, SBA20
- 図版11 SBA19, 方形周溝墓
- 図版12 SKA12~SKA14, ASKA16, SUA01, PA06~PA22
- 図版13 後平茶臼古墳 検出状況・主体部完掘状況
- 図版14 後平茶臼古墳 周溝
- 図版15 後平茶臼古墳 周溝遺物出土状況
- 図版16 後平茶臼古墳 周溝完掘状況
- 図版17 後平茶臼古墳 墓輪列
- 図版18 後平茶臼古墳 控え積み検出状況
- 図版19 後平茶臼古墳 盗掘坑
- 図版20 後平茶臼古墳 開口部
- 図版21 後平茶臼古墳 開口部完掘状況
- 図版22 後平茶臼古墳 基底石検出状況、墳丘除去
- 図版23 後平茶臼古墳 墳丘除去、主体部断面
- 図版24 後平茶臼古墳 主体部断面、墳丘主軸断面
- 図版25 後平茶臼古墳 墳丘主軸断面
- 図版26 後平茶臼古墳 墳丘断面、後平1号古墳
- 図版27 SZA01~SZA03
- 図版28 SZA03~SZA05, SDA01
- 図版29 B地区調査前風景、土層断面

- 图版30 SIB01, SKB01, SKB02, PB01
- 图版31 PB02~PB04, SBB01~SBB03
- 图版32 SDB01, SDB02, SBB04~SBB06, PB06, PB07
- 图版33 PB09~PB17
- 图版34 PB16~PB21
- 图版35 A地区IV・V层出土绳文土器(1)
- 图版36 A地区IV・V层出土绳文土器(2)
- 图版37 A地区IV・V层出土绳文土器(3)
- 图版38 SBA03, SBA05出土土器
- 图版39 SBA05出土土器(1)
- 图版40 SBA05出土土器(2)
- 图版41 SBA05~SBA07出土土器
- 图版42 SBA07出土土器
- 图版43 SBA08, SBA09、III层出土土器
- 图版44 SBA10出土土器
- 图版45 SBA13出土土器(1)
- 图版46 SBA13出土土器(2)
- 图版47 方形周溝墓出土土器
- 图版48 後平茶臼古墳出土土器
- 图版49 SUA01, SKA15出土土器、■層出土土器(1)
- 图版50 ■層出土土器(2)
- 图版51 ■層出土土器(3)
- 图版52 ■層出土土器(4)
- 图版53 ■層出土土器(5)
- 图版54 後平茶臼古墳出土埴輪(1) 脊顔形
- 图版55 後平茶臼古墳出土埴輪(2) 411、口緣部
- 图版56 後平茶臼古墳出土埴輪(3) 口緣部
- 图版57 後平茶臼古墳出土埴輪(4) 口緣部
- 图版58 後平茶臼古墳出土埴輪(5) 口緣部
- 图版59 後平茶臼古墳出土埴輪(6) 胸部
- 图版60 後平茶臼古墳出土埴輪(7) 胸部、底部
- 图版61 後平茶臼古墳出土埴輪(8) 底部
- 图版62 後平茶臼古墳出土埴輪(9) 底部、埴輪列出土
- 图版63 後平茶臼古墳出土埴輪(10) 嵌輪列出土、周溝出土
- 图版64 後平茶臼古墳出土埴輪(11) 396
- 图版65 後平茶臼古墳出土埴輪(12) 409
- 图版66 後平茶臼古墳出土埴輪(13) 410

- 図版67 後平茶臼古墳出土埴輪(4) 413
図版68 後平茶臼古墳出土埴輪(5) 418
図版69 後平茶臼古墳出土埴輪(6) 423
図版70 後平茶臼古墳出土埴輪(7) 周溝出土
図版71 後平茶臼古墳出土埴輪(8) 周溝出土
図版72 A 地区出土須恵器(1)
図版73 A 地区出土須恵器(2)
図版74 後平茶臼古墳出土鉄器(1)
図版75 後平茶臼古墳出土鉄器(2)
図版76 後平茶臼古墳出土鉄器(3) レントゲン写真
図版77 SZA01, SDA02出土中近世陶器
図版78 石器(1)
図版79 石器(2)
図版80 石器(3)
図版81 石器(4)
図版82 石器(5)
図版83 B 地区出土土器
図版84 後平遺跡出土炭化材樹種(1)
図版85 後平遺跡出土炭化材樹種(2)
図版86 後平遺跡出土炭化材樹種(3)

第5章 B地区の遺構と遺物

第1節 I期の遺構と遺物（縄文時代早期～後期）

西区

V層上面あるいはV層掘削中に確認した遺構を縄文時代の遺構として報告する。V層上面で確認した遺構はSIB01のみで、その他の遺構はV層掘削中に確認した。いずれの遺構からも遺物は出土しなかったため、時期の特定はできなかった。

SIB01（第134図）

BN 9グリッドで確認した集石遺構。西区の土層観察用畦中に砂岩礫が集中する箇所があり、これら礫の周囲を精査したところ、直徑0.5m程度のはば円形を呈する集石遺構を検出した。確認面はV層直上で、周囲に展開する遺構よりやや10cm程度の上位のレベルにある。使用されている砂岩は拳大程度の小さなもので、一部の礫は被熱し赤色化していた。礫は長軸0.57m・短軸0.5mの土坑内に投げ込まれており、土坑の深さは確認面から10cm程度であった。埋土にはわずかな炭化物が認められたが、焼土はまったく認められなかった。本集石遺構は礫の分布は散漫ではあるが、被熱している点、調査区内に礫が点在しない点から判断して何らかの遺構であると考えられる。

SKB01（第134図）

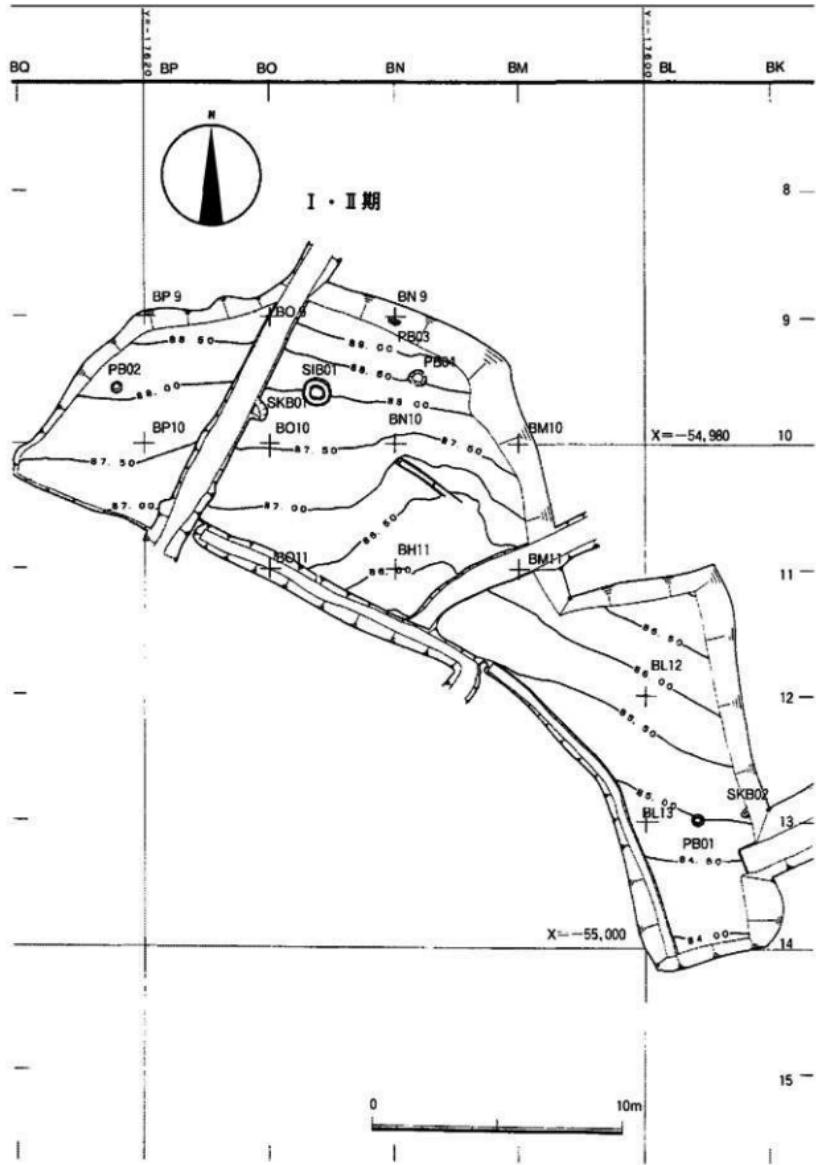
試掘Tr8の断面内で確認した土坑でBO 9グリッドに位置する。この試掘Trの掘削に伴い、平面形のうち南半分しか遺存していない。現存する平面形の規模は長軸1.12m・短軸1.58mで、深さは約0.7m程度認められる。おそらく、平面形は梢円形を呈すると思われ、復元するとその長軸は2m程度になると考えられる。壁面の立ち上がりはかなり急な傾斜をもち、埋土はV層に類似する土層が認められた。主軸方向はN-61°-Wをはかる。

SKB02（第134図）

調査区東側壁面で確認した土坑で、BK12グリッドに位置する。平面形のうち東半分程度は調査区外に伸びているため、その全形は不明である。確認した平面形から推測すると平面形は梢円形を呈すると考えられ、その規模は現存で長軸0.31m・短軸0.35mで、主軸方向はN-56°-Eをはかる。断面は底面がやや不明瞭で溝状の断面形を示している。

PB01（第135図）

BK12・13グリッドで確認したピット。平面形はほぼ円形を呈し、直径は0.45m程度である。深さは約8cmと浅く、床面では板状のチャート礫を検出した。このチャート礫が人為的行為によるものかどうかは判断できない。



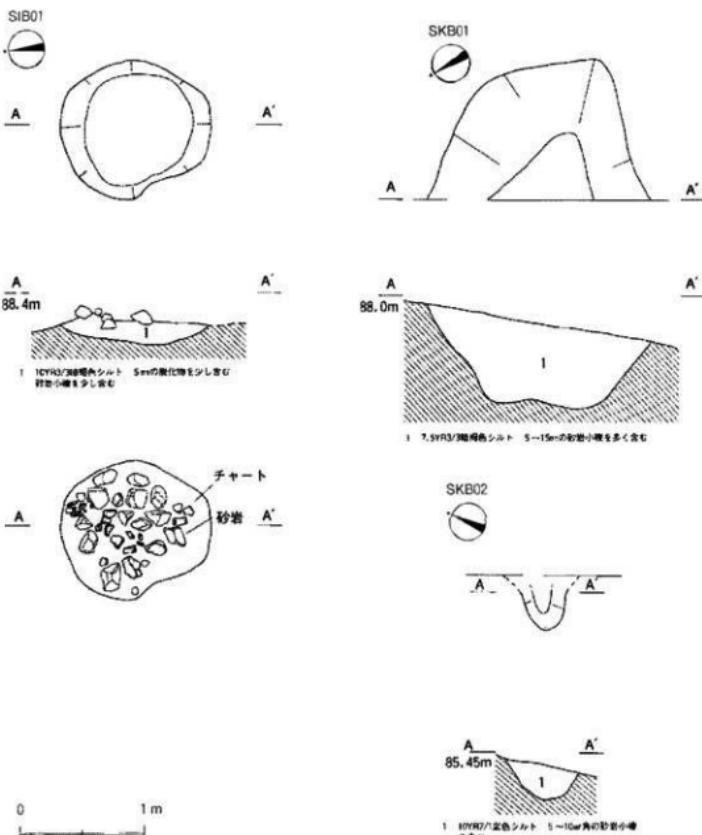
第133図 B地区西区I・II期遺構配置図 (S:1/200)

PB02（第135図）

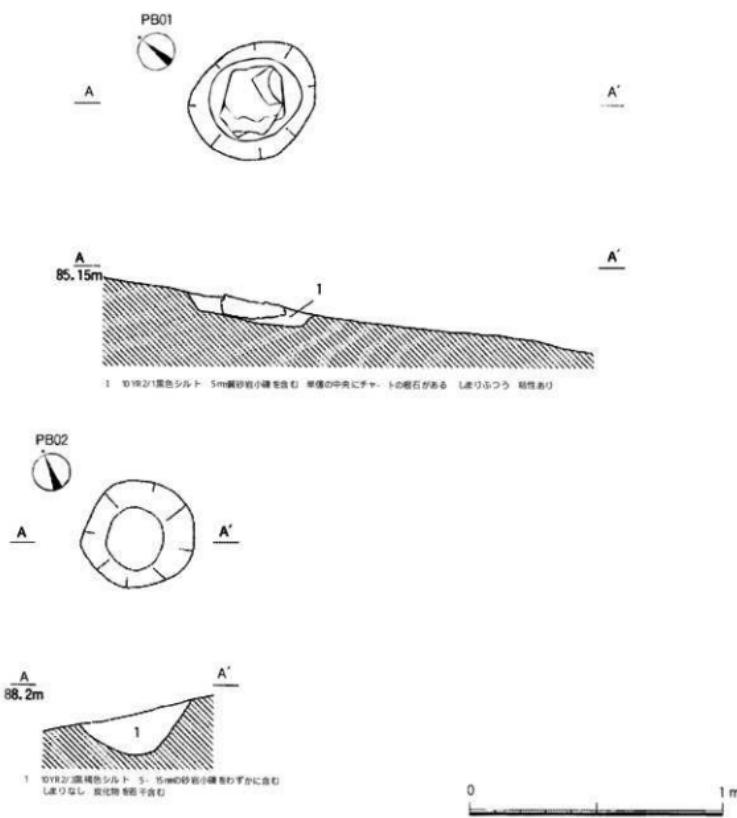
調査区の北端BP9 グリッドで確認したピット。平面形はほぼ円形で、その直径は0.43m程度である。深さは確認面から15cm程度認められる。壁面の立ち上がりが比較的緩やかで底面の範囲が狭くなっている。

遺物

V層中からは遺物が出土しているが、その量はきわめて少なく、破片ばかりで図示可能な資料は認められなかった。おそらく、遺物は調査区外の斜面下方に流失したものと思われる。



第134図 西区I期SIB01、SKB01、SKB02平面図・断面図 (S:1/40)



第135図 西区Ⅰ期PB01、PB02平面図・断面図 (S:1/20)

第2節 II期の遺構と遺物（縄文時代晩期）

西区

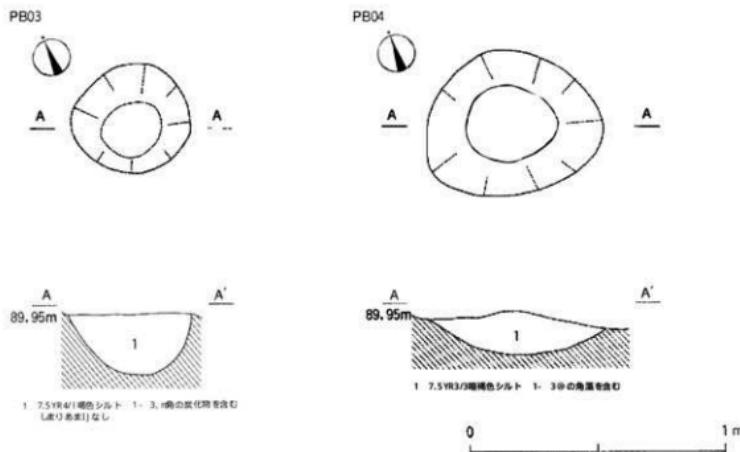
2基の遺構を確認したが、いずれもIV層を掘削して形成した遺構である。IV層中の遺構の存在は予想外のことであり、IV層掘削中に以下に述べる2基の遺構以外の遺構が存在した可能性もあるが、前述したI期の遺構と同様、遺構の存在は希薄であったと考えられる。IV層中からの遺物の出土は皆無であるため、遺構の帰属時期を特定できないが、層順からみてI期の遺構より後出することは明らかである。A区と比較すればIV層中で確認したII期の遺構すなわち、NRA01と同様の時期を想定するほかない。

PB03（第136図）

BM 9グリッドに位置する土坑で、確認面はIV層上面である。平面形は梢円形を呈し、壁面は緩やかである。平面形の規模は長軸0.69m・短軸0.57mで、主軸方向はN-71°-Wをはかる。深さは15cm前後である。埋土は単層で、細かな炭化物を含んだ上層が認められた。なお、遺物は出土しなかった。

PB04（第136図）

調査区東壁面で確認したピットで、確認面はIV層中である。平面形はほぼ円形を呈し、その規模は直径0.45m前後である。深さは約25cm認められ、埋土は単層で細かな炭化物が認められた。なお、遺物は認められなかった。



第136図 西区II期PB03、PB04平面図・断面図 (S:1/20)

第3節 III期の遺構と遺物（弥生時代末～古墳時代初頭）

東区

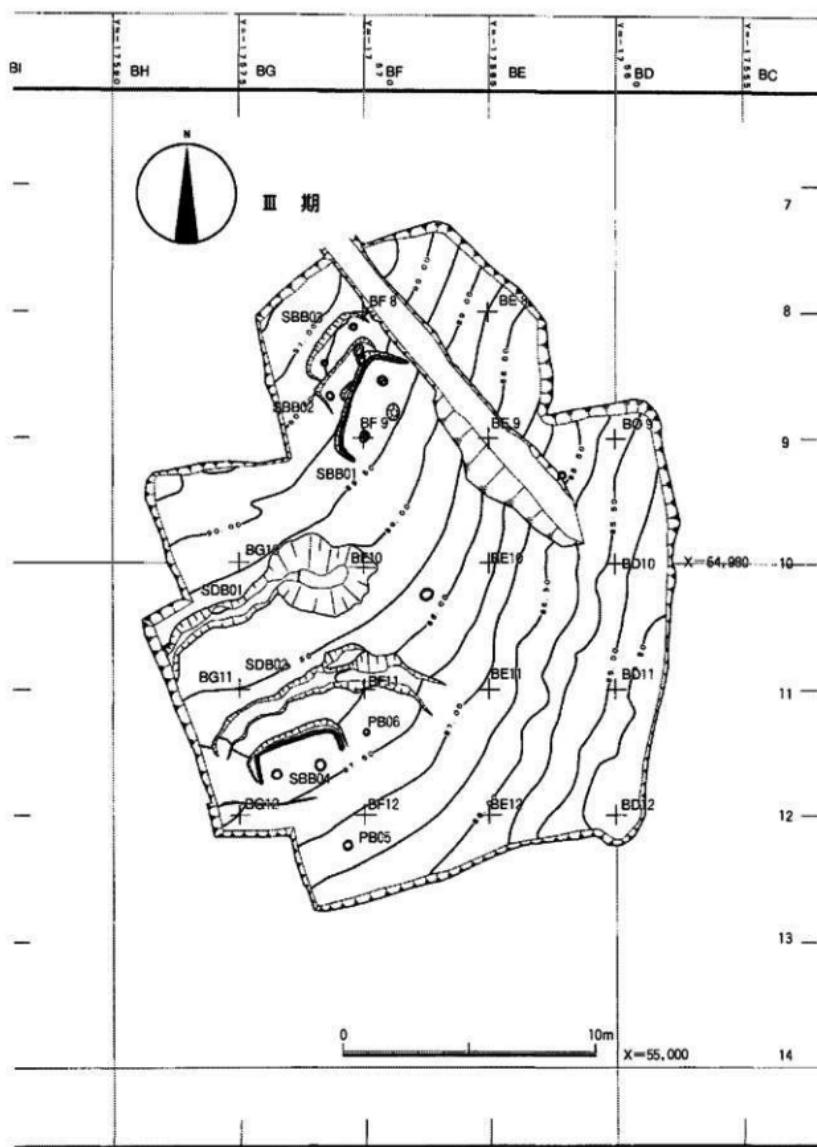
住居跡4軒、周溝2基、ビット4基を確認した。住居跡は南向きの斜面に形成され、等高線に直交して築成されている。分布は調査区の東面両端に分かれるが、調査区が狭いこともあり、規則性は認められない。SBB01～SBB03はほぼ同じ箇所に築成されているために重複関係が認められる。その後関係はSBB03→SBB02→SBB01であるが、それぞれの出土土器にはそれほどの年代差が認められないので、きわめて短期間のうちにこれらの3棟の住居跡は形成されたものと思われる。ビットは遺物が出土していないが、堆積状況が住居跡と類似するため住居跡とはほぼ同じ時期に形成されたと判断した。

SBB01（第138図）

BG8・BG9・BF8・BF9グリッドに位置する住居跡で、SBB02の東壁を削平して、砂岩岩盤を掘削して住居を形成している。平面形はコの字形を呈しているが、中央に位置する地床炉の位置からみて、谷側の平面形の大半は流失したものと考えられる。現存する平面形の規模の主軸長2.07m・幅4.42m・奥行き3.79mで、やや谷側に向かって幅が広くなる傾向が認められる。そのため隅角はやや丸みを帯びている。主軸方向はN-72°～Wをはかる。壁面は60°～70°の傾斜角をもち、壁高は最大で50cm前後の高さが認められる。壁面に沿って幅約10cm・深さ3cm前後の壁溝がめぐり、床面残存部位が途切れるに伴い壁溝も消失する。谷側の床面流失に伴い壁溝も流失したと考えられる。壁溝内には直径5～10cm前後のビットが10基認められた。深さは5～10cmまで様々だが、壁面を支持する板材を支える杭用ビットと考えられる。配置状況は2本1組のようにもみえ、その場合、南北両壁面に1カ所、山側壁面に3カ所という規則的配置が認められる。埋土からはII層に類似する上層とIII層に類似する上層の大きく2つの性格の上層が堆積し、前者は上層に、後者は下層に堆積していた。遺物は埋土から弥生時代末～古墳時代初頭の土器片31点が出土したが、図示可能な資料は2点にとどまった。いずれも破片資料だが器台A類（511）、壺があり山中式後期のものが中心である。主柱穴と想定されるビットは南北両壁面からそれぞれ0.6m程度内側に入った位置で2基確認した。いずれも位置的にみて主柱穴として想定可能な位置にある。ビットは2段に掘削されているため、上段の平面形と下段の平面形がやや異なる。上段は長軸0.5m・短軸0.4m程度の平面形を呈するのに対して、下段の平面形は直径15cm前後の円形を呈する。掘形と柱痕の関係に類似するが、堆積状況は柱痕が確認面では確認できない状況であることに疑問がある。深さは0.5m程度存する。地床炉は谷側に遺存する床面はほぼ中央で確認した。炉石は検出できなかったが、土層観察により住居廃絶に伴って、抜き取られたと考えられる。地床炉の平面形は稍円形を呈し、長軸0.66m・短軸0.49mをはかる。深さは5cm前後で、炉内の床面は被然して赤色化していた。また、床面は貼床などの施設ではなく、硬化面も認められなかった。

SBB02（第138図）

BE8・BF8グリッドに位置し、SBB01・SBB03と重複関係を有す。確認面は砂岩岩盤で、岩盤を掘削して住居を築成している。平面形はコの字形を呈し、谷側の平面形4/5程度をSBB01の築成に



第137図 B地区東区Ⅲ期遺構配置図 (S:1/200)

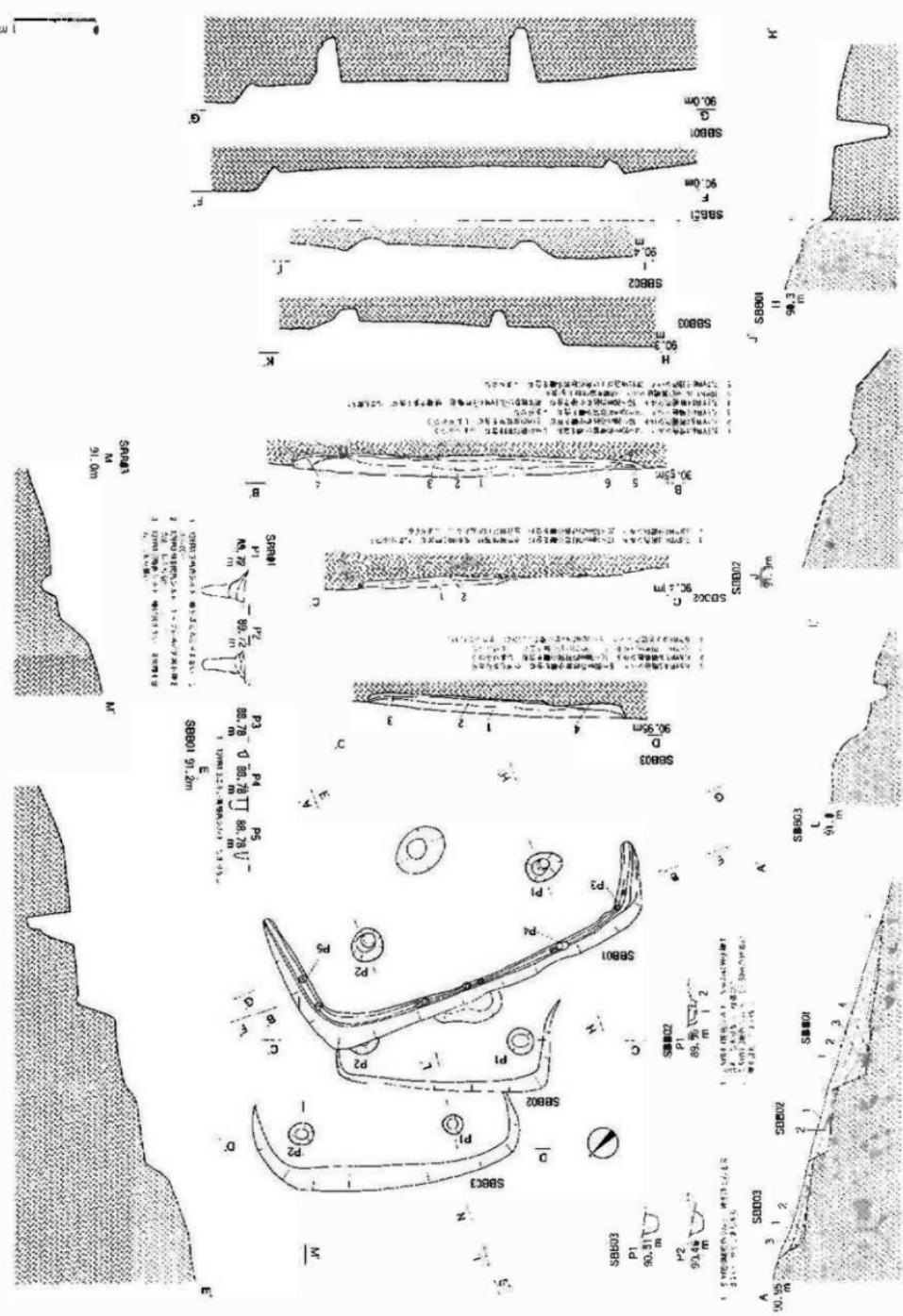
より失われている。本来の平面形は正方形にちかいものと想定されるが、その谷側部分1/2程度は流失したものと判断される。遺存する平面形の規模は主軸長0.99m・幅2.45m・奥行き2.38mをはかり、主軸方向はN-31°-Wを向く。壁面の傾斜角は60~70°程度で、壁面の周囲をめぐる壁溝は確認できなかった。床面は砂岩が露出しており、何らか施設があったかもしれないが、すでに流失した可能性が高い。柱穴は南北両壁面付近にそれぞれ1カ所ずつ計2基が位置することを確認した。位置からみて主柱穴と想定される。平面形は円形で、その規模は直径0.35m・深さ0.15m程度であるが、P2はSBB01に一部削平されている。地床炉は遺存する谷側床面の中央やや西よりの箇所で確認した。その平面形は楕円形を呈すると考えられるが、谷側1/2程度をSBB01の掘削によって失われているため、全形は不明である。現存する規模は長軸0.87m・短軸0.34mである。深さは15cm弱を有し、埋土は単層の褐色土が認められ、細かな炭化物が含まれていた。炉内の床面は被熱を受けて赤く変色していたが、強い被熱を受けた様子は観察できなかった。また、断面形状からみて北側の部分にわずかにくほむ部位が認められるため、この箇所に炉石が設置されていた可能性が高いと考えられる。遺物は埋土から12点の弥生時代末~古墳時代初頭の土器片が出土したが、いずれも細片で図示可能な資料はP2から出土した1点器台A類(512)のみである。512は住居跡の帰属時期を明らかにする重要な資料だが、全形が不明な点が残念である。おそらく、弥生時代~古墳時代初頭の器台の脚部片と思われる。

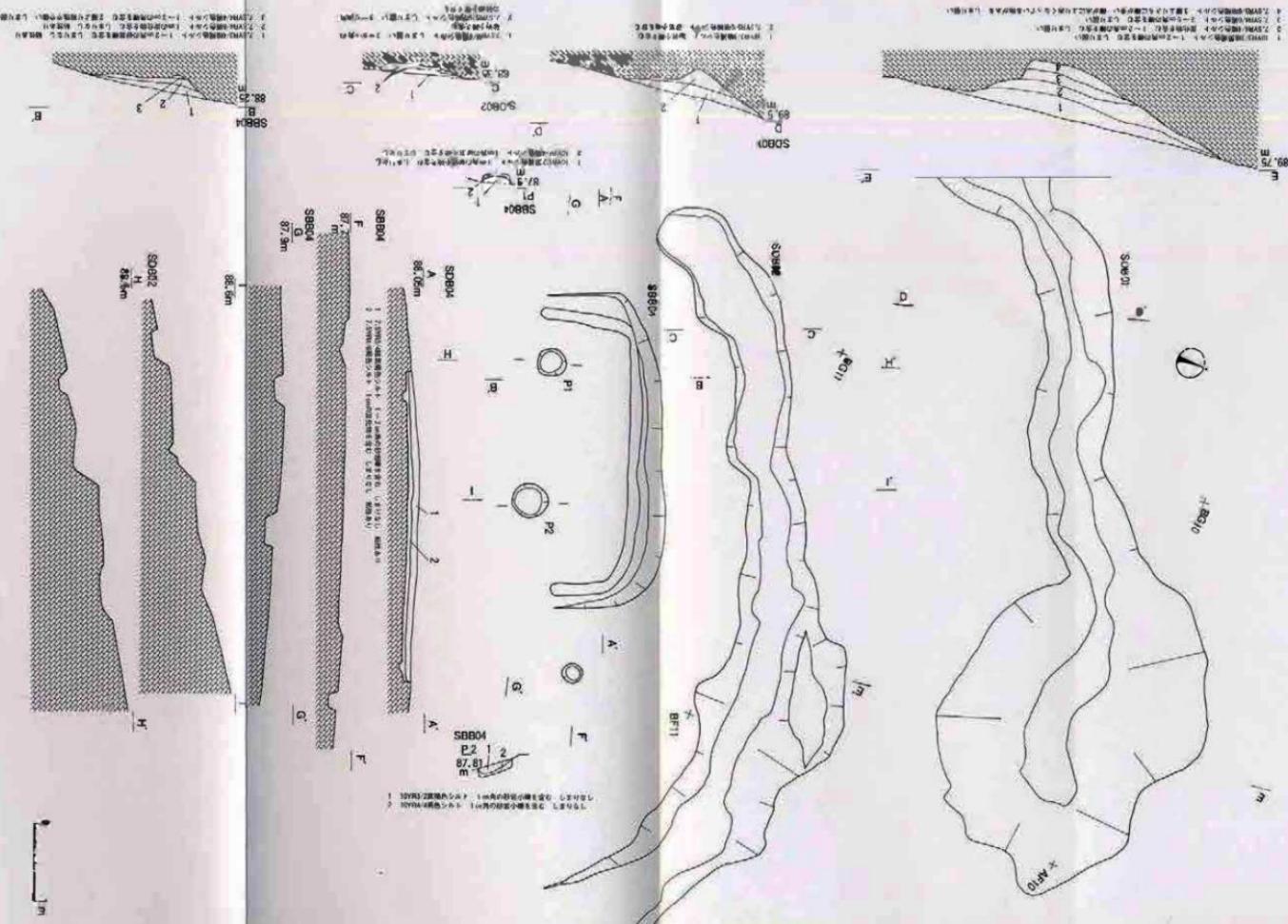
SBB03(第138図)

調査区内では最も高い箇所に占地する住居跡で、BF8グリッドに位置する。平面形はコの字形を呈し、遺存する谷側の南半分程度をSBB02の掘削に伴い失われている。その規模は主軸長1.13m・幅2.98m・奥行き2.69mで、主軸方向はN-53°-Wをはかる。山側の壁面の立ち上がりは比較的緩やかだが、南北両壁面はほぼ垂直にちかく0.15m程度の壁高を有する。壁溝は認められず、北側の隅角は明瞭なコーナーがなく、丸みを帯びている。柱穴は2基確認した。いずれも南北両壁面からやや中央よりの箇所で検出され、SBB01・SBB02の状況と類似する。その位置からみて、主柱穴と考えられる。平面形はほぼ円形で、その直径は0.25m前後で深さは0.2m前後である。床面は岩盤が露出する状況を呈し、貼床などの施設は確認できなかった。炉も確認できなかったが、SBB02との重複関係があるため、その有無については不明である。埋土はⅡ層に類似する土層が堆積し、土器の出土は、弥生時代末~古墳時代初頭の土器片が9点とごく少量の出土にとどまり、図示可能な資料は認められなかった。

SBB04、SDB02(第139図)

調査区の南端にある住居跡で、本調査で唯一屋外周溝が認められた住居跡である。グリッドはBE10・BF10グリッドに位置する。確認面はⅣ層上面で、床面においても砂岩岩盤に到達していない。平面形はコの字形で、谷側の平面形は2/3程度失われていると推測される。壁面は山側では比較的緩やかで、その壁高は20cm程度認められる。東西両壁面はそれより低くなり10cm程度の壁高しか認められず、南端では自然地形に連なる。壁溝は幅10cm・深さ5cm前後で壁面の内側をめぐるが、西側では壁面下端より内側に離れた位置にめぐる状況が認められる。現存する平面形の規模は主軸長





1.33m・幅3.95m・奥行き3.79mで、主軸方向はN-18-°Wをはかる。柱穴は2基確認し、直径40cm・深さ15cm前後のほぼ円形を呈するが、P1は断面形をみると床面が谷側に傾斜している。P1・P2はその位置が山側壁面から約0.8mちかく離れた位置にあることに疑問があるが、本住居跡の主柱穴の可能性が高いと考えられる。屋外周溝は山側壁面から北側へ約1m程度離れた位置で確認した。確認面は砂岩岩盤上で、この岩盤を掘削して周溝を形成している。その形状は山側壁面の外側を三日月状にめぐり、東西両端は収束せずに自然地形にそのまま連なる状況を呈している。とくに東端はその斜面下方には自然地形の谷状地形が連なるため、この地形を利用したかもしれない。幅は1m前後で、山側壁面との距離が西側から東側に向かうに従い広がる傾向が認められ、住居跡の周溝としては不定形な感がある。深さは10cm前後でⅡ層に類似する土層が堆積していた。遺物は弥生時代末～古墳時代初頭の土器片が住居跡の埋土から30点、周溝の埋土から4点出土したが、図示可能な資料は住居跡から出土した5点のみ（第146図）のみであった。515は、台付甕の脚部片と思われるが、本遺跡出土資料のなかでは、例外的な資料である。516は器台A類の口縁部片517、518は高杯A類の脚部片である。516～518は弥生時代終末期の資料と考えられ、住居跡の築成時期を示す資料とみられる。

SDB01（第139図）

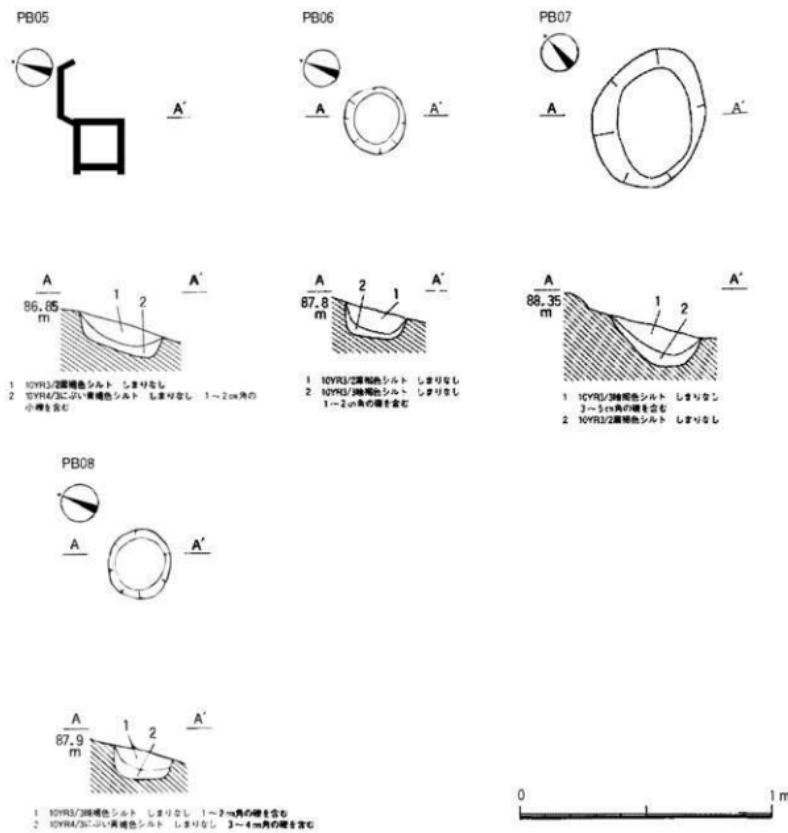
SBB04の屋外周溝（SDB02）の北側に位置する溝状遺構で東西方向に伸びる。BF9～BG10グリッドにかけて所在し、砂岩岩盤を掘削している。西端は調査区外へ伸びているため詳細は不明だが、東端はその幅を著しく広げて収束している。西端では幅が1m前後で推移していたものが、東端付近ではその幅が最大3.3mにも及ぶ。深さも同様に西端と東端では差異が認められ、西端では20～30cm前後であったものが東端では60cmを越える。本遺構は不定形な形態をもつ遺構で、その性格は不明である。東端が深くなっているため、排水用としての機能は果たし得ないと考えられる。むしろ、東端で集水した水を西端へ排水したのであろうか。埋土の状況はSBB01と類似して上層にⅡ層に起因する土層、下層にⅢ層に起因する土層が堆積しており、その埋没状況はSBB01と同様である。また、遺物は弥生時代末～古墳時代初頭の土器片が63点出土し、その年代観もほぼ住居跡出土土器と同様であるため、住居跡とともに本遺構が展開していた可能性が高く、住居跡と何らかの関係を有していたと考えられる。出土土器はB地区のなかでは、もっとも多く出土しているが、いずれも細片で全形がわかる資料が少ない。

PB05（第140図）

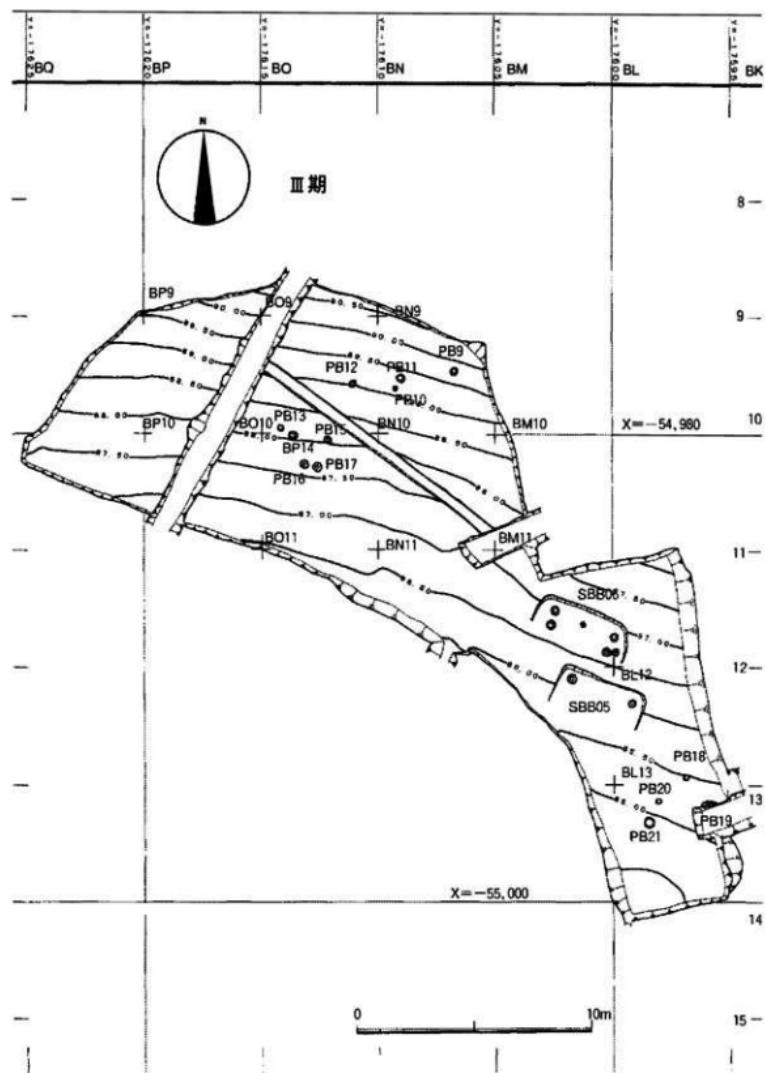
BF12グリッドにあり、調査区の最も南端で確認した遺構。平面形はほぼ円形で直径は35cm程度である。深さは0.15m程度認められるが、床面が谷側に傾斜している。埋土はⅢ層に起因する黒褐色土が堆積していたが、遺物は出土しなかった。確認面はⅣ層上面である。

PB06（第140図）

SBB04の東側で検出したピットで、BE11グリッドに位置する。Ⅳ層を掘削しており、その平面形は直径20cm強のほぼ円形を呈す。深さは0.1m程度と浅い。埋土はPB05と類似する黒褐色土が堆積し、遺物は出土しなかった。



第140図 東区Ⅲ期PB05、PB06、PB07、PB08平面図・断面図 (S:1/20)



第141図 B地区西区Ⅲ期遺構配置図 (S : 1/200)

PB07 (第140図)

SDB02の東側で確認したピットで、BE10グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、その規模は長軸0.59m・短軸0.47mをはかる。深さは約0.15mをはかるが、壁面の立ち上がりは緩やかである。埋土はⅢ層に類似する土層が認められた。

PB08 (第140図)

試掘Tr3の断面中で確認したピットで、砂岩岩盤を掘削している。BD9グリッドに位置する。平面形はほぼ円形で、直径は25cmである。深さは10cm程度の浅いもので、Ⅲ層に類似する土層が上層に堆積していたが、遺物はまったく出土しなかった。

Ⅲ層出土の遺物（東区）

条痕文系の甕A1類(529)、531、器台A類(532)を図化した。

西区

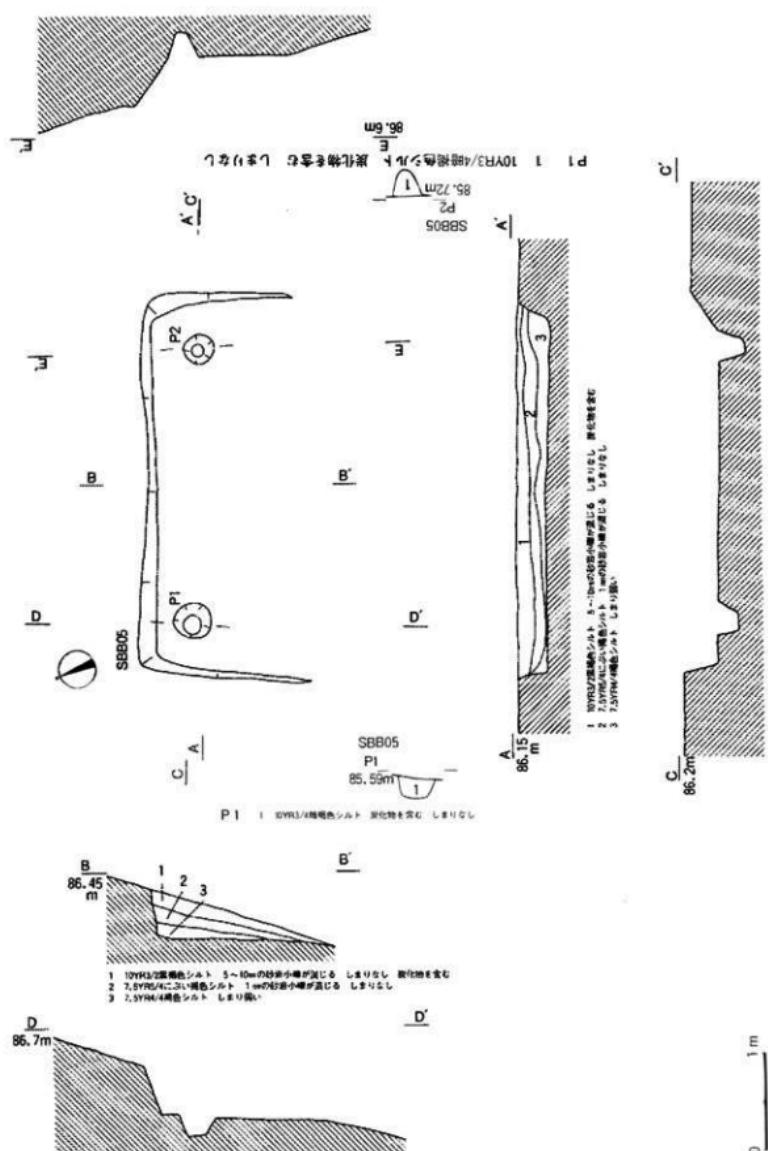
住居跡2棟・ピット13基を確認した。遺構に伴う遺物が少ないため、遺構の所属時期の判断が難しいが、遺物・堆積状況とも東区の同様の状況を呈することから、A地区遺構と同じく、弥生時代末～古墳時代初頭の遺構と判断した。住居跡は調査区の南端、すなわち斜面下方に位置し、ピットはそれより斜面上方に集中する傾向がある。ピットの配置は明確な規則性を認められないが、PB09・PB11とPB10・PB12は断定できないものの、流失した住居跡の柱穴のみが遺存したピットの可能性も残されている。

SBB05 (第142図)

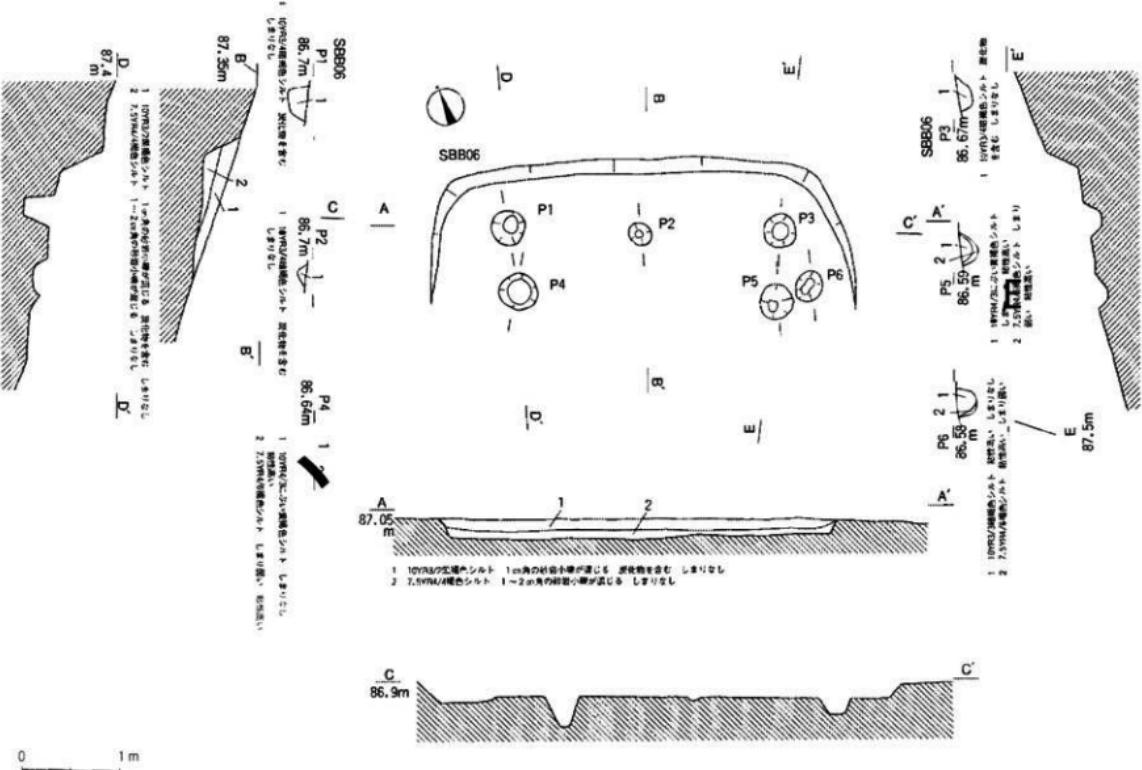
BL12・BK12グリッドで検出した住居跡で、IV層を掘削して形成している。平面形はコの字形を呈し、谷側1/2程度の平面形はすでに流失したものと考えられる。平面形の規模は主軸長1.63m・幅3.8m・奥行き3.31mをはかり、主軸方向はN-24°-Eを向く。壁溝は認められず、東西両隅角付近に柱穴を2基確認した。いずれも直徑0.3m強のほぼ円形を呈し、深さは0.25m程度である。山側壁面はほぼ垂直に立ち、0.45m程度の壁高を有する。床面上には炉・貼床などの施設は認められなかった。遺物は埋土から弥生時代末～古墳時代初頭の土器片が31点出土したが、いずれも細片で図示可能な破片は4点であった。

SBB06 (第143図)

SBB05の北側に隣接して形成されている住居跡で、BL11・BK11グリッドで検出した。確認面はIV層上面で、IV層を掘削して住居跡を形成している。平面形はコの字形で、谷側1/2程度の平面形を流失していると考えられる。平面形の規模は主軸長1.37m・幅4.25m・奥行き3.53mで、主軸方向はN-24°-Eをはかる。山側壁面は70°程度の角度で立ち上がり、0.35m程度の壁高が認められる。床面はほぼ平坦だが、貼床などの硬化面は認められなかった。また、壁面周囲をめぐる壁溝も確認できなかった。ピットは計6基を確認した。大きさはそれぞれ様々だが、P1・3～5がやや規模が大きい。



第14図 西区Ⅲ期SBB05平面図・断面図 (S : 1/50)



第143図 西区Ⅲ期SBB06平面図・断面図 (S:1/50)

く、直径0.4m弱の円形を呈するピットである。P 2・P 6は前述の4基のピットよりやや小さなピットであるが、その性格は不明である。おそらくP 1・3とP 4・5のいずれかが柱穴に相当するものと考えられる。埋土はⅢ層に起因する土層が堆積しており、遺物は弥生時代末～古墳時代初頭の土器片10点が出土したにすぎない。いずれも細片で、摩耗が著しい。おそらく、斜面上方から流入した土器片と考えられる。図示可能な資料は524の1点のみであった。

PB09（第144図）

BM 8 グリッドで確認したピットで、確認面はかなりの急傾斜地である。平面形はわずかに楕円形となり、その規模は長軸35cm・短軸30cm程度である。深さは15cm程度認められるが、断面形が半円形状である。埋土にはわずかに炭化物が含まれていた。

PB10（第144図）

PB09と同様、かなりの急傾斜地にあるピットで、BM 8 グリッドに位置する。その規模は直径20cm弱と小さく、平面形はほぼ円形を呈する。深さは10cm程度である。

PB11（第144図）

PB10に隣接して確認したため、立地状況は類似する。平面形は円形を呈し、その規模は直径45cm程度である。深さは20cm程度で壁面の立ち上がりが緩やかである。

PB12（第144図）

BN 9 グリッドで確認したピットで、深度が10cmに溝たない浅いピットである。平面形は長軸43cm・短軸35cmの楕円形を呈する。埋土は褐色土で細かな炭化物が含まれていた。

PB13（第144図）

BN 9 グリッドで確認したピット。平面形は円形で直径は約40cmをはかる。壁面の立ち上がりは比較的緩やかだが、底面は直径約15cmの平坦面をもつ。深さは15cm程度である。

PB14（第144図）

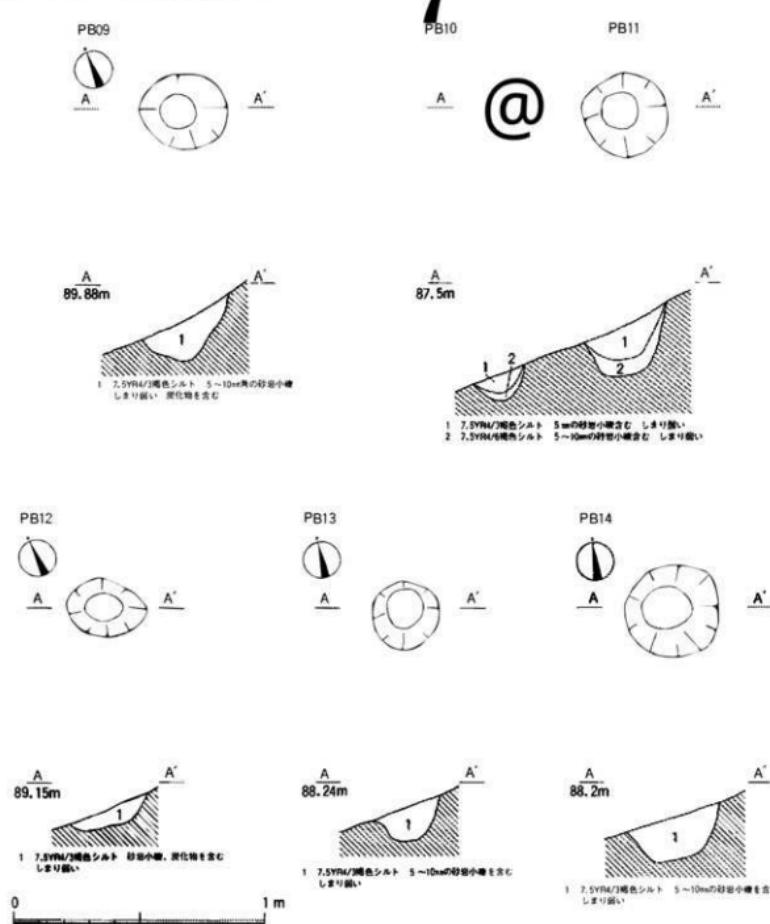
BN 9 グリッドに位置するピットで、平面形は直径40cm弱のほぼ円形を呈する。底面は緩やかな傾斜をもち、壁面の立ち上がりも緩やかである。

PB15（第145図）

やや斜面に形成されたピットで、BN10 グリッドに位置する。平面形はほぼ円形で、その直径は35cm程度である。深さは15cm程度認められる。壁面はなだらかである。

PB16（第145図）

BN10 グリッドで確認したピットで、その平面形はほぼ円形を呈する。直径は40m弱で、深さは20cm



第144図 西区Ⅲ期PB09、PB10、PB11、PB12、PB13、PB14平面図・断面図 (S:1/20)

程度である。壁面の立ち上がりが緩やかで、底面が不明瞭である。

PB17（第145図）

BN10グリッドで確認したピットで、平面形は直径40cm程度のはば円形を呈する。深さは20cm強が認められ、底面は比較的平坦である。

PB18（第145図）

比較的平坦な箇所に形成されたピットで、BK12グリッドに位置する。その平面形は円形を呈し、直径は25cmをはかる。深さは12cmと浅く、底面が不明瞭で、断面形は半円状である。

PB19（第145■）

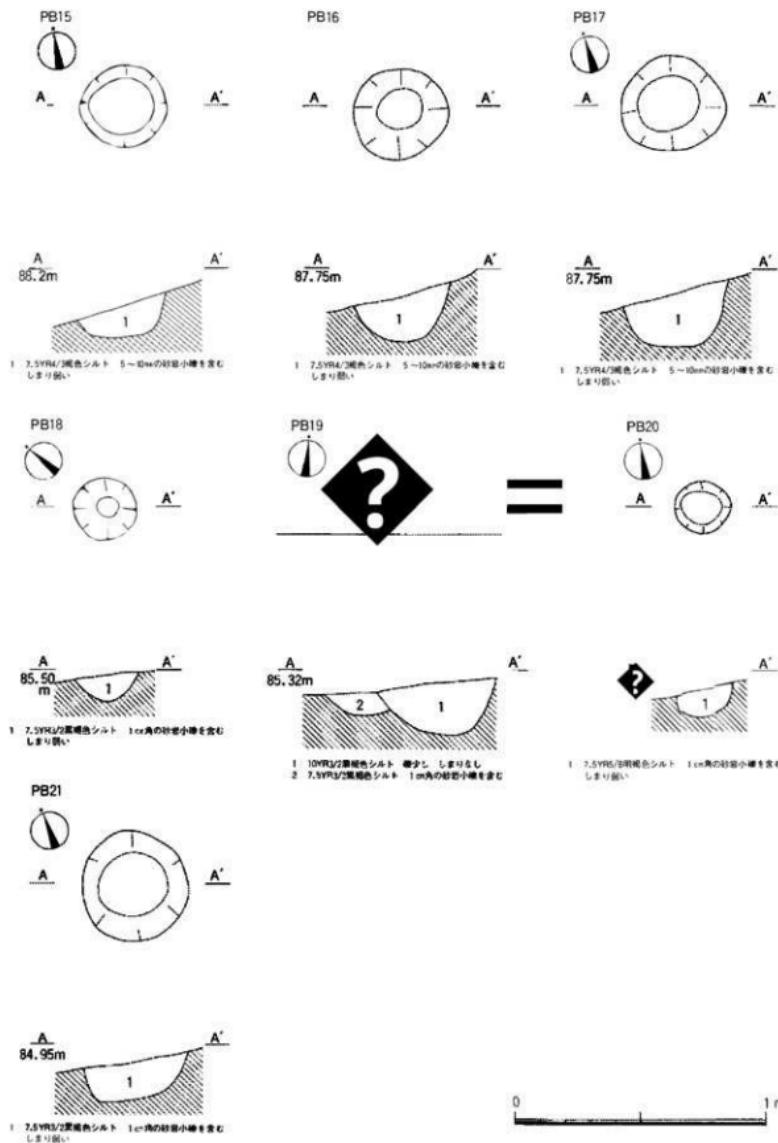
試掘Tr7の掘削に伴って確認したピットで、BK13グリッドに位置する。その平面形は楕円形を呈し、長軸は73cmをはかるが、短軸は試掘Trの掘削によって削平され不明である。断面形は2段に掘削されていることから、ピット2基の重複関係が想定されるが、全形が不明であるため、1基のピットとして報告する。深さは23cmが認められる。

PB20（第145図）

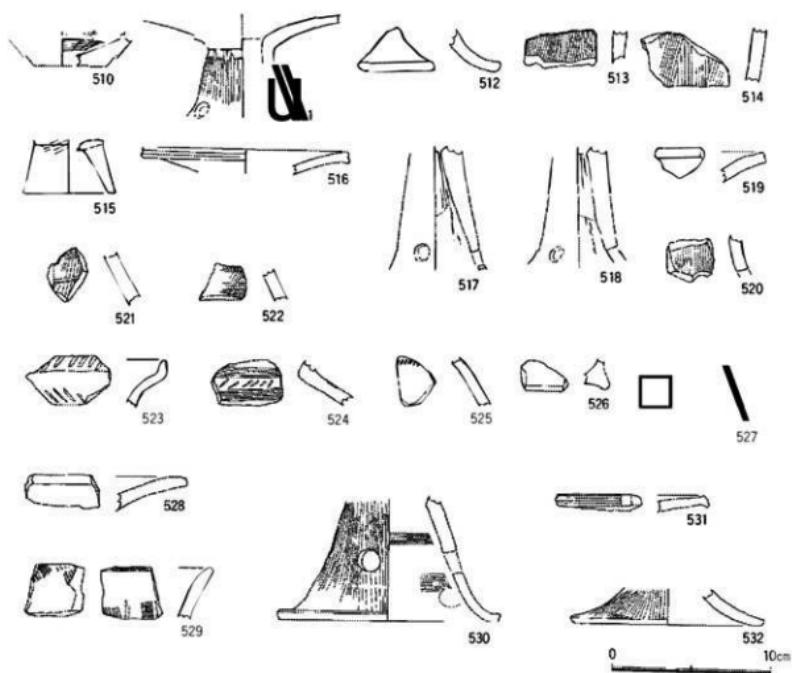
BK13グリッドで確認したピット。平面形は円形で、その直径は25cm程度小さい。深さは10cm程度で底面では直径20cm程度の平坦面をもつ。

PB21（第145図）

BK13の比較的平坦な箇所で確認したピット。平面形はほぼ円形を呈し、直径は40cmをはかる。深さは20cm弱で底面はやや平坦である。西側の壁面はほぼ垂直にちかいが、東側の壁面は緩やかである。



第145図 西区Ⅲ期PB15、PB16、PB17、PB18、PB19、PB20、PB21平面図・断面図 (S:1/20)



第146図 B地区SBB01、SBB02、SBB04、SBB05、SBB06、SDB01Ⅲ層出土遺物 (S : 1/3)

III層出土の遺物（西区）

器台A類（530）を図化した。

B地区出土の石器（第147図）

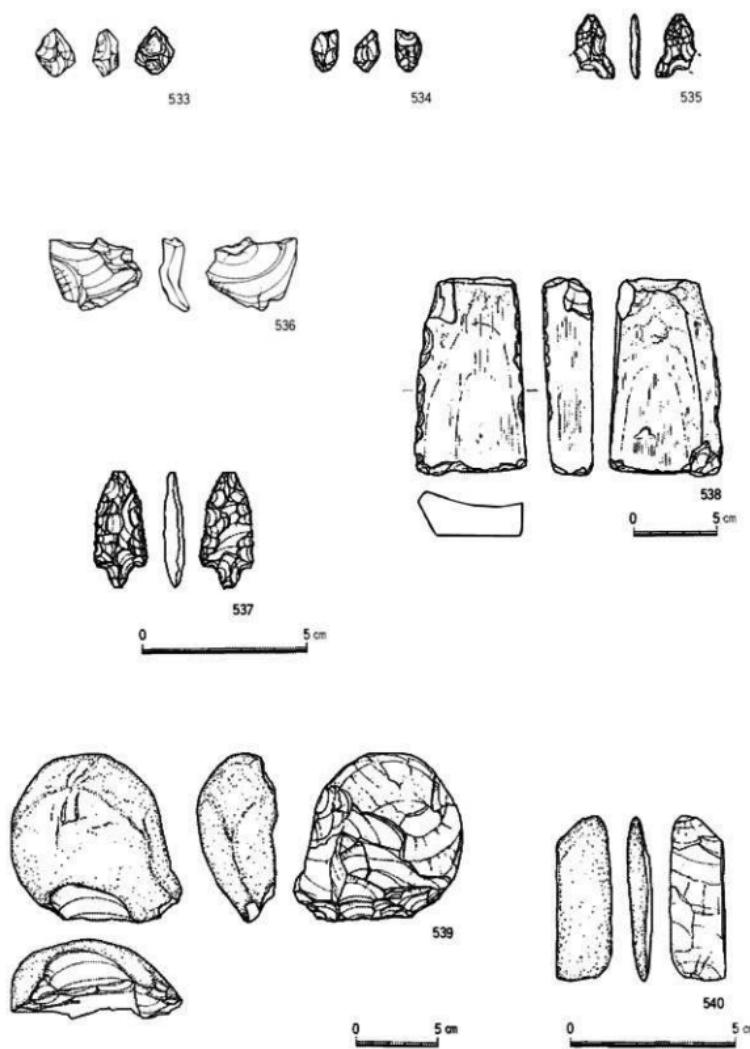
B地区の石器は8点図化した。A地区とは同じ時期の遺構と土器が検出されているので、その時期を石器の時期に当てる以下のようなになる。

縄文時代早期から後期の石器と推定できるのは、535の石鏃、536の剥片、539の礫器である。

535、536は下呂石製で、縄文時代後期の可能性がある。539の片刃礫器は早期の可能性がある。

537の有茎石鏃は縄文時代晚期から弥生時代中期にかけて出現する形態である。

538の砥石は砂岩製で、弥生時代以降の遺物であろう。



第147図 B地区Ⅲ期SBB04、SDB01IV、V層出土石器 (S:2/3、S:1/4)

第6章 自然科学分析

第1節 後平茶臼古墳出土埴輪の蛍光X線分析

三辻利一（大谷女子大学）

1. はじめに

土器の胎土研究に使用される分析法には、1) 同時多元素分析、2) 非破壊分析、3) 迅速分析の3条件は不可欠である。一般に、土器胎土の違いをみるには1元素の分析データだけでは困難である。複数の元素の分析データを必要とする場合が多い。そのためには1)の条件が必要である。さらに、土器の素材である粘土は岩石同様、ケイ酸塩でできており、酸やアルカリなどの化学処理で溶解することは困難である。本来、分析化学では試料を溶解して均質系にして分析作業にはいるが、この点で土器試料は理想的な分析試料ではない。それでも、X線やガンマ線のような透過性の電磁波を使った分光分析では機械的に試料を粉碎するだけで、分析することができる。これが2)の条件である。一般に、化学的に溶解しなくとも、機械的に破壊するだけで分析する方法を非破壊分析という。土器の場合、土器を粉碎して再度一定形状にかためた試料を作成し、分析する。1)、2)の条件は土器の分析法の必要条件として広く知られている。この条件を受け入れる分析法として蛍光X線分析法と放射化分析法がある。しかし、3)の条件はあまり知られていない。とくに、生産地が多いと考えられる土器の産地研究では、まえもって、生産地出土の土器を大量に分析することが必要である。さらに、歴史研究として、土器の分析データを生かそうとすると、消費地遺跡出土土器の分析データも大量に出さなければならない。万を越える試料の分析データが必要となろう。そのためには、迅速分析という条件が不可欠となる。この条件を受け入れようすると、分析元素は短時間の測定で高い蛍光X線強度が得られる元素に限られる。3)の条件は意外に知られていない。以上の3条件をすべて備えた分析装置が完全自動式の蛍光X線分析装置であり、最近では、再現性がよい分析データがえられる優れた装置が市販されている。筆者は30年近くにわたって、3台の装置を使用してきた。どの装置を使っても、共通した、再現性のよいデータを得るようにするために、測定された蛍光X線強度を岩石標準試料、JG-1の蛍光X線強度で標準化する方法を考案した。定量分析値はなにも、百分率で表示する必要はないのである。こうした考え方で、全国各地の窯跡出土須恵器を大量に分析した結果、K、Ca、Rb、Srの4元素がとくに有効に地域差を表示する元素であることを確かめた。いわば、須恵器の産地推定はこれら4元素を指紋元素として、消費地遺跡出土須恵器を生産地である窯跡または窯跡群へ結びつけることである。もちろん、そのためには、多数ある生産地を何らかの方法で整理しておかなければならぬし、また、生産地へ結びつけるための方法も開発しておかなければならぬ。須恵器の産地推定法はすでに出来上がっており、目下、その方法を使って須恵器の伝播、流通の研究が推進されている。須恵器の産地推定法は埴輪の胎土研究にも応用できる。本報告では、上記4元素の分析値を使って、後平茶臼古墳出土の埴輪の分析結果を解析した結果について報告する。

2. 分析方法

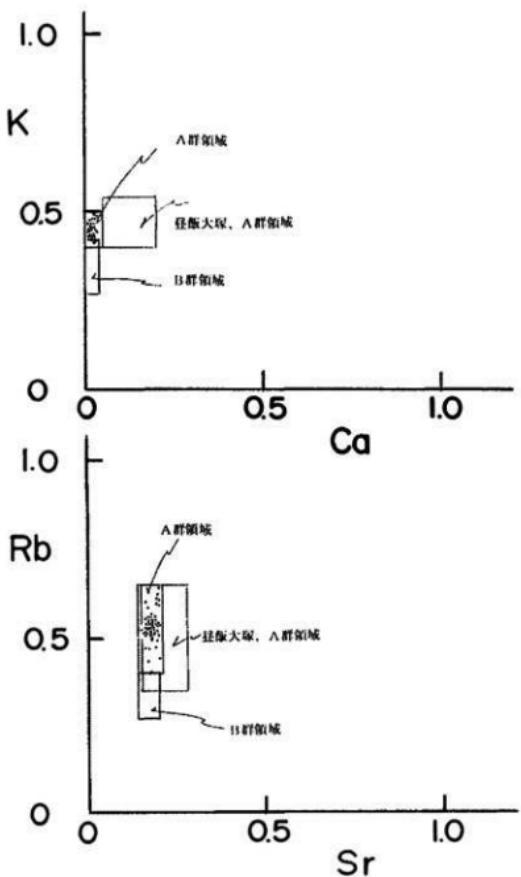
すべての埴輪片は表面を研磨してから、タングステンカーバイド製乳鉢の中で100メッシュ以下に粉碎された。粉末試料は塩化ビニル製のリングを枠にして高圧をかけてプレスし、コイン状の錠剤試料を作成した。錠剤試料は試料容器に固定され、48個の試料容器が自動試料交換機に並べられた。理学電機製の波長分散型、3210型機で分析した。

Naの測定にはTAP、K、Caの測定にはGeを、Fe、Rb、Srの測定にはLiFを分光結晶として使用した。分析値は同時に測定された岩石標準試料、JG-1による標準化値で表示した。

3. 分析結果

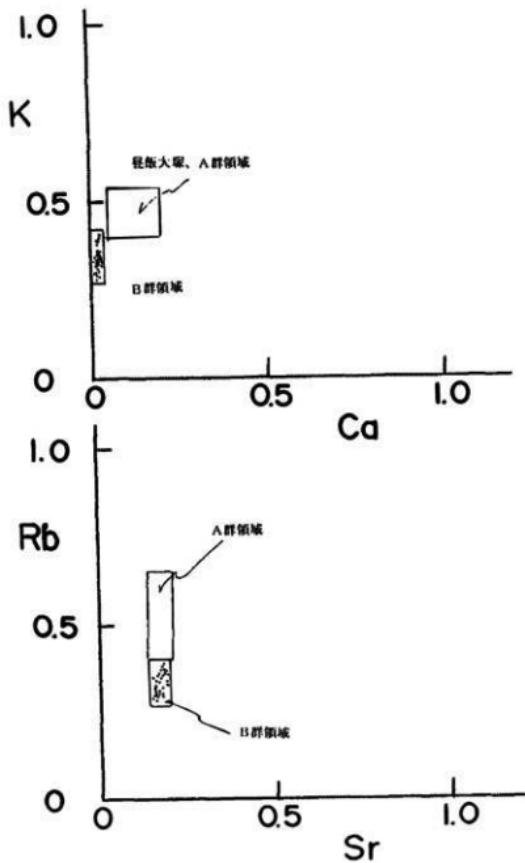
今回分析した試料の分析データを表1に示す。全体を眺めると、CaとNaが少ない胎土であることが容易にわかる。これは岐阜周辺の須恵器や灰釉陶器のもつ特徴である。このことから、後平茶臼古墳の埴輪は在地産の粘土を使って作った埴輪であることは容易に理解できる。問題は今回分析した埴輪胎土がすべて同一の粘土を素材として作ったものであるのか、それとも、複数の粘土を使って作った埴輪であるのかである。もし、複数の粘土を素材として埴輪を製作しておれば、それは複数の場所で埴輪を製作したことを意味する。一般に、分析データは数値のままで理解し難いので、図形化するのが普通である。筆者はK-Ca、Rb-Srの両分布図を作成している。ここでは埴輪の色彩観察の結果を取り入れ、赤色～橙色の埴輪をA群とし、白色～橙白色的埴輪をB群として、それぞれ、両分布図を作成した。図1には赤色～橙色のA群埴輪の両分布図を示す。よくまとまって分布しており、同一場所で製作した埴輪であることを示している。すべての点を包含するようにしてA群領域を長方形で描いた。長方形で描いたのは描きやすいためあって、そのため、領域自身には統計学的な意味はない。それでも他の群の埴輪の分布領域と比較する上には便利である。筆者はまず、このような分布図を作成し、他と比較した上で判別分析の母集団の選択を考えている。そうせずに、いきなり分析データから判別分析にはいると、理解し難いところが多々ある。土器類の生産地はそれほど多いので、一旦、両分布図を作成してから判別分析に入るほうが理解し易いのである。図2には白色～橙白色的B群の埴輪の両分布図を示す。B群の埴輪もよくまとまって分布しており、同一胎土の埴輪であることを示している。図2でも、図1と同様にしてB群領域を描いた。この結果を図1にいれてあり、A群領域とB群領域を比較してある。明らかに両者には分布に差違がみられる。A群の埴輪にはK、Rb量が多く、逆に、B群の埴輪胎土にはK、Rb量は少ないことがわかる。A群とB群の埴輪胎土は異なるのである。つまり、A群とB群の埴輪は別々の場所で作られた埴輪であることを示している。この場合にはそれが外見上の色彩にもでていたわけである。一般に土器胎土の色彩はFeの含有量と焼成条件（酸化状態での焼成か、還元状態での焼成か）に関係する。表1をみると、A、B両群の埴輪のFe量にはとくに差違はない。したがって、この色彩の差違は胎土中に含有されているFe量には無関係であり、焼成の条件が異なっていたことを明示していると考えられる。A群とB群の埴輪は素材粘土が異なっていたばかりか、焼成条件も異なっていたのである。このことから、両埴輪の製作場所は別々であったことが明らかであろう。ただし、K、Rb以外の因子は殆ど同じであり、素材粘土の化学特性は類似していると考えられるので、同一地域内の別場所での製品と考えるのが妥当であろう。そして、A群の埴輪が多いところから、A群が主成分埴輪であり、この古墳の被葬者に直結する人々によって

作られた埴輪であると推察される。B群埴輪は第2近親者の製作による埴輪である可能性がある。このことについてはさらに検討が必要であり、今後の研究の発展が期待される。なお、今■は古墳における埴輪の配置に関する情報がなかったので、埴輪胎土と配置の関連については考察しなかった。また、■1には、大垣市の畠飯大塚古墳の主成分埴輪の分布領域を比較のために描いてある。Ca、Sr量が明らかに多く、後平茶臼古墳の埴輪胎土とは明らかに異なることがわかる。このように、古墳ごとによる埴輪の胎土の比較研究も今後必要となるであろう。大垣、岐阜、名古屋周辺の古墳出土埴輪胎土の比較研究は意外な成果をもたらす可能性がある。そのためには、数千点といった大量の埴輪小



第148図 A群埴輪の両分布図

片の分析が必要となるだろう。ここにも、迅速分析という条件が大きなウエイトを占めることが理解できるであろう。埴輪の胎土研究の今後の方向である。



第149図 B群埴輪の両分布図

第7表 後平茶臼古墳出土埴輪の分析データ

ブリット 分析番号	基上番号	色調	K	Ca	Fe	Re	Si	Na	分類結果	荷物番号	分類
S201A	647	152	白	0.398	0.200	1.400	0.365	0.193	0.095	B	
	648	155	赤	0.479	0.293	1.760	0.382	0.174	0.039	A	
	649	431	赤	0.454	0.022	1.730	0.385	0.166	0.044	A	367 円筒形A集
	650	276	褐色	0.451	0.075	1.450	0.563	0.181	0.050	A	
	270	褐色	0.494	0.074	1.620	0.529	0.175	0.029	A		
	651	370	褐色	0.431	0.075	1.480	0.442	0.199	0.047	A	
	652	374	褐色	0.462	0.075	1.870	0.512	0.166	0.032	A	
	654	373	褐色	0.409	0.027	1.500	0.404	0.181	0.034	A	
	655	赤	0.351	0.021	1.740	0.302	0.169	0.034	A		
	656	227	褐色	0.327	0.025	1.530	0.352	0.153	0.032	B	
S201B	657	295	褐色	0.351	0.029	1.600	0.337	0.187	0.036	B	
	658	295	赤	0.454	0.023	1.440	0.551	0.191	0.049	A	
	659	362	赤	0.449	0.021	1.240	0.518	0.195	0.043	A	
S200B	660	362	赤	0.455	0.021	1.270	0.506	0.198	0.056	A	
	661	78	褐色	0.381	0.022	1.470	0.364	0.174	0.036	B	
	662	口	0.358	0.019	1.310	0.380	0.178	0.041	B		
	663	白	0.344	0.023	1.640	0.333	0.193	0.038	B		
	664	褐色	0.457	0.022	1.440	0.521	0.178	0.044	A		
	665	褐色	0.451	0.023	1.370	0.516	0.193	0.044	A		
	666	褐色	0.456	0.024	1.480	0.526	0.175	0.045	A		
	667	褐色	0.440	0.024	1.430	0.527	0.179	0.043	A		
	668	褐色	0.332	0.022	1.390	0.311	0.151	0.024	B		
	669	褐色	0.450	0.022	1.430	0.516	0.181	0.044	A		
	670	褐色	0.437	0.023	1.380	0.538	0.167	0.045	A		
	671	褐色	0.445	0.025	1.290	0.542	0.169	0.051	A		
	672	褐色	0.432	0.025	1.430	0.544	0.177	0.048	A		
	673	褐色	0.447	0.024	1.410	0.533	0.168	0.044	A		
	674	褐色	0.440	0.026	1.580	0.558	0.204	0.042	A		
	675	赤	0.443	0.020	1.280	0.593	0.208	0.037	A		
	676	口	0.357	0.025	1.540	0.361	0.195	0.030	B		
	677	赤	0.446	0.016	1.490	0.539	0.180	0.045	A		
	678	褐色	0.414	0.027	1.590	0.358	0.195	0.035	B		
	679	褐色	0.421	0.023	1.380	0.400	0.181	0.032	A		
	680	褐色	0.429	0.023	1.390	0.511	0.180	0.045	A		
	681	白	0.333	0.018	1.280	0.310	0.166	0.025	B		
	682	褐色	0.355	0.020	1.510	0.323	0.183	0.027	B		
	683	赤	0.425	0.023	1.130	0.524	0.169	0.045	A		
	684	赤	0.442	0.021	1.440	0.508	0.169	0.044	A		
	685	赤	0.453	0.023	1.410	0.543	0.187	0.039	A		
	686	赤	0.417	0.023	1.290	0.545	0.183	0.042	A		
	687	赤	0.444	0.023	1.400	0.515	0.185	0.050	A		
	688	赤	0.429	0.023	1.380	0.504	0.166	0.043	A		
	689	赤	0.441	0.023	1.280	0.467	0.158	0.029	A		
	690	赤	0.456	0.023	1.170	0.504	0.178	0.035	A		
	691	赤	0.392	0.021	1.350	0.553	0.196	0.030	B		
	692	赤	0.427	0.024	1.270	0.514	0.184	0.050	A		
	693	赤	0.455	0.025	1.420	0.549	0.185	0.051	A		
	694	赤	0.416	0.023	1.170	0.524	0.178	0.047	A		
	695	赤	0.443	0.023	1.260	0.514	0.176	0.054	A		
	696	赤	0.447	0.024	1.420	0.499	0.184	0.044	A		
	697	赤	0.457	0.019	1.230	0.598	0.204	0.047	A		
	698	白	0.332	0.018	1.380	0.525	0.192	0.042	B		

グリッド	分析番号	基上番号	色調	K	Ca	Fe	Re	Si	Na	分類結果	荷物番号	分類
	699	780	赤	0.451	0.022	1.490	0.527	0.165	0.054	A		
	700	701	赤	0.429	0.025	1.290	0.518	0.172	0.044	A		
	702	703	赤	0.449	0.024	1.300	0.519	0.189	0.051	A		
	704	705	赤	0.429	0.021	1.370	0.505	0.178	0.048	B		
S203C	704	220	褐色	0.408	0.021	1.780	0.508	0.160	0.035	A		
	705	912	赤	0.344	0.016	1.360	0.396	0.178	0.032	B	441 円筒形A集	
	707	918	褐色	0.346	0.025	1.250	0.357	0.169	0.036	B	435 円筒形A集	
	708	709	褐色	0.397	0.028	1.450	0.386	0.183	0.044	B		
	710	711	赤	0.472	0.027	1.380	0.518	0.162	0.032	B		
	712	713	褐色	0.328	0.021	1.310	0.340	0.148	0.020	B		
	713	714	赤	0.425	0.019	1.720	0.526	0.153	0.036	A		
	715	716	褐色	0.340	0.021	1.300	0.335	0.171	0.031	B		
	717	718	赤	0.457	0.021	1.340	0.521	0.180	0.047	A		
	719	720	褐色	0.329	0.021	1.330	0.376	0.171	0.031	B		
	721	722	褐色	0.329	0.021	1.490	0.296	0.162	0.031	B		
	723	724	口	0.296	0.019	1.490	0.290	0.163	0.030	B		
	725	726	赤	0.465	0.024	1.430	0.519	0.163	0.056	A		
	727	728	褐色	0.327	0.021	1.380	0.369	0.167	0.034	B		
	729	730	赤	0.482	0.022	1.410	0.534	0.188	0.044	A		
	731	732	褐色	0.368	0.022	1.390	0.326	0.171	0.035	B		
	733	734	赤	0.445	0.022	1.330	0.542	0.198	0.054	A		
	735	736	赤	0.464	0.022	1.450	0.525	0.190	0.049	A		
	737	738	褐色	0.366	0.022	1.360	0.518	0.181	0.038	B		
	739	740	赤	0.443	0.024	1.220	0.644	0.229	0.045	A		
	741	742	赤	0.484	0.023	1.400	0.536	0.196	0.050	A		
	743	744	赤	0.457	0.025	1.430	0.569	0.188	0.042	A		

第2節 赤みを帯びた粘土質物の成分分析

小村美代子 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

後平茶臼古墳は、富加町大平賀地区内に所在する5世紀末築造と考えられる円墳である。調査では、この古墳の堅穴系横口式石室内の床石に赤みを帯びた粘土質物が観察された。

ここでは、この粘土質物について分析を行い、その成分について検討した。

2. 試料および方法

分析は、①蛍光X線分析、②X線回折分析、③顕微鏡観察を行った。

試料は、堅穴系横口式石室内床石に付着した赤みを帯びた粘土質物である。

① 蛍光X線分析

蛍光X線分析では、赤みを帯びた粘土質物の定性分析を行った。測定試料は赤色部にセロハンテープを押付けて採取した。分析は、セイコー電子工業(株)製のエネルギー分散型蛍光X線分析計SEA-2001Lである。装置の仕様は、X線発生部の管球はロジウム(Rh)ターゲット、ベリリウム(Be)窓、X線検出器はSi(Li)半導体検出器である。測定条件は、測定時間300秒、照射径10mm、電流63nA、電圧50kV、試料室内は真空である。

② X線回折分析

X線回折分析では、赤みを帯びた粘土質物に含まれる鉱物の同定を行った。赤色部を削って採取し水で溶き、懸濁液をプレパラートに数滴重らして乾燥させ試料を作成した。分析装置は、リガク(株)製のX線回折装置MiniFlexである。測定条件は、X線発生部の管球は銅(Cu)、電流15mA、電圧30kV、走査モードは連続、スキャンスピード5.000°/min.、サンプリング幅0.020°である。

③ 顕微鏡観察

顕微鏡観察では、特徴的なベンガラである「パイプ状ベンガラ」の有無を調べた。②と同じプレパラートで、赤色物の形状を観察した。

3. 結果

① 蛍光X線分析

第148図には、堅穴系横口式石室内床石から採取した赤みを帯びた粘土質物の蛍光X線スペクトル図を示す。また、第7表には、試料の詳細、検出された元素などを示す。

検出された元素は、鉄、アルミニウム、ケイ素、イオウ、カリウム、カルシウム、チタン、亜鉛がある。

なお、ロジウム(Rh)のピークはX線発生部の管球(ロジウムターゲット)に由来するものであり、試料に含まれる元素とは関係がない。また、イオウ(S)はセロハンテープに含まれる元素である。

第8表 石室床石の付着粘土質物から検出された元素

[元素記号] Al:アルミニウム、Si:ケイ素、S:イオウ、K:カリウム、Ca:カルシウム、Ti:チタン、Fe:鉄、Zn:亜鉛

遺物	出土位置	検出された元素
床石	堅穴系横口式石室内	Al, Si, S, K, Ca, Ti, Fe, Zn

② X線回折分析

図2には、堅穴系横口式石室内床石から採取した赤みを帯びた粘土質物のX線回折スペクトル図を示す。

石英(quartz)・含水珪酸塩鉱物(silhydrite)・白雲母(muscovite)・粘土鉱物の一種であるカオリナイト(kaolinite)などが検出された。鉄に関係するピーク(赤鉄鉱・hematiteや磁鉄鉱・magnetite)は検出されなかった。

第9表 石室床石の付着粘土質物から検出された鉱物

鉱物名	化学式	和名
Silhydrite	3SiO ₂ ·H ₂ O	シルハイドライト
Muscovite	KAl ₂ (Si ₃ Al)O ₁₀ (OH,F) ₂	白雲母
Quartz	SiO ₂	石英
Kaolinite-montmorillonite	Al ₂ Si ₂ O ₅ (OH) ₄ -(Na,Ca) _{0.3} (Al,Mg) ₂ SiO ₁₀ (OH) ₂ ·nH ₂ O	カオリナイトーモンモリロナイト

③顕微鏡観察

不定形な赤色物が確認されたが、パイプ状ベンガラは観察されなかった。

4. 考察

一般的に赤色顔料には、ベンガラ(Fe₂O₃)、水銀朱(HgS)、鉛丹(PbO₂)が知られている(市毛、1984)。水銀朱は主成分元素が硫化第二水銀からなる辰砂(cinnabar、水銀朱)を磨り潰して作られるものを言う。

ベンガラは狹義には酸化第二鉄(赤鉄鉱、Fe₂O₃)の顔料をさすが、広義には3価の鉄が発色の原因となる化合物の顔料の総称として使われている。ベンガラは原料として天然の赤鉄鉱を用いる場合のほか、沼沢地などに沈積する含水水酸化鉄を焼いて得た赤鉄鉱を用いる場合があり、これを含めればその産出地は全国無数にあることになる(成瀬、1998)。ベンガラの中には極めて定形なパイプ状を呈するものがあり、一般にパイプ状ベンガラと呼称されている。このベンガラは中空円筒状で直径約1.2μm程度、長さはおよそ100μm以下である。最近の研究でこのパイプ状ベンガラは、崖端の湧水部や池中に沈殿した、糸状体を形成する鉄細菌の生成物を燃焼した結果得られたものだと分かってきた。鉄細菌は水中に溶存する2価の鉄を3価の鉄とし、これを体の内外に沈積する能力を持つ。ごく普通に観察される鉄細菌で鞘細胞を形成する種類にLeptothrix sp. やSiderococcus sp. がある。前者は糸状体の幅はほとんど一定で、鞘に鉄酸化物を沈着し、赤褐色の錐状集落を形成する。この沈殿物を乾燥、燃焼すると赤色で、鉄の含有量が極めて高く、遺跡から出土しているパイプ状ベンガラ粒子

と同形状の粒子が得られる（岡田、1997）。

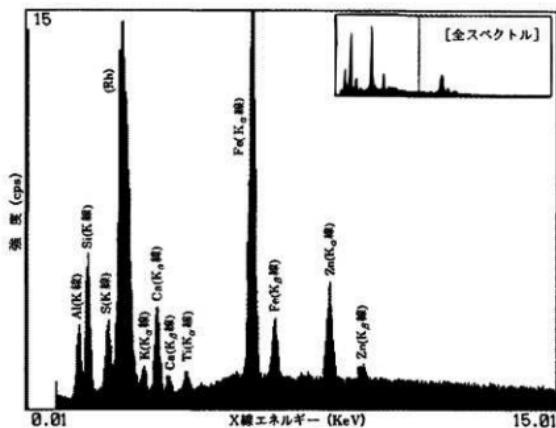
赤みを帯びた粘土質物は、水銀が検出されず鉄が高率で検出された。なお、顕微鏡観察より赤みを呈すのは、鉄酸化物からなる赤色物と考えられる。

今回分析した赤みを帯びた粘土質物は、今まで分析したベンガラより褐色の色味が強く、床石には類似した褐色の粘土が付着していたことから、この赤みが粘土にもとから含まれることも考えられ、ベンガラとは断定できない。

ベンガラは、広義には3価の鉄が発色の原因となる化合物の総称なので、一口に赤といってもその色は様々である。このため、ベンガラの有無を判断するには赤色を呈する部分と他の部分の比較も重要な要素と思われる。埋葬施設や祭祀用具、土器の内側など、他と比べて明らかに赤みが強ければ、人為的な要素が強まり、意図的に赤を使用したと考えられる。床石を肉眼観察すると、石の全面でなくある一定面、赤みを帯びた粘土質物が付着していることから、ベンガラの可能性はあると考えられる。この床石の出土状況についてどの面が上であったか検討する価値がある。また、この赤みを帯びた粘土質物がもとから赤みを帯びた粘土であるか判断するには、古墳もしくは周辺地域の土壤観察を行うと良いと思われる。

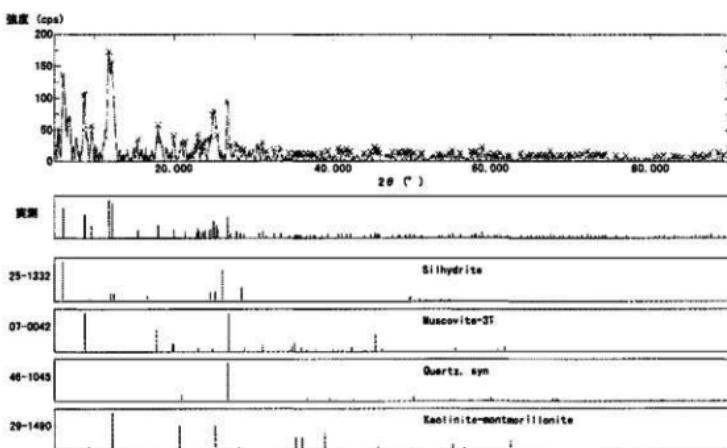
引用文献

- 市毛 鹿 (1998)「新版 朱の考古学」、考古学選書、雄山閣出版、42~48p
成瀬正和 (1998)「縄文時代の赤色顔料 I -赤彩土器-」、考古学ジャーナル438、10p
岡田文男 (1997)「パイプ状ベンガラ粒子の復元」、日本文化財科学会、第14回大会研究発表要旨集、38、39p



〔元素記号〕 Al: アルミニウム, Si: ケイ素, S: イオウ, K: カリウム, Ca: カルシウム, Ti: チタン, Fe: 鉄, Zn: 亜鉛,
Rh: ロジウム (X線管球ターゲットから)

第150図 赤みを帯びた粘土質物の蛍光X線スペクトル図



〔英名〕 Silhydrite: シルハイドライト= Muscovite: 白雲母, Quartz: 石英, Kaolinite-montmorillonite: カオリナイト=モンモリノサイト

第151図 赤みを帯びた粘土質物のX線回折スペクトル図

第3節 後平遺跡出土炭化材の樹種同定

植田弥生（パレオ・ラボ）

1. はじめに

当遺跡の焼失住居跡SBA03から出土した炭化材32試料とSBB01の1試料、そしてSX03（SZA05より流失した炭化材）・SZA05から出土した2試料の樹種同定結果を報告する。住居跡SBA03とSBB01は、山中式終末期～廻間I式の土器を随伴することから、弥生時代末から古墳時代初頭の住居跡と推定されている。この時期に当地で利用されていた住居建築材の樹種を調査した事例はあまり多くないため、木材利用を明らかにする目的で樹種同定が実施された。またその使用樹種からは、当時周辺に成立していた森林の様相をも類推することが可能である。土坑SX03（SZA05）とSZA05は遺物を伴わないため時期は不明であるが、発掘状況から中世以降と推定されている。

2. 炭化材樹種同定の方法

先ず、炭化材の横断面（木■）を実体顕微鏡で観察し、分類群のおおよその目安をつける。アカガシ亞属・コナラ節・クヌギ節・クリ・シノキ族などは横断面の管孔配列が特徴的であり、実体顕微鏡下の観察で同定可能であるが、それ以外の分類群については3方向の破断面（横断面・接線断面・放射断面）を走査電子顕微鏡で観察し同定を決定した。前述の分類群でも、年輪幅の狭いぬか目や逆に年輪幅の広い試料は実体顕微鏡下では誤同定の恐れがあり、このような試料については走査電子顕微鏡で確認した。走査電子顕微鏡用の試料は、3断面を5mm角以下の大さに整え、直径1cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し、その周囲に導電性ペーストを塗る。試料を充分乾燥させた後、金蒸着を施し、走査電子顕微鏡（日本電子（株）製 JSM-T100型）で観察と写真撮影を行った。

3. 結果

表1に樹種同定結果の一覧を、表2に各遺構ごとに検出された分類群を示した。
 弥生時代末から古墳時代初頭の焼失住居跡SBA03の32試料からは、針葉樹のヒノキ10点・ヒノキ属3点・針葉樹樹皮3点、常緑広葉樹のシノキ属14点、落葉広葉樹のクリ・サクラ属・キハダが各1点であった。試料番号100からは、針葉樹樹皮とサクラ属が検出されたので、検出樹種の点数は試料数より1点多くなっている。SBA03の炭化材樹種構成は、常緑広葉樹のシノキ属と針葉樹のヒノキまたはヒノキ属が優占出土し、落葉広葉樹はクリ・サクラ属・キハダの3分類群が検出されたが検出数は各1点づつと少なかった。また針葉樹樹皮3点はいずれも傷害樹脂道が見られたことから、モミ属またはソガ属の樹皮の可能性が高いが材の部分は検出されていない。針葉樹材で検出されたのはヒノキまたはヒノキを含むヒノキ属のみであった。SBB01の炭化材はタケ亜科で、いわゆるタケまたはササ類の破片であった。

中世以降と推定される土坑SX03（SZA05）とSZA05から出土した炭化材は、いずれも針葉樹のアカマツであった。

以下に樹種同定の根拠とした材組織の観察結果を分類順に記載する。

(1)アカマツ *Pinus densiflora* Sieb. et Zucc. マツ科 図版84 1 a - 1 c (SX03 : SZA05)

垂直と水平の樹脂道があり、早材から晩材への移行はゆるやかで晩材部の量は多い針葉樹材。分野壁孔は窓状、放射組織の上下端には1～3層の放射仮道管がありその内壁には鋸歯状の肥厚が顕著である。このような形質からアカマツと同定した。

アカマツは、主に内陸部の乾燥した陽光地に多く、自然災害や人間活動の跡地に成立する二次林の主要構成樹種である。材は耐水性に優れ、燃焼時は火力が高い。

(2)針葉樹樹皮 *Conifer bark* 図版84 2 a - 2 (SBA03-101)

同形の軸方向要素と放射方向要素が整然と配列しているが、二次木部（いわゆる材）とは異なり早材と晩材や年輪界は不明瞭である。放射組織は単列で、放射柔細胞は木部のものより細胞が大きい。

このような形質から針葉樹樹皮であり、特に材部に近い二次師部の組織と類似している。いずれの試料にも傷害樹脂道と思われる接線方向に配列する樹脂道が観察された。傷害樹脂道は、針葉樹ではモミ属とツガ属の二次木部に形成されることから、これらの樹皮と推測される。

(3)ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* Endl. 図版84 3 a - 3 c (SBA03-113)

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材の量はどの試料も極めて少ない。分野壁孔の輪郭は円形で孔口はやや斜めに細く開いている典型的なヒノキ型であり、1分野に主に2個が水平に整然と配列している。孔口がより大きく開いている壁孔が多く観察された試料はサワラの可能性があるので、これらはヒノキ属までの同定に留めた。

ヒノキ属は温帯に分布する主要な針葉樹でヒノキとサワラがある。ヒノキは本州の福島県以南・■国・九州のやや乾燥した尾根や岩上に生育し、材は耐久性・切削性・割裂性にすぐれる。サワラはヒノキより分布域は狭く、東北南部から中部地方の沢沿いの岩上に生育する。

(4)クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科 図版85 4 a - 4 c (SBA03-33)

年輪の始めに大型で孔口が楕円形の管孔が密に配列し除々に径を減じ、晩材部は非常に小型で多角形の管孔が火炎状に配列する環孔材。道管の穿孔は單一、内腔にはチロースが発達している。放射組織は単列同性のみである。

クリは、北海道西南部以南の暖帯から温帯下部の山野に普通の落葉高木である。材は粘りがあり耐朽性にすぐれている。

(5)シイノキ属 *Castanopsis* ブナ科 図版85 5 a - 5 c (SBA03-129)

年輪の始めに中型で孔口が丸い管孔が間隔を開けて配列し除々に径を減じ、晩材部は非常に小型の管孔が放射状や火炎状に配列する環孔材。接線断面や放射断面の材組織は前述のクリと同様である。

シイノキ属は主に暖帯に生育する常緑高木で、関東以西に分布するツブラジイと福島県から新潟県佐渡以南に分布するスダジイがある。

(6)サクラ属 *Prunus* バラ科 図版85 6 a - 6 c (SBA03-47)

小型の管孔が放射方向・接線方向・斜状など様々に複合して分布する散孔材。道管の穿孔は單一、内腔にはらせん肥厚がある。放射組織は異性、1～5細胞幅、道管との壁孔は小型で密在する。

サクラ属は暖帯から温帯の落葉広葉樹林の代表的な属で多くの種を含む。材は軽りがあり強く、保存性も高い。

(7)キハダ *Phellodendron amurense* Rupr. ミカン科 図版86 7 a - 7 c (SBA03-58)

年輪の始めに単独または複合した中型の管孔が數層配列し徐々に径を減じてゆき、孔周囲では非常に小型の管孔が塊状・斜状に複合し、年輪界では接線状に配列する環孔材。道管の壁孔は小さく交互状、穿孔は單一、小道管にはらせん肥厚がある。放射組織は同性、主に3~4細胞幅の紡錘形、細胞高は15~20細胞前後である。

キハダは北海道以南の温帯の山地に生育する落葉高木である。材質はやや軽軟だが広葉樹材の中ではクリに次い耐水性に優れた材である。

(8)タケ亜科 Gramineae subfam. Bambusoideae. イネ科 図版86 3 (SBB01-302)

やや硬質の稈の破片である。維管束は不整中心柱で多数が同心円状に均質に配置している。稈の外周に位置する維管束には維管束鞘が特に厚く発達し稈を強く支持している様子がわかる。このような形質からイネ科のタケ類とササ類を含むタケ亜科であると同定した。

タケ亜科はいわゆるタケ・ササの仲間で12属が含まれ、中■や東南アジアから移入され栽培により広まつたものが多い。ササ類は多くの野生種があり、タケ類ではハチク・マダケは日本に野生していいた可能性があるといわれている。

4.まとめ

当遺跡の弥生時代末から古墳時代初頭の住居跡SBA03から出土した建築材と推定される樹種構成は、温帯性針葉樹のヒノキやヒノキ属と常緑広葉樹のシノキ属を主体とし、落葉広葉樹のクリ・サクラ属・キハダの複数種を含む構成であった。全■の遺跡出土建築材の文献集成(山田、1993)において出土例が多いコナラ節・クヌギ節は、当遺跡のSB07からはまったく検出されずクリも少なかった。

岐阜県内では今回の調査住居跡とほぼ同時期の事例として、美濃加茂市の尾崎遺跡(藤根、1993)、閖市の砂行遺跡(植田、報告中)や深橋前遺跡(植田、報告中)、岐阜市の堀田城之内遺跡(植田、1997)や下西郷一本松遺跡(植田、印刷中)、大垣市の今宿遺跡(沙見・岡田、1998、植田、1998)などがある。これらの報告と当遺跡の結果を比較してみた。

当遺跡から4~5km西方に分布する閖市の砂行遺跡と深橋前遺跡そして更に西方に位置する岐阜市の下西郷一本松遺跡のこれら3遺跡は、当遺跡の結果と共通性が見られた。つまり樹種構成が、ヒノキやヒノキ属などの温帯性針葉樹と常緑広葉樹のシノキ属・アカガシ亜属そして複数種の落葉広葉樹材からなることである。また、岐阜市の堀田城之内遺跡では針葉樹は未確認であるが、落葉広葉樹のクリと常緑広葉樹のシノキ属が使われていたことが確認されている。大垣市の今宿遺跡は、竪穴住居跡はヒノキを主体としてヒノキ属・アスナロ・クロベのヒノキ科に属する針葉樹材が主に検出され柱にはコウヤマキが使用されていた。掘立柱建物跡の柱根は、常緑広葉樹のシノキ属・サカキ属が多くこのほかに落葉広葉樹のクリ・ムクノキ・ムクロジが検出された。今宿遺跡では、竪穴住居にはヒノキとヒノキ科の針葉樹が主に使用され、掘立柱建物には常緑性と落葉性の広葉樹材が多用され、樹種の使い分けが成されていた可能性が指摘されている(春日井、1998)。今宿遺跡も全体的には、前述の遺跡や当遺跡と樹種構成は類似していると言える。しかし当遺跡から約8km南東に位置する尾崎遺跡はやや異なる傾向が見られる。ここのSB8はクヌギ節が主体で、SB24はクリが多くそのほかにトチノキが検出されており、針葉樹と常緑広葉樹材は検出されていない。

今回の調査および今までに蓄積された弥生時代末から古墳時代初頭の住居建築材の調査を総合すると、主にシノキ属やアカガシ亜属などの常緑広葉樹材が多用されており、ヒノキを主体としてヒノキ科の針葉樹材の利用も目立ち、これらに加えて複数種類の落葉広葉樹材も利用されている事が明らかになってきた。この時期は近距離から建築材を調達していたと考えられる。従って、住居跡の炭化材樹種構成からは、シノキ属を主体とした照葉樹林が成立していたことが予想される。またその照葉樹林内または周辺に、ヒノキなどの温帯性針葉樹や多種類の落葉広葉樹も共存しており、非常に種類数の豊富な森林が成立していたと推測される。森林の構成種類数が豊富で建築材を充分伐採できるほどの照葉樹樹林をが遺跡の周辺に成立していたことは、この時期はまだ森林に及ぼす人為の影響がそれほど大きくは現われていないと考えられる。

中世以降の土坑から検出された樹種はアカマツであった。アカマツは二次林要素であり、弥生時代末から古墳時代初頭の住居跡からは検出されていないので、中世以降になると当遺跡の周辺に二次林が拡大していたことが連想させられる。

引用文献

- 山田昌久、1993、「日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成—用材から見た人間・植物関係史」、1-242、植生史研究特別第1号。
- 藤根 久、1993、「尾崎遺跡住居跡出土炭化材の樹種」、『尾崎遺跡』、135-138、図版27-29、財团法人岐阜県文化財保護センター。
- 植田弥生、(1998、報告中)、「砂行遺跡の堅穴住居跡出土炭化材の樹種同定」、財团法人岐阜県文化財保護センター。
- 植田弥生、1997、「堅穴住居から出土した炭化材の樹種」、『報田城之内遺跡』、125-126、図版24、財团法人岐阜県文化財保護センター。
- 植田弥生、(印刷中)、「下西郷一本松遺跡の住居跡出土炭化材樹種同定」、164-176、(財)岐阜市教育文化振興事業団。
- 汐見 真・岡田文男、1998、「今宿遺跡出土木製品の樹種調査結果」、『今宿遺跡（第2分冊）』、71-74、財团法人岐阜県文化財保護センター。
- 植田弥生、1998、「弥生時代後期の焼失住居跡から出土した炭化材樹種同定」、『今宿遺跡（第2分冊）』、31-37、図版141-145、財团法人岐阜県文化財保護センター。
- 春日井 恒、1998、「第Ⅲ章 まとめ」、『今宿遺跡（第2分冊）』、87-102、財团法人 岐阜県文化財保護センター。

第10表 後平遺跡出土炭化材樹種

遺構	番号	樹種	遺構	番号	樹種
SX03 (SZA05)	No.3	アカマツ	SBA03	101	針葉樹樹皮
SZA05	No.3	アカマツ	SBA03	101	シイノキ属
SBB01	302	タケ亜科(タケ・ササ類)	SBA03	103	ヒノキ
SBA03	1	シイノキ属	SBA03	111	ヒノキ
SBA03	5	ヒノキ	SBA03	112	ヒノキ
SBA03	7	シイノキ属	SBA03	113	ヒノキ
SBA03	9	シイノキ属	SBA03	114	ヒノキ
SBA03	12	シイノキ属	SBA03	115	ヒノキ
SBA03	33	クリ	SBA03	116	ヒノキ
SBA03	47	サクラ属	SBA03	118	シイノキ属
SBA03	51	シイノキ属	SBA03	120	ヒノキ属
SBA03	52	シイノキ属	SBA03	122	シイノキ属
SBA03	58	キハダ	SBA03	129	シイノキ属
SBA03	64	シイノキ属	SBA03	132	ヒノキ属
SBA03	80	針葉樹樹皮	SBA03	133	ヒノキ
SBA03	88	シイノキ属	SBA03	134	ヒノキ属
SBA03	100	サクラ属	SBA03	139	シイノキ属
SBA03	100	針葉樹樹皮	SBA03	140	ヒノキ
			SBA03	142	シイノキ属

第11表 後平遺跡遺構別出土炭化材樹種

樹種	中世以降		弥生末～古墳初頭		合計
	SX03 (SZA05)	SZA05	SBB01	SBA03	
アカマツ	1	1			2
針葉樹樹皮				3	3
ヒノキ				10	10
ヒノキ属				3	3
クリ				1	1
シイノキ属				14	14
サクラ属				1	1
キハダ				1	1
タケ亜科			1		1
合計	1	1	1	33	36

第7章 考 察

第1節 砂行・南青柳・深橋前遺跡と後平遺跡との関連

住居跡出土遺物概要・分析

A地区から検出された住居跡出土の土器の時期からみていくと、山中式後期を中心とした土器の出土する住居跡（SBA05、SBA08、SBA09、SBA11）と、山中式の高壺A類と廻間式の高壺C類が併存する住居跡（SBA03、SBA07、SBA10、SBA13）がある。高壺A類の出土する住居は斜面上部にあり、高壺C類が出土する住居は斜面下部にあることから、高壺A類とC類の混入は高壺A類の斜面上部からの転落の可能性も考えられる。また、砂行遺跡で報告のある条痕文系の在地の土器が共存することや、逆に砂行遺跡、深橋前遺跡ではみられない、口縁端部を受口状にする甕B類の出土が本遺跡の特徴である。甕B類や口縁端部に段をもつ鉢が出土しているのはSBA13で、この住居からは高壺C類や器台B類など新しい時期の土器がみられる。受口状甕B類の出土割合は、土器の実測点数236点のうちの甕68点中8点である。方形周溝墓からは高壺C類、器台B類が出土しており、住居跡より時期がやや新しいと考えられる。

B地区の住居跡から出土した土器には高壺C類がみられないが、山中式後期が中心で、条痕文系の土器もみられることからA区とはほぼ同じ時期に形成された住居跡と考えられる。（安田正枝）

後平遺跡について

本遺跡は近年発掘調査が実施された閑市砂行遺跡（※1）、南青柳遺跡（※2）、深橋前遺跡（※3）と集落の状況・形成時期及び出土土器の様相がきわめて類似している。とくに砂行遺跡とでは古墳のあり方まで酷似している。地域的に隣接していることや立地条件が近似しているためと考えられる。

前述の閑市の3遺跡は斜面に立地する弥生時代終末期～古墳時代初頭の美濃北部地域特有の集落として、近年注目されている遺跡であり、本遺跡は同様のあり方をもつ遺跡として新たな資料を提供することになると思われる。また、出土土器についてもそれまでには明らかにされていなかった土器様相が展開されていることが明らかになりつつあり、その概要が判明してきた。土器様相も地域特有の集落様相と重複するようにして、地域特有の土器様相を有しており、他地域との関連や編年的位置づけあるいは地域特有の土器様相が生まれる要因の解明など今後新たに取り組む課題も多く、資料的にもおおいに注目されている。こうした周囲の状況を考慮すると本遺跡は資料的には不十分ではあるが、検討すべき課題も多いと考えられる。本報告では筆者に前述した課題を結論づける力量もないため、閑市の3遺跡との相違点を中心に以下にいくつかの課題を述べることにする。

集落の形成について

立地条件・形成時期ともに閑市3遺跡とすべてにおいて類似する。後述するように出土土器の関係から住居は斜面の上から下へ向かって順次築成されたと考えられる。また、住居の残存状況、すなわち斜面上方の1/2程度しか残らない点なども共通している。こうした現象は弥生時代終末期～古墳時代初頭の美濃北部特有のものであると考えられる。閑市3遺跡と相違する点として出土遺物の少なさ・炉跡の少なさがあげられる。前者については集落規模にも作用される要因だが、本遺跡における

遺物の出土量はそれを考慮しても少ないように思われる。その代表例がA地区SBA11とSBA12である。住居の残存状況は良好だが、土器はほとんど皆無にちかい。B地区の住居ではより顕著となって現れている。また、後者も住居の残存状況にも左右されるが、炉跡がもともとなかったのではと思われる住居も存在する。A地区SBA05B地区SBB05、SBB06などがそれにあたる。以上の観点から、本遺跡は閔市3遺跡とは異なり、やや生活の痕跡が薄い遺跡といえる。立地条件・形成時期は類似するものの集落の規模などからみてすべてを同次元では捉えるにはやや問題があると考えられる。閔市3遺跡（※4）は弥生時代終末期～古墳時代初頭の中心的集落であり、本遺跡はその中心的集落の補完的な集落と想定される。今後は補完的な役割についての具体的な内容を解明することが課題であると考えられる。

出土土器について

土器については出土量が少ないので、細分を怠ったことをここでお詫びしたい。以下に本遺跡の資料として断片的ながらも注目可能な資料を以下に述べる。

1. 高坏について

本報告では高坏をA～Cに分類しているが、当然時間的にはA類→B類→C類と流れていくはずだが、住居跡出土資料では必ずしも、そうなっていないケースもある。これは第4章や本章の集落形成の項でも述べたように斜面上方の住居からの混入の結果と想定される。おおよそ、斜面上方の住居に高坏A類、斜面下方の住居に高坏C類が伴うと考えられる。その結果として斜面下方の住居に高坏A類が混入すると推測される。高坏B類は確認できた資料としては図示した245、301の2点のみである。住居からの出土例は皆無である。高坏B類すなわち廻間I式0段階の時期がまったく抜け落ちているかのような印象をうける。つまり、廻間I式0段階の時期に集落の形成がなかったとの判断も可能ではある。しかし、もともと短期間に形成された本遺跡においてそのような理解はやや危険性があり、やはり連続して形成されたとみる方が妥当と思われる。本遺跡の周辺地域では元来、高坏B類を土器様式のなかに持っていない可能性があり、結果としてその時期がないように見えてしまうのではないかとも想定される。こうした現象は本遺跡だけでは判断できないので閔市3遺跡も含めて検討すべき課題と考えられる。

SBA11出土182、方形周溝墓出土252は口縁部外面に加飾のある高坏である。これまで加飾された高坏としては、西濃地域を中心に分布する内面加飾が顕著な高坏が注目されてきたが、それとは異なる資料と思われる。加飾が外面にある点ならび文様は相違している点において西濃型高坏と異なる。文様は182では本来は鉢の口縁部や肩部の文様を構成している直線文と列点文が用いられている。こうした現象は鉢の文様が高坏にも採用された一種の折衷的な資料と考えられる。出土量は鉢が最も多いことから、鉢が土器様相のなかで中心的な位置を占めているとみられ、それだけ、他の器種への影響を考えやすい立場にあったと判断される。その観点からすると、182のような資料は鉢の文様を転用した高坏C類の例外的資料と想定されるが、今後、同じような資料が増加するならばそれは偶発的な現象ではなく、安定した資料と認知する必要が今後、生じる可能性があることを指摘しておく。

2. 壺について

壺については閔市3遺跡の資料により、平底壺が他地域に比べて専有的であることが大きな特徴としてこれまで指摘されている。なかでも条痕文系の壺の存在が注目されている。それらの特徴は本遺

跡でも共通した特徴として把握できる。平底壺といつても口縁部形状・胴部形状に様々な形状が認められ、文様にも差異が存するため、本来は細分する必要があったと思われる。しかし、断片的資料にとどまっているため、本報告では細分していない。将来的には整理する必要があると考えられる。本遺跡においては、口縁部が受口状を呈し、口縁部もしくは胴部に列点文・刺突文をもつ資料が多くみられる。また、直線文をもつ資料もみられる。こうした現象は前述した高坏同様、鉢の文様を転用したものと考えられる。こうした、平底壺の他に、閑市3遺跡では確認できていない新たな壺としてSBA03出土153・SBA13出土243・包含層出土324などの受口状口縁というよりは有段にちかい形状を示す壺が注目される。胴部形状も肩部が大きく張り、口縁部径を凌駕する。これまでの平底壺とは明らかに別系統と考えられる。平底とも断定できない資料である。3点とも文様など細部に違いはみられるが平底壺以外の新たな壺の資料として、今後、本遺跡特有の現象なのか閑市周辺に普遍的に存在するのか、その展開が注目される資料と思われる。(藤田英博)

第2節 後平茶臼古墳について

本古墳は試掘調査以前より、埴輪をもつ古墳であることがすでに判明していたが、本調査によってその詳細な内容が明らかとなり、いくつかの特徴的な事柄を確認することができた。とくに埴形、埋葬施設、埴輪、馬具があげられる。以下の項目で詳述する。

1. 墓形

全長19.6mの造り出し付円墳であることが明らかになった。規模は小さいが、県内では7例目の発見となった。とくに閑市砂行1号古墳・南青柳古墳とはほぼ時代も5世紀末と同時期で、埋葬施設は異なるが、墳形が共通する。県内で数少ない造り出し付円墳が時期・地域ともに限定してみられる傾向がある。こうした現象が生まれる理由についての究明が今後必要となろう。また、閑市砂行1号古墳・南青柳古墳とは副葬品・埋葬施設・外表施設で差異が認められ、こうした差異は被葬者あるいは出自集団の差異によって生じた可能性がある。

2. 埋葬施設

埋葬施設は竪穴式石室でなく、竪穴系横口式石室であることが判明した。県内では竪穴系横口式石室と確認されている古墳は可児市羽崎大洞3号墳、ちかいもので閑市陽徳寺裏山3号古墳など数例にすぎない。従来は羽崎大洞3号墳の地理的位置から、竪穴系横口式石室が多くみられる西三河地域との関連を想定していたが、本古墳の確認により、竪穴系横口式石室の出現は一元的なルートのみで説明が付かなくなってきた。複数系統によってその出現を探る必要があろう。また、古墳の構築時期が5世紀末～6世紀初頭と県内では横穴式石室の導入時期に相当する。導入期の横穴式石室は二又1号墳を指標として畿内系石室が県内に最初に導入されると理解されていたが、本古墳が二又1号墳とほぼ同時期に位置付けられることにより、県内の横穴式石室の導入期に対する理解が一面的な理解ではなく、多面的に理解する必要に迫られたと考えられる。将来的には小地域単位での系統理解を進めが必要があると思われる。

3. 墓輪

本古墳に採用された埴輪は古墳出土の尾張型埴輪としては県内では5例目の確認となった(※5)。今後の調査の進展によってその分布はさらに広がると予想されるが(※6)、現状では尾張型埴輪の北

限にあたると考えられる。本古墳出土の尾張型埴輪は調整手法から2系統に分類できるが、工人差なのか産地による差なのかは判断できない。胎土分析の結果によると在地産の粘土を使って作ったものであるが、K・Rbの量の違いで2群に分けることが可能で、両群は素材粘土が異なるとともに、焼成条件も異なっていることから、同一地域内の別場所での製品である可能性が強いようである。尾張型埴輪は尾張連氏がその生産に深く関与しているとされていることから、本古墳の被葬者が尾張連氏と何らかの関係を有していた可能性が高いと判断される。県内において発掘調査が実施されて、尾張型埴輪を確認した事例に宮之脇11号墳がある。埋葬施設は異なるが、墳形は互いに造り出し付円墳でそれほど埴丘規模が大きくなり点など共通する点が多くみられる。また、その被葬者については大首長ではなく、中小首長と想定されている。本古墳においてもその点は類似し、被葬者は中小首長と推測している。というのも、正式な発掘調査は及んでいないが、本古墳の規模を上回る古墳が富加町内に展開している可能性が高いからである（※7）。尾張型埴輪を古墳の発掘調査で確認した事例は県内では2例にしかすぎないが、現状では尾張型埴輪を採用した古墳の被葬者は小地域の首長であった可能性が高いとみられる。今後の資料の増加によってさらには検討されるべき課題と考えられる。

※1 2000財団法人岐阜県文化財保護センター『砂行遺跡』岐阜県文化財保護センター調査報告書 第65集。

※2 2002財団法人岐阜県文化財保護センター『南青柳遺跡』岐阜県文化財保護センター調査報告書 第68集。

※3 2003財団法人岐阜県文化財保護センター『深櫛前遺跡』岐阜県文化財保護センター調査報告書 第79集。

※4 3遺跡で1つの集落を形成していた可能性もある。

※5 大野町南屋敷古墳・可児市宮之脇11号墳・御嵩町美佐野古墳など

※6 美濃加茂市山之上町の佐口遺跡で出土している。2001財団法人岐阜県文化財保護センター『佐口遺跡』岐阜県文化財保護センター調査報告書 第69集。

※7 春日古墳・池下1号墳・杉洞1号墳・夕田茶臼古墳などが本古墳に先行するもしくは同じ時期にちかい首長墓と考えられる。

4.まとめ

富加町は「大宝二年(702)御野国加毛郡半布里戸籍」が残る地域として知られ、在地系の「カモ県主」の一族と渡来人系の「秦氏」の一族が居住していたことが明らかである。本古墳の構築年代と戸籍に残された年代には約200年の開きがあり、本古墳の被葬者と直接結びけるのは早計とも思われる。しかし、前述した2つの氏族が仮に本古墳の構築時に富加町にすでに居住していたとしたら、どちらかの氏族が本古墳の被葬者にあたると考えることができる。あくまで仮定として想定すると、尾張型埴輪の採用や埋葬施設が堅穴系横口式石室である点からみて畿内の要素が薄く、在地の要素が強いと考えられることから、この観点からみて、本古墳の被葬者像は在地系の一族、すなわち「カモ県主」の一族の可能性が高いとみることができる。そうした場合、「カモ県主」と「尾張連氏」は尾張型埴輪を介して結びついていたとも考えられる。いずれにせよ、資料の制約や年代の開きがあるので、すべて推測の域をでていない。しかし、全国最古の戸籍が残る地域でもあるので、今後の研究によって本古墳の被葬者像が具体化することが望まれる。（藤田英博）

遺物觀察表

土器・埴輪・鉄製品・石器

第12表 土器觀察表A地区

番 号	地 名	時 期	地 区	出土区	層位	形 態	規 格	法 則	基 準	外 面	内 面	組成	地 土	外 色 調		備 考
										D	特 性	底 部	腹 部	底 部	腹 部	
1	24	35	I	A	J10	5	深鉢			摩訶著し・側面縫合不可能・縫隙痕あり。	摩訶著し・側面縫合不可能。	直邊	(H0.5~2mm程度の石を多く往1.2mm以下)の石 底を少々むけむけ。	7.5YR7/6(暗)	DYR9/4に近似調	
2	24	35	I	A	F5	5	深鉢			摩訶著し及び、各洞痕?	摩訶著し・側面縫合不可能。	やや 直邊	1mm以下)の下の石を普通に。(H0.5mm以下)の石共に 少々むけむけ。	7.5YR7/4に近い黄 褐色	DYR9/4に近似調	
3	24	35	I	A	G5	5	深鉢			摩訶著し・側面縫合不可能・縫隙痕あり。	摩訶著し・側面縫合不可能。	やや 直邊	(H0.5~1mm程度の石を多く往1.2mm以下)の石 底を少々むけむけ。	7.5YR7/4に近い黄 褐色	DYR9/4に近似調	No.1と同一個体の 可能性あり。
4	24	35	I	A	J11	5	深鉢			摩訶著し・側面縫合不可能。	摩訶著し・側面縫合不可能・縫隙痕あり。	やや 直邊	(H0.5~1mm程度の石を多く往1.2mm以下)の石共に 少々むけむけ。	7.5YR7/4に近い黄 褐色	DYR9/4に近似調	
5	24	35	I	A	K14	5	深鉢			摩訶著し・側面縫合不可能。	摩訶著し・側面縫合不可能・縫隙痕あり。	やや 直邊	(H0.5~1mm程度の石を多く往1.2mm以下)の石共に 少々むけむけ。	7.5YR7/4に近い黄 褐色	DYR9/4に近似調	
6	24	35	I	A	L14	5	深鉢			摩訶著し・側面縫合不可能・へつ指穴沈線による 文様あり。	摩訶著し・側面縫合不可能。	やや 直邊	(H0.5~1mm程度の石を多く往1.2mm以下)の石共に 少々むけむけ。	7.5YR7/4に近い黄 褐色	DYR9/4に近似調	
7	24	35	I	A	L14	5	深鉢			摩訶著し・側面縫合不可能・へつ指穴沈線による 文様あり。	摩訶著し・側面縫合不可能。	やや 直邊	(H0.5~1mm程度の石を多く往1.2mm以下)の石共に 少々むけむけ。	7.5YR7/4に近い黄 褐色	DYR9/4に近似調	
8	24	35	I	A	L16	2	深鉢			摩訶著し・側面縫合不可能・へつ指穴沈線による 文様あり。	摩訶著し・側面縫合不可能。	直邊	(H0.5~1mm程度の内側)の底を少々むけむけ。	7.5YR7/4に近い黄 褐色	7.5YR7/4に近似調	
9	24	35	I	A	K15	3	深鉢			摩訶著し・側面縫合不可能・へつ指穴沈線による 文様あり。	摩訶著し・側面縫合不可能。	やや 直邊	(H0.5~1mm以下)の底を少々むけむけ。(H0.5mm以下) の石共に少々むけむけ。	7.5YR7/4に近似調	DYR9/4に近似調	
10	24	35	I	A	L14	5	深鉢			摩訶著し・側面縫合不可能・へつ指穴沈線による 文様あり。	ナデ。	やや 直邊	(H0.5~1mm程度の石を多く往1.2mm以下)の石共に 少々むけむけ。	7.5YR7/4に近似調	SYR5/4に近似調	
11	24	35	I	A	H14	4U	深鉢	-	-	へつ指穴沈線による文様あり。	ヨコ打キ1	直邊	(H0.5~1mm程度の石を多く往1.2mm以下)の石共に 少々むけむけ。	7.5YR7/4に近い黄 褐色	7.5YR7/4に近似調	No.1と同一個体の 可能性あり。
12	24	35	I	A	H14	4U	深鉢	-	-	へつ指穴沈線による文様あり。	ヨコ打キ1	直邊	(H0.5~1mm程度の石を多く往1.2mm以下)の石共に 少々むけむけ。	7.5YR7/4に近似調	7.5YR7/4に近似調	
13	24	35	I	A	H14	4	深鉢	-	-	へつ指穴沈線による文様あり。	ヨコ打キ1	直邊	(H0.5~1mm程度の石を多く往1.2mm以下)の石共に 少々むけむけ。	7.5YR7/4に近似調	DYR9/4に近似調	No.1と同一個体の 可能性あり。
14	24	35	I	A	H14	4U	深鉢	-	-	へつ指穴沈線による文様あり。	ヨコ打キ1	直邊	(H0.5~1mm程度の石を多く往1.2mm以下)の石共に 少々むけむけ。	7.5YR7/4に近似調	SYR5/4に近似調	No.1と同一個体の 可能性あり。
15	24	35	I	A	H14	4U	深鉢	-	-	へつ指穴沈線による文様あり。	ヨコ打キ1	やや 直邊	(H0.5~1mm程度の石を多く往1.2mm以下)の石共に 少々むけむけ。	7.5YR7/4に近似調	DYR9/4に近似調	No.1と同一個体の 可能性あり。
16	24	35	I	A	H13	5	深鉢	-	-	へつ指穴沈線による文様あり。	ヨコ打キ1	直邊	(H0.5~1mm程度の石を多く往1.2mm以下)の石共に 少々むけむけ。	7.5YR7/4に近似調	7.5YR7/4に近似調	
17	24	35	I	A	H14	4U	深鉢	-	-	へつ指穴沈線による文様あり。	ヨコ打キ1	直邊	(H0.5~1mm程度の石を多く往1.2mm以下)の石共に 少々むけむけ。	7.5YR7/4に近似調	7.5YR7/4に近似調	
18	24	35	I	A	H14	4U	深鉢	-	-	へつ指穴沈線による文様あり。	ヨコ打キ1	直邊	(H0.5~1mm程度の石を多く往1.2mm以下)の石共に 少々むけむけ。	7.5YR7/4に近似調	7.5YR7/4に近似調	
19	24	35	I	A	H14	4U	深鉢	-	-	へつ指穴沈線による文様あり。	ヨコ打キ1	直邊	(H0.5~1mm程度の石を多く往1.2mm以下)の石共に 少々むけむけ。	7.5YR7/4に近似調	7.5YR7/4に近似調	
20	25	36	I	A	H14	4U	深鉢	-	-	へつ指穴沈線による文様あり。	ヨコ打キ1	直邊	(H0.5~1mm程度の石を多く往1.2mm以下)の石共に 少々むけむけ。	7.5YR7/4に近似調	7.5YR7/4に近似調	
21	25	36	I	A	H14	4U	深鉢	-	-	へつ指穴沈線による文様あり。	ヨコ打キ1	やや 直邊	(H0.5~1mm程度の石を多く往1.2mm以下)の石共に 少々むけむけ。	7.5YR7/4に近似調	7.5YR7/4に近似調	
22	25	36	I	A	J13	5	深鉢	-	-	へつ指穴沈線による文様あり。	ヨコ打キ1	やや 直邊	(H0.5~1mm程度の石を多く往1.2mm以下)の石共に 少々むけむけ。	7.5YR7/4に近似調	DYR9/4に近似調	
23	25	36	I	A	J5	4U	深鉢	-	-	底下する隠跡3。	ナデ。	直邊	(H0.5~1mm程度の石を多く往1.2mm以下)の石共に 少々むけむけ。	7.5YR7/4に近似調	SYR5/4に近似調	No.2と同一個体の 可能性あり。
24	25	36	I	A	T4	4M	深鉢	-	-	底下する隠跡3。隠跡上に刻み1。	ナデ。	やや 直邊	(H0.5~1mm程度の石を多く往1.2mm以下)の石共に 少々むけむけ。	7.5YR7/4に近似調	7.5YR7/4に近似調	
25	25	36	I	A	F13	1	深鉢	-	-	摩訶著しく調査の観察不可能・横穴の凹跡2。	ナデ1	やや 直邊	(H0.5~1mm程度の石を多く往1.2mm以下)の石共に 少々むけむけ。	7.5YR7/4に近似調	7.5YR7/4に近似調	口縁部1.9
26	25	36	I	A	SB405	1	深鉢	-	-	摩訶著しく調査の観察不可能・横穴の凹跡2。	ナデ1	やや 直邊	(H0.5~1mm程度の石を多く往1.2mm以下)の石共に 少々むけむけ。	7.5YR7/4に近似調	7.5YR7/4に近似調	

品目 番号	時期	地区	出土室	部位	用器 種類	目 印	時代 名	法 式	内 面		周成	施 土	外 面		備 考	
									外 面	内 面			外 面	内 面		
27.25.36	I	A	G11	3	深鉢				横柾の凹縁2本、中央に斜脚押江溝。	ナデ。	縫合。2.5mm以下の長石を多く含む。以下の中石を少量含む。往來下のチャート少含む。	普通	7.5W6(4枚)	7.5W6(4枚)		
28.25.36	I	A	SBA03	1	深鉢				厚脚著しく、母母の装飾不可能。横柾の凹縁2本。	ナ戸。	縫合。2.5mm以下の長石を多く含む。往來下の石英を少量含む。往來下のチャート少含む。	普通	7.5W6(4枚)	7.5W6(4枚)		
29.25.36	I	A	G11	4U	深鉢				口縁部に刻み、模様をするへつ唐也次鉢18。次鉢に刻み。	ナデ。	縫合。1.5mm以下の長石を多めに含む。往來下の石英を少含む。	普通	7.5W6(4枚)	7.5W6(4枚)		
30.25.36	I	A	c9	3	深鉢				ナデ。	ナデ。	やや凸。1.5mm程度の長石を多く含む。往來下の石英を少含む。往來下のチャート少含む。	やや凸	7.5W6(4枚)	7.5W6(4枚)	No.9と同一個体の可能性あり。	
31.25.36	I	A	G14	4	深鉢				ナデ。	ナデ。	やや凸。1.5mm程度の長石を多く含む。往來下の石英を少含む。往來下のチャート少含む。	やや凸	7.5W6(4枚)	7.5W6(4枚)		
32.25.36	後	A	NRA01	1	深鉢				摩耗著しく調節部都不可能。	摩耗著しく調節部都不可能。	不規則。	縫合。2mm以下の長石を多く含む。往來下の石英を多含む。往來下のチャート多含む。	普通	7.5W6(4枚)	7.5W6(4枚)	
33.25.36	I	A	H14	4	深鉢				摩耗著しく調節部都不可能。	摩耗著しく調節部都不可能。	不規則。	縫合。2mm以下の長石を多く含む。往來下の石英を少含む。往來下のチャート赤褐色をやや含む。	普通	7.5W6(6枚)	10.5W11Z5(6枚)	
34.25.36	I	A	G19	4	深鉢				摩耗著しく調節部都不可能。	摩耗著しく調節部都不可能。	不規則。	縫合。1.5mm以下の石英を少含む。往來下のチャート少含む。	普通	7.5W6(4枚)に少い黄 色1.5mm程度のチャート少含む。	7.5W6(4枚)	7.5W6(4枚)
35.26.37	I	A	K14	3	深鉢				摩耗著しく調節部都不可能。口縁直下に欠損。	モロモロ。	中凹。	縫合。2mm以下の長石を多く含む。往來下の石英をや や少含む。往來下のチャート少含む。	普通	7.5W6(4枚)	10.5W11Z5(4枚)	
36.26.37	I	A	G11	7	深鉢				摩耗著しく調節部都不可能。口縁部に压凹。	モロモロ。	中凹。	縫合。2mm以下の長石を多く含む。往來下の石英を少 含む。往來下のチャート少含む。	普通	7.5W6(4枚)	7.5W6(4枚)	
37.26.37	I	A	L14	4M	深鉢				摩耗著しく調節部都不可能。口縁部に压凹。	ナデ。	中凹。	縫合。1.5mm程度の長石を多く含む。往來下の石英を少 含む。往來下のチャート少含む。	普通	7.5W6(4枚)	10.5W11Z5(4枚)	
J.26.37	I	A	L16	2	深鉢				横丸。	ナデ。	中凹。	縫合。1.5mm程度の長石を多く含む。往來下の石英を少 含む。往來下のチャート少含む。	普通	7.5W6(4枚)	10.5W11Z5(4枚)	
39.26.37	I	A	G13	2	深鉢				異種系縫(二枚貝)	ナデ。	中凹。	縫合。往來下の長石を少く含む。往來下のチャート少含 む。	普通	7.5W6(4枚)	7.5W6(4枚)	
40.26.37	I	A	G15	3	深鉢				摩耗著しく調節部都不可能。	モロモロ。	中凹。	縫合。往來下の長石を多く含む。往來下のチャート少含 む。	普通	7.5W6(4枚)	7.5W6(4枚)	
41.26.37	I	A	F11	3	深鉢				異種系縫(二枚貝)	ナデ・周縁圧痕あり。	中凹。	縫合。往來下の長石を多く含む。往來下のチャート少含 む。	普通	7.5W6(4枚)	7.5W6(4枚)	No.42-43と同一個 体。
42.26.37	I	A	F11	3	深鉢				異種系縫(二枚貝)	ナデ。	中凹。	縫合。往來下の長石を少く含む。往來下のチャート少含 む。	普通	7.5W6(4枚)	7.5W6(4枚)	No.42-43と同一個 体。
43.26.37	I	A	F11	3	深鉢				異種系縫(二枚貝)	ナデ・周縁圧痕あり。	中凹。	縫合。往來下の長石を多く含む。往來下のチャート少含 む。	普通	7.5W6(4枚)	7.5W6(4枚)	No.42-43と同一個 体。
*死.26.37	n	A	NRA	1	深鉢				切刃半円	ナデ。	中凹。	縫合。往來下の長石を多く含む。往來下のチャート少含 む。	普通	7.5W6(4枚)	7.5W6(4枚)	No.45と同一個体の 可能性あり。
45.26.37	後	A	NRA	1	深鉢				切刃半円	ナデ。	中凹。	縫合。往來下の長石を多く含む。往來下のチャート少含 む。	普通	7.5W6(4枚)	10.5W11Z5(4枚)	
46.26.37	口	A	NRA	1	深鉢				摩耗著しく調節部都不可能。	モロモロ。	中凹。	縫合。1.5mm程度の長石を多く含む。往來下のチャート少 含む。	普通	7.5W6(4枚)	7.5W6(4枚)	
47.26.37	口	A	SBA03	2	盤				摩耗著しく調節部都不可能。	モロモロ。	中凹。	縫合。1.5mm程度の長石を多く含む。往來下のチャート少 含む。	普通	7.5W6(4枚)	7.5W6(4枚)	
48.26.38	三	A	SBA03	1	盤				工具印記(2直線文×5巻/単位)	周縁圧痕あり。	中凹。	縫合。0.5mm程度の長石を多めに含む。	普通	7.5W6(4枚)	7.5W6(4枚)	
49.26.38	三	A	SBA03	1	盤				調節不規。	ヨコナデ。	中凹。	縫合。0.5mm程度の長石を多めに含む。	普通	7.5W6(4枚)	7.5W6(4枚)	表面に凹凸あり。
50.26.38	三	A	SBA03	1	盤				調節不規。	ヨコナデ。	中凹。	縫合。0.5mm程度の長石を多めに含む。	普通	7.5W6(4枚)	7.5W6(4枚)	表面に凹凸あり。
51.26.38	三	A	SBA03	1	盤				摩耗著しく調節部都不可能。	モロモロ。	中凹。	縫合。0.5mm程度の長石を多めに含む。	普通	7.5W6(4枚)	7.5W6(4枚)	表面に凹凸あり。
52.26.38	口	A	SBA03	1	盤				摩耗著しく調節部都不可能。	ヨコナデ・周縁圧痕あり(後部は コナデ)。	中凹。	縫合。0.5mm程度の長石を多めに含む。	普通	10.5W11Z5(4枚)	10.5W11Z5(4枚)	

番号	地名	地籍	地区	出土点	層位	基準	目	外観	内観	構成	地土	外 観		層 号	
								口径	地名	状況	保存状況	品名	外 観	内 観	
144 44 36 Ⅲ A SBA03 2 露台									東方向の刃口。	ナチュラル。	難透視。	径1m程度の長石少含む。	25W8/6(露)	25W8/6(露)	
145 44 36 Ⅲ A SBA03 2 露台									摩耗著しく状況不明不可判。口縁端部に斜削 跡2ヶ所。	ナチュラル。	難透視。	径0.5m程度の長石少含む。	25W8/4(露)	25W8/4(露)	
146 44 36 Ⅲ A SBA03 1 露てん									ナチュラル。	難透視。	径...程度の長石少含む。	1.5W8/4(露)	1.5W8/4(露)		
147 44 36 Ⅲ A SBA03 2 露天A面					14.		1.		露天端部に夏巴結文1条。摩耗著しく状況不明 不可能。	ナチュラル。	難透視。	径1m程度の長石少含む。	10W8/4(露)	10W8/4(露)	
148 44 36 Ⅲ A SBA03 1 海岸A面					21.1	0.5	1.		東方向の刃口。	ナチュラル。	難透視。	径1m程度の長石少含む。	1.5W8/4(露)	1.5W8/4(露)	
149 44 36 Ⅲ A SBA03 2 露天A面					13.4	11	(7.8)		東方向の刃口。知 露天端部に夏巴結文2条。	ナチュラル。	難透視。	径1m程度の長石少含む。	1.5W8/4(露)	1.5W8/4(露)	板状実測。
150 44 36 Ⅲ A SBA03 2 露天A面					13.4	11	(7.8)		東方向の刃口。	ナチュラル。	難透視。	径1m程度の長石少含む。	1.5W8/4(露)	1.5W8/4(露)	板状実測。
151 44 36 Ⅲ A SBA03 2 露天A面					13.4	11	(7.8)		東方向の刃口。	ナチュラル。	難透視。	径1m程度の長石少含む。	1.5W8/4(露)	1.5W8/4(露)	板状実測。
152 44 36 Ⅲ A SBA03 2 露天A面					13.4	11	(7.8)		東方向の刃口。	ナチュラル。	難透視。	径1m程度の長石少含む。	1.5W8/4(露)	1.5W8/4(露)	板状実測。
153 44 36 Ⅲ A SBA03 2 露天A面					13.4	11	(7.8)		東方向の刃口。	ナチュラル。	難透視。	径1m程度の長石少含む。	1.5W8/4(露)	1.5W8/4(露)	板状実測。
154 44 36 Ⅲ A SBA03 2 露天A面					13.4	11	(7.8)		東方向の刃口。	ナチュラル。	難透視。	径1m程度の長石少含む。	1.5W8/4(露)	1.5W8/4(露)	板状実測。
155 44 36 Ⅲ A SBA03 2 露天A面					13.4	11	(7.8)		東方向の刃口。	ナチュラル。	難透視。	径1m程度の長石少含む。	1.5W8/4(露)	1.5W8/4(露)	板状実測。
156 44 36 Ⅲ A SBA03 2 露天A面					13.4	11	(7.8)		東方向の刃口。	ナチュラル。	難透視。	径1m程度の長石少含む。	1.5W8/4(露)	1.5W8/4(露)	板状実測。
157 44 36 Ⅲ A SBA03 2 露天A面					13.4	11	(7.8)		東方向の刃口。	ナチュラル。	難透視。	径1m程度の長石少含む。	1.5W8/4(露)	1.5W8/4(露)	板状実測。
158 44 36 Ⅲ A SBA03 2 露天A面					13.4	11	(7.8)		東方向の刃口。	ナチュラル。	難透視。	径1m程度の長石少含む。	1.5W8/4(露)	1.5W8/4(露)	板状実測。
159 44 36 Ⅲ A SBA03 2 露天A面					13.4	11	(7.8)		東方向の刃口。	ナチュラル。	難透視。	径1m程度の長石少含む。	1.5W8/4(露)	1.5W8/4(露)	板状実測。
160 44 36 Ⅲ A SBA03 2 露天A面					13.4	11	(7.8)		東方向の刃口。	ナチュラル。	難透視。	径1m程度の長石少含む。	1.5W8/4(露)	1.5W8/4(露)	板状実測。
161 44 36 Ⅲ A SBA03 2 露天A面					13.4	11	(7.8)		東方向の刃口。	ナチュラル。	難透視。	径1m程度の長石少含む。	1.5W8/4(露)	1.5W8/4(露)	板状実測。
162 44 36 Ⅲ A SBA03 2 露天A面					13.4	11	(7.8)		東方向の刃口。	ナチュラル。	難透視。	径1m程度の長石少含む。	1.5W8/4(露)	1.5W8/4(露)	板状実測。
163 44 36 Ⅲ A SBA03 2 露天					20.8	2			東方向の刃口。	ナチュラル。	難透視。	径0.4m程度の長石少含む。	7.5W8/2(露)	7.5W8/2(露)	反転実測。
164 44 36 Ⅲ A SBA03 1 露天					17.5	3			東方向の刃口。	ナチュラル。	難透視。	径0.4m程度の長石少含む。	7.5W8/2(露)	7.5W8/2(露)	反転実測。
165 44 36 Ⅲ A SBA03 1 露天					16.9	1			東方向の刃口。	ナチュラル。	難透視。	径0.4m程度の長石少含む。	7.5W8/2(露)	7.5W8/2(露)	反転実測。
166 44 36 Ⅲ A SBA03 1 露天					16.9	1			東方向の刃口。	ナチュラル。	難透視。	径0.4m程度の長石少含む。	7.5W8/2(露)	7.5W8/2(露)	反転実測。

登録番号	登録年月日	登録地	出土地区分	出土地位置	地		基		造成	施		色		備考
					西	東	南	北		外	内	外	内	
216	73.45.Ⅳ	Ⅲ A	SBA11	1 3	西	东	西	东	普通	厚1m程度の長石を含むやや多く、厚2m程度の石英を含む。含む。	褐色	黄褐色	褐色	外葉に液化物付着。
										厚1m程度の長石を含むやや多く、厚2m程度の石英を含む。含む。	褐色	黄褐色	褐色	外葉に液化物付着。
217	73.45.Ⅳ	Ⅲ A	C2	2 基A2層					普通	工具による剥離文・擦痕等。	褐色	黄褐色	褐色	外葉に液化物付着。
										工具による剥離文・擦痕等。	褐色	黄褐色	褐色	外葉に液化物付着。
218	73.45.Ⅳ	Ⅲ A	SBA13	2 基A2層					普通	擦痕等。	褐色	黄褐色	褐色	外葉に液化物付着。
										擦痕等。	褐色	黄褐色	褐色	外葉に液化物付着。
219	73.45.Ⅳ	Ⅲ A	SBA13	3 基A					普通	擦痕等。	褐色	黄褐色	褐色	外葉に液化物付着。
										擦痕等。	褐色	黄褐色	褐色	外葉に液化物付着。
220	73.45.Ⅳ	Ⅲ A	SBA13	1 基B					普通	擦痕等。	褐色	黄褐色	褐色	外葉に液化物付着。
										擦痕等。	褐色	黄褐色	褐色	外葉に液化物付着。
221	73.45.Ⅳ	m A	SBA13	1 基					普通	擦痕等。	褐色	黄褐色	褐色	外葉に液化物付着。
										擦痕等。	褐色	黄褐色	褐色	外葉に液化物付着。
222	73.45.Ⅳ	m A	SBA13	3 詳					普通	擦痕等。	褐色	黄褐色	褐色	外葉に液化物付着。
										擦痕等。	褐色	黄褐色	褐色	外葉に液化物付着。
223	73.45.Ⅳ	Ⅳ A	SBA13	3 基					普通	擦痕等。	褐色	黄褐色	褐色	外葉に液化物付着。
										擦痕等。	褐色	黄褐色	褐色	外葉に液化物付着。
224	73.45.Ⅳ	Ⅳ A	C2	3 基					普通	擦痕等不可観。	褐色	黄褐色	褐色	No26と同上が點記。
										擦痕等不可観。	褐色	黄褐色	褐色	No26と同上が點記。
225	73.45.Ⅳ	Ⅳ A	SBA15	2 基A層					普通	擦痕等不可観。	褐色	黄褐色	褐色	外葉に液化物付着。
										擦痕等不可観。	褐色	黄褐色	褐色	外葉に液化物付着。
226	73.45.Ⅳ	Ⅳ A	SBA13	3 基B層					普通	擦痕等。	褐色	黄褐色	褐色	外葉に液化物付着。
										擦痕等。	褐色	黄褐色	褐色	外葉に液化物付着。
227	73.45.Ⅳ	Ⅳ A	SBA13	3 基					普通	擦痕等。	褐色	黄褐色	褐色	外葉に液化物付着。
										擦痕等。	褐色	黄褐色	褐色	外葉に液化物付着。
228	73.45.Ⅳ	Ⅳ B	A	SBA13	3 基A層	8.8	3	II.2	普通	擦痕等による剥離文と工具による剥離文・竹刷子による定め文。	褐色	黄褐色	褐色	反転剥離面・内面に点記。
										擦痕等による剥離文と工具による剥離文・竹刷子による定め文。	褐色	黄褐色	褐色	反転剥離面・内面に点記。
229	73.45.Ⅳ	Ⅳ B	A	SBA13	3 基A層				普通	上から工具による剥離文・工具による剥離文・竹刷子による剥離文・工具による剥離文・工具による剥離文。	褐色	黄褐色	褐色	外葉の一部に赤斑。
										上から工具による剥離文・工具による剥離文・竹刷子による剥離文・工具による剥離文・工具による剥離文。	褐色	黄褐色	褐色	外葉の一部に赤斑。
230	73.45.Ⅳ	Ⅳ B	A	SBA13	3 基C層				普通	擦痕等。	褐色	黄褐色	褐色	外葉の一部に赤斑。
										擦痕等。	褐色	黄褐色	褐色	外葉の一部に赤斑。
231	73.45.Ⅳ	Ⅳ B	A	SBA13	3 基C層	3.4	12.1(16)	直角クレバリキ・ヨコリキ・ヨコサエ	普通	ナナ。	褐色	黄褐色	褐色	外葉に剥離。
										ナナ。	褐色	黄褐色	褐色	外葉に剥離。
232	73.45.Ⅳ	Ⅳ E	A	SBA13	1 基C層				普通	擦痕等。	褐色	黄褐色	褐色	外葉に剥離。
										擦痕等。	褐色	黄褐色	褐色	外葉に剥離。
233	73.45.Ⅳ	Ⅳ E	A	SBA13	3 浅C層			G2	普通	擦痕等による剥離文不可観。	褐色	黄褐色	褐色	外葉の一部に赤斑。
										擦痕等による剥離文不可観。	褐色	黄褐色	褐色	外葉の一部に赤斑。
234	73.45.Ⅳ	Ⅳ E	A	SBA13	1 基B層			L.21	擦痕等。	ナナ・シロ・擦痕。	褐色	黄褐色	褐色	反転剥離。
										ナナ・シロ・擦痕。	褐色	黄褐色	褐色	反転剥離。
235	73.45.Ⅳ	Ⅳ F	A	SBA13	3 高坪A層			(7.9) 横方向の辺。	普通	ナナ。	褐色	黄褐色	褐色	1孔の邊縁部の剥離。
										ナナ。	褐色	黄褐色	褐色	1孔の邊縁部の剥離。
236	73.45.Ⅳ	Ⅳ F	A	SBA13	3 高坪			(4.4) 1辺。	普通	擦痕等による剥離文不可観。	褐色	黄褐色	褐色	1孔の邊縁部の剥離。
										擦痕等による剥離文不可観。	褐色	黄褐色	褐色	1孔の邊縁部の剥離。
237	73.45.Ⅳ	Ⅳ F	m A	SBA13	3 四辺C層	11	7.5.51	擦痕等。	普通	擦痕等。	ナナ・シロ	褐色	黄褐色	反転剥離。
										擦痕等。	ナナ・シロ	褐色	黄褐色	反転剥離。
238	73.45.Ⅳ	Ⅳ F	A	SBA13	3 深坪	6	3	1.21	擦痕等。	褐色	黄褐色	褐色	反転剥離・横縁部の剥離。	
										擦痕等。	褐色	黄褐色	褐色	反転剥離・横縁部の剥離。
239	73.45.Ⅳ	Ⅳ F	A	SBA13	1 高坪A層			II.2	(2) 横	擦痕等による剥離文不可観。	褐色	黄褐色	褐色	1孔の邊縁部の剥離。
										横。	褐色	黄褐色	褐色	1孔の邊縁部の剥離。
240	73.45.Ⅳ	Ⅳ F	A	SBA13	3 深坪	10	3	G.2	横	横痕等による剥離文・擦痕等。	褐色	黄褐色	褐色	反転剥離。
										横。	褐色	黄褐色	褐色	反転剥離。
241	73.45.Ⅳ	Ⅳ F	A	SBA13	1 高坪A層	29	2	(2)	擦痕等。	擦痕等による剥離文不可観。	褐色	黄褐色	褐色	反転剥離。

通 番 号	地 名	地 区	出土区	層位	器形 分 類	出 土 年 代	外 形	圖 面	成 分	結 合	外 形 内 面		外 縁 内 面		
							横 幅	厚 度	横 幅	厚 度	横 幅	厚 度	横 幅		
292/84/49	日	A	F13	1	唐人頭						等程度の表面に調節範囲不可。	刃状の点文・工具不規。	等程度の表面に刃状の点文を含む。	7.5mm(6個)	7.5mm(6個)
293/84/52	日	A	H5	2	唐人頭	1.5		(L.3)	ナテ、口縫跡部に羅文2文。	工具Aによる刃状点文、管骨文、工具Aによる刃状点文。	工具Aによる刃状点文、管骨文、工具Aによる刃状点文。	等程度の表面に刃状の点文を含む。	7.5mm(6個)	7.5mm(6個)	反転実測。
294/84/2	日	A	J14	3	唐人頭	1.8	3	(L.7)	口縫跡部に羅文2文。頭部に等程度の表面に調節範囲不可。	工具Aによる刃状点文、管骨文、工具Aによる刃状点文。	工具Aによる刃状点文、管骨文、工具Aによる刃状点文。	等程度の表面に刃状の点文を含む。	7.5mm(6個)	7.5mm(6個)	反転実測。
295/85/49	日	A	H6	3	顎台				口縫跡部に羅文2文。頭部に等程度の表面に調節範団不可。	工具Aによる刃状点文、管骨文、工具Aによる刃状点文。	工具Aによる刃状点文、管骨文、工具Aによる刃状点文。	等程度の表面に刃状の点文を含む。	7.5mm(6個)	7.5mm(6個)	反転実測。
296/85/50	日	A	C20	3	顎台	14.5	2	(L.8)	口縫跡部に工具Aによる羅文2文。前方の口縫跡部に工具Aによる羅文2文。	工具Aによる刃状点文、管骨文、工具Aによる刃状点文。	工具Aによる刃状点文、管骨文、工具Aによる刃状点文。	等程度の表面に刃状の点文を含む。	7.5mm(6個)	7.5mm(6個)	反転実測。
297/85/50	日	A	L15	2	顎台	15.6	1.5	(L.8)	等程度の表面に調節範囲不可。	工具Aによる刃状点文、管骨文、工具Aによる刃状点文。	工具Aによる刃状点文、管骨文、工具Aによる刃状点文。	等程度の表面に刃状の点文を含む。	7.5mm(6個)	7.5mm(6個)	反転実測。
298/85/43	日	A	C21	3	顎台	24.5	1.5	(L.7)	口縫跡部に工具Aによる羅文2文。前方の口縫跡部に工具Aによる羅文2文。	工具Aによる刃状点文、管骨文、工具Aによる刃状点文。	工具Aによる刃状点文、管骨文、工具Aによる刃状点文。	等程度の表面に刃状の点文を含む。	7.5mm(6個)	7.5mm(6個)	反転実測。
299/85/43	日	A	B5	2	顎台	27.8	6	(L.6)	前方の口縫跡部に工具Aによる羅文2文。前方の口縫跡部に工具Aによる羅文2文。	工具Aによる刃状点文、管骨文、工具Aによる刃状点文。	工具Aによる刃状点文、管骨文、工具Aによる刃状点文。	等程度の表面に刃状の点文を含む。	7.5mm(6個)	7.5mm(6個)	反転実測。
300/85/43	日	A	K15	2	高杯A盤	30	3	(L.11)	前方の口縫跡部に工具Aによる羅文2文。	工具Aによる刃状点文、管骨文、工具Aによる刃状点文。	工具Aによる刃状点文、管骨文、工具Aによる刃状点文。	等程度の表面に刃状の点文を含む。	7.5mm(6個)	7.5mm(6個)	反転実測。
301/85/50	日	A	G8	3	高杯B盤				等程度の表面に調節範囲不可。	工具Aによる刃状点文、管骨文、工具Aによる刃状点文。	工具Aによる刃状点文、管骨文、工具Aによる刃状点文。	等程度の表面に刃状の点文を含む。	7.5mm(6個)	7.5mm(6個)	反転実測。
302/85/49	日	A	Q11	3	顎台				口縫跡部に工具Aによる羅文2文。前方の口縫跡部に工具Aによる羅文2文。	工具Aによる刃状点文、管骨文、工具Aによる刃状点文。	工具Aによる刃状点文、管骨文、工具Aによる刃状点文。	等程度の表面に刃状の点文を含む。	7.5mm(6個)	7.5mm(6個)	反転実測。
303/85/50	日	A	C20	3	顎台			(L.7)	E工字による羅文2文。	E工字による羅文2文。	E工字による羅文2文。	等程度の表面に刃状の点文を含む。	7.5mm(6個)	7.5mm(6個)	反転実測。
304/85/49	日	A	J15	2	顎台			(L.4)	工具Aによる刃状点文、管骨文、工具Aによる刃状点文。	工具Aによる刃状点文、管骨文、工具Aによる刃状点文。	工具Aによる刃状点文、管骨文、工具Aによる刃状点文。	等程度の表面に刃状の点文を含む。	7.5mm(6個)	7.5mm(6個)	反転実測。
305/85/50	日	A	G16	2	高杯C盤	16	3	(L.4)	口縫跡部に工具Aによる羅文2文。前方の口縫跡部に工具Aによる羅文2文。	工具Aによる刃状点文、管骨文、工具Aによる刃状点文。	工具Aによる刃状点文、管骨文、工具Aによる刃状点文。	等程度の表面に刃状の点文を含む。	7.5mm(6個)	7.5mm(6個)	反転実測。
306/85/51	日	A	H16	2	顎台			(L.7)	等程度の表面に調節範囲不可。	ナテ。	ナテ。	等程度の表面に刃状の点文を含む。	7.5mm(6個)	7.5mm(6個)	反転実測。
307/85/51	日	A	J14	3	顎台			(L.9)	等程度の表面に調節範団不可。	ナテ。	ナテ。	等程度の表面に刃状の点文を含む。	7.5mm(6個)	7.5mm(6個)	反転実測。
308/85/51	日	A	H5	3	顎台			(L.9)	等程度の表面に調節範団不可。	ナテ。	ナテ。	等程度の表面に刃状の点文を含む。	7.5mm(6個)	7.5mm(6個)	反転実測。
309/85/51	日	A	H5	2	顎台A盤			(L.1)	前方の口縫跡部に工具Aによる羅文2文。	ナテ。	ナテ。	等程度の表面に刃状の点文を含む。	7.5mm(6個)	7.5mm(6個)	反転実測。
310/85/51	日	A	K14	2	顎台			(L.5)	前方の口縫跡部に工具Aによる羅文2文。	ナテ、口縫跡部あらわし	ナテ、口縫跡部あらわし	等程度の表面に刃状の点文を含む。	7.5mm(6個)	7.5mm(6個)	反転実測。
311/85/51	日	A	K14	3	顎台C盤			(L.5)	等程度の表面に調節範団不可。	ナテ。	ナテ。	等程度の表面に刃状の点文を含む。	7.5mm(6個)	7.5mm(6個)	反転実測。
312/85/51	日	A	B5	2	顎台			(L.6)	等程度の表面に調節範団不可。	ナテ。	ナテ。	等程度の表面に刃状の点文を含む。	7.5mm(6個)	7.5mm(6個)	反転実測。
313/85/51	日	A	H15	2	顎台			(L.6)	等程度の表面に調節範団不可。	ナテ。	ナテ。	等程度の表面に刃状の点文を含む。	7.5mm(6個)	7.5mm(6個)	反転実測。
314/85/51	日	A	L14	2	高杯			(L.6)	等程度の表面に調節範団不可。	ナテ。	ナテ。	等程度の表面に刃状の点文を含む。	7.5mm(6個)	7.5mm(6個)	反転実測。
315/85/51	日	A	I15	3	顎台			(L.6)	等程度の表面に調節範団不可。	ナテ。	ナテ。	等程度の表面に刃状の点文を含む。	7.5mm(6個)	7.5mm(6個)	反転実測。
316/85/51	日	A	O20	3	顎台			(L.6)	等程度の表面に調節範団不可。	ナテ。	ナテ。	等程度の表面に刃状の点文を含む。	7.5mm(6個)	7.5mm(6個)	反転実測。
317/85/51	日	A	F13	1	高杯A盤			(L.1)	等程度の表面に調節範団不可。	ナテ。	ナテ。	等程度の表面に刃状の点文を含む。	7.5mm(6個)	7.5mm(6個)	反転実測。
318/85/51	日	A	H5	2	高杯B盤			(L.6)	等程度の表面に調節範団不可。	コナネ、指標痕あらわし	コナネ、指標痕あらわし	等程度の表面に刃状の点文を含む。	7.5mm(6個)	7.5mm(6個)	反転実測。
						16	8	148	前方の口縫跡部に工具Aによる羅文2文。						1.5mmの孔あらわし

番号	地名	地区	出土区	地盤	岩層	層厚	外因	内因	地成	地土	外因		備考					
							凸程	凹程	高さ	底面	底面	内因						
319 85 51	三	A	L23	3	高坪A層	14	三	3	摩耗著しく調査駆逐不可。	摩耗著しく調査駆逐不可。	粗粒	粗1mmの石英を底面に含む。赤褐色を含む。	2.5m(6枚)	2.5m(6枚)	反転実測。			
320 85 51	三	A	SBA09	1	高坪A層	13.8	2.1	0.5	底面の凹凸。	ナゲ。	粗面	粗1mm程度の高さをややくぐらむ。	2.5m(6枚)	2.5m(6枚)	反転実測3			
321 85 51	三	A	C21	5	高坪A層	16.8	3.1	1.6	底面方向の凹凸。	ハケ目 ロコナデ。	粗面	粗0.5mm程度の赤色石を多量。粗0.5mmの石英を少量含む。底面に1mm程度のチャートを含む。	2.5m(6枚)(底面)	2.5m(6枚)(底面)	反転実測。			
322 85 51	三	A	K15	2	高台A層	15.5	2.1	0.6	摩耗弱。(3) 調査駆逐不可。	摩耗著しく調査駆逐不可。	角	粗1mm程度の長石をやや多く含む。	2.5m(6枚)(底)	2.5m(6枚)(底)	1mm(6枚)赤色が 多い。赤褐色。			
323 86 53	三	A	J16	3	高C1層	20	5.5	7.8	口縁部ナヘ底部下に工具による削り穴。削 削り方向の凹凸。	ナゲ、指揮圧痕。	ササ タラ	粗11mm程度の赤色石をやや多く含む。底面をやや 多く含む。底面は赤色ナゲトを多く含む。赤褐色を含 む。	2.5m(6枚)	2.5m(6枚)	Hej202同一層体 の可能性あり。反転 実測。			
324 86 53	三	A	B15	2	中C1層				摩耗著しく調査駆逐不可。	摩耗著しく調査駆逐不可。	ササ タラ	粗11mm程度の赤色石をやや多く含む。底面をやや 多く含む。底面は赤色ナゲトを多く含む。赤褐色を含 む。	2.5m(6枚)(底)	2.5m(6枚)(底)	Hej202同一層体 の可能性あり。反転 実測。			
325 86 52	三	A	B5	2	中C1層	16.4	6	17.0	口縁部ナヘ口縁部に孔穴。削削に伴 伴する削り穴。部分は摩耗のため調査駆逐不可。	ナゲ、顎端部以下に指揮圧痕が観察。	ササ タラ	粗4mm程度の赤色石をやや多く含む。底面をやや 多く含む。底面は赤色ナゲトを多く含む。赤褐色を含 む。	2.5m(6枚)(底)	2.5m(6枚)(底)	Hej202同一層体 の可能性あり。反転 実測。			
326 86 162	低	A	C21	3	高C1層		6.4	4	3.5	摩耗著しく調査駆逐不可。	ロコナデ ナゲ 地面压痕あり。	粗面	粗1mm程度の長石をやや多く含む。粗1mmの石英をや や多く含む。底面をやや多く含む。	2.5m(6枚)(底)	2.5m(6枚)(底)	Hej202同一層体 の可能性あり。反転 実測。		
327 86 53	三	A	K15	2	高C1層	20	4	6	9	口縫被積ナゲ。その他ハケ目(5枚程度)1/2 cm=1枚(底)。	ハケ目ナゲ 地面中央に指揮圧痕。	粗面	粗2mm程度の赤色石をやや多く含む。底面を やや多く含む。底面は赤色ナゲトを多く含む。	2.5m(6枚)(底)	2.5m(6枚)(底)	反転合計実測。		
328 86 49	三	A	H14	2	鉢・瓶				工具Aによる削り穴。工具Aによる削り穴。	ナゲ。					外側の一部に削付 面。			
329 86 50	三	A	G20	3	西A層				工具Bによる削り穴(底面)。赤褐色。	ロコナデ、指揮圧痕あり。								
330 86 49	三	A	B15	2	鉢・瓶				工具Bによる削り穴(底面)。赤褐色。	ナゲ。								
331 86 50	三	A	J14	3	鉢・瓶					レ・OR 調査駆逐不可。					レ			
332 86 49	三	A	B15	3	鉢・瓶										DH面(14枚)実測。			
333 86 50	三	A	B5	2	鉢・瓶													
334 86 49	三	A	E1	2	瓶・瓶				ハケ目。	摩耗著しく調査駆逐不可。	中 ササ タラ	粗1mm程度の長石をやや多く含む。粗1mmの石英をや や多く含む。底面は赤色ナゲトを多く含む。底面は赤色 ナゲトを多く含む。	2.5m(6枚)	2.5m(6枚)				
335 86 150	三	A	K8	2	瓶A2層				偏方向の摩擦。	ナゲ、指揮圧痕。	ササ タラ	粗1mm程度の長石をやや多く含む。粗1mmの石英を やや多く含む。底面は赤色ナゲトを多く含む。	2.5m(6枚)	2.5m(6枚)				
336 86 172	低	A	高平茶 白石堆 埋蔵地 C 区	7	指揮圧痕	12.4	3	16.5	指揮ナゲ、地軸へラケズ。	田軸ナゲ。	角	粗1mmの白色粒を少量含む。	1.0m(2枚) 赤・青 1.0m(2枚)オフホワ 2.5m(2枚)		高平茶山C 白石堆 埋蔵地 C 区 指揮圧痕 1.0m(2枚) 赤・青 1.0m(2枚)オフホ ワ 2.5m(2枚)			
337 164 72	低	A	高平茶 白石堆 埋蔵地 E 区	2	耐水性 指揮圧痕	11.6	2.1	18.4	3	0.6	0.6	粗擦感・手拭上ギナゲ。斜面に沈没3箇所。沈没部 に底面欠け2箇所。底面下平行チャート。	ナゲ・リ・ウタ目	良	粗0.5mm程度の長石を少量含む。	1.0m(2枚)	1.0m(2枚)	高平茶山C 白石堆 埋蔵地 E 区 耐水性 指揮圧痕 0.6 粗擦感・手拭上 ギナゲ。斜面に沈 没3箇所。沈没部 に底面欠け2箇所。 底面下平行チャ ート。
338 105 73	低	A	高平茶 白石堆 埋蔵地 F 区	2	耐水性 指揮圧痕				摩耗著しく調査駆逐不可。	田軸ナゲ。	良	粗1mmの白色粒を少量含む。	1.0m(2枚) (ない場合) 自然色 3.0m(2 枚) (ギリテラ)	1.0m(2枚) (ない場合)	高水圧。			
339 105 73	低	A	高平茶 白石堆 埋蔵地 G 区	2	耐水性 指揮圧痕	13	1		(471) 田軸ナゲ 田軸へラケズ。	田軸ナゲ。	良	粗1mmの白色粒を少量含む。	NW/SE・垂直10m/ 2枚(底)	NA/底	天井部外壁露 出。天井部露。			
340 105 77	低	A	高平茶 白石堆 埋蔵地 H 区	2	耐水性	12.4	11		4.2. 田軸ナゲ、田軸へラケズ。	田軸ナゲ。	良	粗1mmの白色粒を多く含む。	2.5m(11枚)	2.5m(11枚)				

規 格 名	規 格 號	地 區	出 土 地 點	層 位	形 態 等	法 身 等	性 質 等	測 量		成 分	土 質	色 調		備 考			
								口徑	側面厚			外 色	内 色				
341	105-73	W	新平原 日高町	2	舟身	5.4	1	4.6	4.6	圓軸ナフ、深軸ヘラケヌリ、底板ヘア切。	圓軸ナフ。	良	往1mm下白色相を少量含む。	1.34(1)白(1-7)	1.34(1)白(1-7)	反転表面。	
342	105-73	W	新平原 日高町	2	舟身	9.3	3	14.4	14.4	底軸ナフ、深軸ヘラケヌリ。	圓軸ナフ。	良	往1mmの白色相をやや多く含む。	1.47(1)白(1-7)	1.47(1)白(1-7)	底軸表面の可塑性 あり、反転表面。	
343	105-73	W	新平原 日高町	2	舟身	10	1	14.7	14.7	底軸ナフ、深軸ヘラケヌリ。	圓軸ナフ。	良	往1mmの白色相をやや少なく含む。	1.47(1)白(1-7)	1.47(1)白(1-7)	底軸表面の可塑性 あり、反転表面。	
344	105-73	W	新平原 日高町	2	舟身?	15.8	8	14.5	14.5	底軸ナフ、深軸ヘラケヌリ。	圓軸ナフ。	良	往1mmの白色相をやや少ない含む。	1.47(1)白(1-7)	1.47(1)白(1-7)	底軸表面の可塑性 あり、反転表面。	
345	105-73	W	新平原 日高町	2	舟身?	11.6	6	4.9	4.9	圓軸ナフ 舟ヘラケヌリ	圓軸ナフ。	良	往1mmの白色相をやや少ない含む。	1.51(1)白(1-8)	1.51(1)白(1-8)	反転表面。	
346	105-73	W	A 有島山	2	舟身?	8.3	1	14.7	14.7	圓軸ナフ。	圓軸ナフ。	良	往1mmの白色相を少量含む。	1.47(1)白(1-7)	1.47(1)白(1-7)	反転表面。	
347	105-73	W	A 有島山	2	舟身?	12.2	1	8	1.5	圓軸ナフ、圓軸ヘラケヌリ、腹板にカチ音。	圓軸ナフ。	良	往1mmの白色相をやや少ない含む。	1.47(1)白(1-7)	1.47(1)白(1-7)	1.47(1)白(1-7)	
348	105-73	W	A 有島山	2	舟身?	8.9	6	11.0	11.0	圓軸ナフ 舟ヘラケヌリ	圓軸ナフ。	良	往1mmの白色相を少量含む。	1.47(1)白(1-7)	1.47(1)白(1-7)	底軸 1.47(1)白(1-7)	
349	105-73	W	F12	1	舟					平行タキ。	ナフ。	良	往1mmの白色相をやや少ない含む。	2.57(1)灰(1-8)	2.57(1)灰(1-8)	2.57(1)灰(1-8)	
350	105-73	W	D16	3	舟					平行タキ。	ナフ。	良	往1mmの白色相をやや少ない含む。	1.09(1)白(1-8)	2.97(1)白(1-8)		
351	105-73	W	A 長軸	3	舟					平行タキ。	ナフ。	良	往1mmの白色相をやや少ない含む。	1.75(1)白(1-8)	1.75(1)白(1-8)		
352	105-73	W	A 115	2	舟					平行タキ。	ナフ。	良	往1mmの白色相をやや少ない含む。	1.99(2)白(1-8)	1.99(2)白(1-8)		
353	105-73	W	A 有島山	1	舟					圓軸ナフ、底軸II掛け。	圓軸ナフ、底蓋は掛け付け。	良	往1mmの白色相を濃度に変む。	U 1.77(1)白(1-8)	1.77(1)白(1-8)	底蓋 1.77(1)白(1-8)	
354	105-73	W	A 115	2	舟	3.4	6	1.7	1.7	圓軸ナフ。	圓軸ナフ。	良	往1mmの白色相をやや少ない含む。	1.99(1)白(1-8)	2.97(1)白(1-8)		
355	105-72	W	A 115	3	舟	19.4	1	15.6	7	4.3 圓軸ナフ、底蓋圓軸ヘラケヌリ	圓軸ナフ。	良	往1mmの白色相を少量含む。	1.97(1)白(1-8)	2.97(1)白(1-8)	底蓋合皮束縫入 ダスク。	
470	123-46	良	A 123-46	2	舟					D 線測定下底蓋工事による点火点、ナフ。	ナフ。	やや 不良	赤褐色斑、往1mm程のチャートを含む。	1.07R8(6)黒(1-8)	1.07R8(6)黒(1-8)		
471	123-46	良	A 123-46	2	舟					豊作に工具により点火点、ナフ。	ナフ。	やや 不良	往1mm程の長石を少量含む赤褐色斑が往1mm程のチャートを含む。	1.07R7(6)黒(1-8)	1.07R7(6)黒(1-8)	豊作ナリ。	
472	123-46	良	A 123-46	2	舟					工具により点火点。	ナフ。	やや 不良	往1mm程の長石を濃度に変む往1mm程の石英	1.07R8(6)黒(1-8)	1.07R8(6)黒(1-8)		
473	123-46	良	A 123-46	3	舟?					工具により点火点。	難燃。	往1mm程の長石を濃度に変む赤褐色斑が付む。	7.5YR6(6)褐	7.5YR7(6)灰(1-8)	外間に赤付。		
m-123-46	良	A 123-46	3	舟?					特殊工芸工芸による底蓋工事記述)ナフ下に工具 D7、上向火穴、火穴蓋はハバ哥(先端)。	難燃。	往1mm程の長石を濃度に変む赤褐色斑が付む。	7.5YR7(6)褐	7.5YR7(6)灰(1-8)				
475	123	良	A 123-46	1	鉢 備?					工具により点火点。	ナフ。	往1mm程の長石をやや多く含む往1mm程の石英を含む。	1.07R8(6)白(1-8)	1.07R8(6)白(1-8)			
476	123-46	良	A 123-46	2	舟 C1					口輪縁部ヨコナギ、口輪縁以下ハナ貝(各ノ 2)。	ナフ。	難燃	往1mm程の長石を少量含む赤褐色斑を含む。	7.5YR8(6)白(1-8)	7.5YR8(6)白(1-8)	外間に灰化物 N 付。	
477	123-46	良	A 123-46	2	舟 D	18.4	2	21	19.6	ナフ(上に真上に点火点)。	摩耗著しく、調整装置不可用。	やや 不良	往1mm程の長石をやや多く含む。	7.5YR8(6)白(1-8)	7.5YR8(6)白(1-8)	外間に灰化物 N 付。	
478	123-46	良	A 123-46	3	舟	18	3	31	19.5	摩耗著しく、調整装置不可用。	摩耗著しく、調整装置不可用。	やや 不良	往1mm程の長石を濃度に変む赤褐色斑が往1mm 程のチャートを含む。	1.07R8(6)白(1-8)	1.07R8(6)白(1-8)	外間に灰化物。	
479	123-46	良	A 123-46	3	舟	20	2	21	19.7	1摩耗著しく、調整装置不可用。	摩耗著しく、調整装置不可用。	やや 不良	往1mm程の長石を濃度に変む往1mm程の石英を少 量含む。	7.5YR7(6)褐	1.07R8(6)白(1-8)	外間に灰化物。	
480	123-46	良	A 123-46	2	舟 C	12	6	17.6	17.6	摩耗著しく、調整装置不可用。	摩耗著しく、調整装置不可用。	やや 不良	往1mm程の長石を普通に、伴1mm程の石英を少 量含む。	7.5YR8(6)白(1-8)	5.7-7.6(6)	5.7-7.6(6)	
481	123-46	良	A 123-46	2	舟 A				6	0.9	摩耗著しく、調整装置不可用。	ナフ。	普通	往1mm程の長石を少量含む。	7.5YR7(6)褐	1.07R8(6)白(1-8)	5.7-7.6(6)

遺 物 名 称	材 質	地 點	出 土 地 点	層 位 號	鉢 器	法 規 規 定	外 形	性 質	地 質		地 質	外 部 形 狀	内 部 形 狀	成 因	地 土	外 部 形 狀	内 部 形 狀	性 質		
									口徑	底 厚	底 寬	底 深	底 部 形 狀	外 部 形 狀	内 部 形 狀					
482 123 46 Ⅲ A 佐賀県 球磨市 日吉町	陶	台						8 (28)	摩耗著しく調査結果不可観。				摩耗著しく調査結果不可観。							
483 127 46 Ⅲ A 佐賀県 球磨市 日吉町	陶	2 高岡八幡 宮						12	15cm	摩耗著しく調査結果不可観。			ナテ							
484 123 48 Ⅲ A 佐賀県 球磨市 日吉町	陶	2 駒台					14	◆	三	高		紅	調整は困難。	摩耗著しく調査結果不可観。						
485 123 48 Ⅲ A 佐賀県 球磨市 日吉町	陶	2 直					6.2	6	(3.2)	摩耗著しく調査結果不可観。			摩耗著しく調査結果不可観。							
486 1123 1-48 Ⅲ A 佐賀県 球磨市 日吉町	陶	2 直					5	4	19.0	ハケ昌。指揮座面が底面部ケロ。			ナテ。指揮座面あり。							
487 1023 1-48 Ⅲ A 佐賀県 球磨市 日吉町	陶	2 基本A型					8	(5.5)	摩耗著しく調査結果不可観。			摩耗著しく調査結果不可観。								
488 1123 1-48 Ⅲ A 佐賀県 球磨市 日吉町	陶	3 曲					6.4	6	(4.0)	摩耗著しく調査結果不可観。			摩耗著しく調査結果不可観。							
489 123 48 Ⅲ A 佐賀県 球磨市 日吉町	陶	3 曲					9	6	10.7	摩耗著しく調査結果不可観。			摩耗著しく調査結果不可観。							
490 130 77 V A SZAO1 1 小直							3.9	5	(1.8)	1回転ナギ。底部回転を切り。			回転ナギ。底部指捺ナギ。			不規則	4mm程度の島状毛やタガ。	19H(直)	2.5H(直)	反転旋削。
491 130 77 V A SZAO1 1 小直							7.9	4	1	4.6	6	1.6	回転ナギ。底部回転を切り。			直	1m円の長石を直通に含む。	25H(直)	2.5H(直)	反転旋削。
500 130 77 V A SZAO1 1 小直							8.2	6	4.8	6	2	1	回転ナギ。底部回転を切り。底状圧痕あり。			直	1m程度の長石を直通に含む。	9H(直)	9H(直)	口輪内一部に 自然物。反転旋削。
501 130 77 V A SZAO1 1 小直							8.9	6	4.3	6.1	u	1	回転ナギ。底部回転を切り。			直	1m程度の長石を直通に含む。	9H(直)	9H(直)	口輪内一部に 自然物。反転旋削。
502 135 77 V A SZAO1 1 山頂							5.3	6	(2.8)	1回転ナギ。底部回転を切り。両方に斜削痕あり。			回転ナギ。底部指捺ナギ。			直	2m程度の長石を直通に含む。	9H(直)	9H(直)	反転旋削。
504 130 77 V A SZAO1 1 山頂							14.2	6	(4.5)	1回転ナギ。			回転ナギ。			直	2m程度の長石を直通に含む。	2.5H(直)	2.5H(直)	内面一部に薄片。 反転旋削。
504 130 77 V A G13 E 伊勢国										摩耗著しく調査結果不可観。			摩耗著しく調査結果不可観。			直	5.0cm。直通の石糞を直通に含む。	7.5H(直)	7.5H(直)	反転旋削。
505 132 77 V A D21 2 小直							7.8	4	5	10	1.3	回転ナギ。底部回転を切り。底状圧痕あり。			直	1m程度の長石をやわらかい。	2.5H(直)	2.5H(直)	口輪内一部に 自然物。反転旋削。	
506 132 77 V A SOA 01 1 山頂							3.7	3	(2.1)	1回転ナギ。底部回転を切り。台面に斜削痕あり。			回転ナギ。			直	1m程度の長石をやわらかい。	2.5H(直)	2.5H(直)	内面に自然物。反 転旋削。
507 132 77 V A SOA 02 1 山頂							12.3	2					回転ナギ。			直	2.5m程度の長石を少々含む。	2.5H(直)	2.5H(直)	反転旋削。
508 132 77 V A H10 3 横利										回転ナギ。			回転ナギ。			直	0.5~1.0m程度の長石。後、0.5~1.0m程度の石 英をやや多く含む。	5H(直)	5H(直)	輪がけ後に放置 です。
509 130 77 V A SOA 02 2 横							43.8	1					ナテ。			直	0.5~1.0m程度の長石。後、1.0m程度の石 英をやや少く含む。	2.5H(直)	2.5H(直)	磨き早い。底面不 規則。内面に自然物 もに底面に放置 です。

第13表 土器観察表B地区

番号	地名	地区	出土区	位置	器種	目付	地質	高段	地質	外 壁		内 壁		構成	地 土		色 種		編 号		
										外	内	外	内		外	内	外	内			
510	146	83	三	B	1	壹			4.6	3 (2)	摩耗著しく調査困難不可能。	ハケ目		径1m程度の岩石を少量、往1m程度の石英を少量含む。	石英 (1個)	10.9 (1個)	10.9 (1個)	反転実測。			
511	146	83	三	B	58801	1	器台A 隅				5.03	壁方向の刃突。	受部刃突。	やや 白	径1mの長石を少量、往1mの石英を少量含む。	2.59 (2個)	2.59 (2個)	511地盤変動	511地盤変動		
512	146	83	m	B	58801	P3	1	器台A 隅				摩耗著しく調査困難不可能。	摩耗著しく調査困難不可能。	やや 白 不均	径1mの長石を少量、往1mの石英を少量含む。	2.59 (1個)	2.59 (1個)				
513	146	83	三	B	58804	2	壹					ハケ目・標準形。	摩耗著しく調査困難不可能。	白	往1mの長石を少量、往1mの石英を少量含む。	2.59 (2個)	1.56 (1個)				
514	146	83	三	B	58804	2	壹					ハケ目	摩耗著しく調査困難不可能。	白	往1mの長石を少量、往1mの石英を少量含む。	2.59 (1個)	2.59 (1個)				
515	146	83	三	B	58804	1	壹			5.6	6 (1,41)	ハケ目。	摩耗著しく調査困難不可能。	白	往1mの長石をやや少く往1mの石英を少量含む。	2.59 (1個)	2.59 (1個)	反転実測			
516	146	83	三	B	58804	1	器台		13	1,5	(1,51)	表面に像微文様・調査は材料難・調査不可能。	摩耗著しく調査困難不可能。	白	往1mの長石をやや少く往1mの石英を少量含む。	2.59 (1個)	2.59 (1個)	反転実測。			
517	146	83	三	B	58804	2	高坪A 隅				(1)	摩耗著しく調査困難不可能。	ナデ。	やや 白	往1mの長石を少量含む。	10.9 (1個)	10.9 (1個)	10.9 (1個)	10.9 (1個)	10.9 (1個)	
518	146	83	三	B	58804	1	高坪A 隅				7.45	摩耗著しく調査困難不可能。	ナデ。	やや 白	往1mの長石を少量含む。	10.9 (1個)	10.9 (1個)	10.9 (1個)	10.9 (1個)	10.9 (1個)	
519	146	83	三	B	58805	1	器台					口縁部に複合文様・摩耗著しく調査困難不可能。	ナデ目。	白	往1mの長石をやや少く往1mの石英を少量含む。	9.0 (1個)	9.0 (1個)	N05-15-5121-1 地盤変動			
520	146	83	三	B	5881	1	器台					ハケ目・標準形。*	ハケ目。	白	往1mの長石をやや少く往1mの石英を少量含む。	9.0 (1個)	9.0 (1個)	N05-521-1522 同 - 摩耗孔跡			
521	146	83	三	B	58805	1	器台					ハケ目・標準形 2	ハケ目 2	白	往1mの長石をやや少く往1mの石英を少量含む。	9.0 (1個)	9.0 (1個)	N05-521-1522 同 - 摩耗孔跡			
522	146	83	m	B	58805	1	器台					ハケ目・標準形。*	ハケ目 2	白	往1mの長石をやや少く往1mの石英を少量含む。	2.59 (2個)	2.59 (2個)	N05-15-5121-1 地盤変動			
523	146	83	三	B	588	D1	1	裏ヌ端				口縁部・側面に刻文・調査J摩耗・調査 不規則。	摩耗著しく調査困難不可能。	やや 白	往1m程度の岩石を少量、往1m程度の石英を少量含む。	1' 8.4 (12個)	10.9 (4に1孔)	10.9 (4に1孔)	10.9 (4に1孔)		
524	146	83	三	S	58806	1	裏 ヌ?					工具Bによる刻文等・や間に工具Cによる 刻文・文様以外に辨別したため調査困難不可 能。	摩耗著しく調査困難不可能。	やや 白	往1mの長石を少量、往1mの石英を少量含む。	2.59 (2個)	2.59 (2個)	2.59 (2個)	2.59 (2個)		
525	146	83	三	B	528	3	裏					工具Bによる列点式。1) ナ目。	摩耗著しく調査困難不可能。	白	往1mの長石を少量含む。	7.59 (4/10孔)	7.59 (4/10孔)	7.59 (4/10孔)	7.59 (4/10孔)		
526	146	83	三	B	528	2	裏					摩耗著しく調査困難不可能。	摩耗著しく調査困難不可能。	やや 白	往1mの長石を首筋に含む。	5.9 (2個)	5.9 (2個)				
527	146	83	三	B	528	3	器台					摩耗著しく調査困難不可能。	摩耗著しく調査困難不可能。	やや 白	往1mの長石を首筋に含む。往1m程度のチー トと中央から左右へ。	5.9 (2個)	5.9 (2個)	N05-15-5121-1 地盤変動			
528	146	83	三	B	528	3	器台					摩耗著しく調査困難不可能。	摩耗著しく調査困難不可能。	やや 白	往1mの長石をやや少く往1m程度のチー トと中央から左右へ。	5.9 (2個)	5.9 (2個)	N05-15-5121-1 地盤変動			
529	146	83	三	B	BE12	3	器A I 隅					口縁部に刃内側・刃外側・刃縁部は刃方向の 刻文。	口縁部に研磨工具による擦痕状の充 満。	白	往1mの長石をやや少く往1m程度のチー トと中央から左右へ。	5.9 (2個)	5.9 (2個)	外面に灰化物付 着。			
530	146	83	紅	B	BM1	3	器台A 隅		14.2	3 (1)	刃内側部外側に工具Cによる直線文等・刃方 向の刻文。	刃内側部外側に工具Cによる直線文等・刃方 向の刻文。	ナデ。	往1m程度の岩石を普通に往1m程度の石英をや や少く含む。往1m程度のチートを含む。	2.59 (2個)	2.59 (2個)	1FL 15-521-1522 方向・調査実測。				
531	146	83	三	B	BE12	3	器台					口縁部に工具Cによる直線文等・刃方 向の刻文。	摩耗著しく調査困難不可能。	やや 白	往1mの長石をやや少く往1m程度のチー トを含む。	10.9 (4/12孔)	10.9 (4に1孔)	10.9 (4に1孔)	10.9 (4に1孔)		
532	146	83	三	B	BE12	3	器台A 隅		12.2	1.5 (1,3)	壁方向の刃突。	ナデ。	白	往1m程度の岩石を少量含む。	7.59 (7/4に1孔)	7.59 (7/6に1孔)	1FL 15-521-1522 方向・調査実測。				

第14表 墓輪観察表

監査 番号	地名 区域	真高 mm	出土区	層番	分類	地 国		方 带		調 構		成	地 国		備考							
						段位	or	標高	地質	形狀	幅	高さ	外 地	内 地								
386	110	63	後平塚 日吉塚 C区	1	内側部 砂場 A級	口段		21.5	12	第1 夷帶	1.4	0.5	第1段 ハケ調整 A (3本/2m)。基盤に底盤土工を 施工し、上部に砂層を充填するアスレチ タ・アラヒ底盤工事の地跡。	ハケ調整 A (3本/2m)、ナタ・植木み棒 鉛錠注漬鋼。基盤ケズリ・抜開成。	やや 良い やや 不良	往3m以下の良石を普通に、往 2m以下の石英をやや少く含む。 G.往4mのチートを含む。	7.SYRH/6(浅黄緑) 7.SYRH/6(浅黄緑)	7.SYRH/6(浅黄緑) 7.SYRH/6(浅黄緑)	凡あり、ヘラ記号不明。 既設設定困難あり。既設実 施。			
						第2段 底盤		8.8		第2段 ハケ調整 A (6.4)			部分的にナデ・ハケ調整 A (6.8/2m)。									
						第3段 底盤		(4.4)		第3段 ハケ調整 A (4.4)			部分的にナデ・ハケ調整 A (7本/2m)。									
						口段		26.0	1.5	第1 夷帶			第1段									
389	110	62	後平塚 日吉塚 C区	2	内側部 砂場 A級	口段		26.0	1.5	第1 夷帶			第1段						既設実施			
						第2段 底盤				第2段 ハケ調整 A (9.0)			第1段 ハケ調整 A (7本/2m)	ハケ調整 A (7本/2m)	普通	往3m以下の良石を普通に、往 2m以下の石英をやや少く含 む。G.往4mのチートを含む。	7.SYRH/6(浅黄緑) 7.SYRH/6(浅黄緑)	7.SYRH/6(浅黄緑) 7.SYRH/6(浅黄緑)				
						第3段 底盤				第3段 ハケ調整 A (9.0)			第1段									
						口段				第1 夷帶			第2段 ハケ調整 A (7本/2m)	ハケ調整 A (7本/2m)	やや 不良	往1m以下の良石を少量、往 4m以下の石英を少量含む。	7.SYRH/6(浅黄緑) 7.SYRH/6(浅黄緑)	7.SYRH/6(浅黄緑) 7.SYRH/6(浅黄緑)				
390	110	62	後平塚 日吉塚 C区	2	内側部 砂場 A級	口段				第1 夷帶			第1段						既設実施			
						第2段 底盤				第2段 ハケ調整 A (3.8)			第1段 ハケ調整 A (7本/2m)	ハケ調整 A (7本/2m)	普通	往3m以下の良石を普通に、往 2m以下の石英をやや少く含 む。G.往4mのチートを含む。	7.SYRH/6(浅黄緑) 7.SYRH/6(浅黄緑)	7.SYRH/6(浅黄緑) 7.SYRH/6(浅黄緑)				
						第3段 底盤				第3段 ハケ調整 A (4.5)			第1段									
						口段				第1 夷帶			第2段 ハケ調整 A (3.7)	ハケ調整 A (3.7)	やや 不良	往1m以下の良石を少量、往 4m以下の石英を少量含む。	7.SYRH/6(浅黄緑) 7.SYRH/6(浅黄緑)	7.SYRH/6(浅黄緑) 7.SYRH/6(浅黄緑)				
391	110	62	後平塚 日吉塚 C区	2	内側部 砂場 A級	口段				第1 夷帶			第1段 ハケ調整 A (3.0)	ハケ調整 A (3.0)	普通	往1m以下の良石を少量、往 4m以下の石英を少量含む。G. 往4mのチートを含む。	7.SYRH/6(浅黄緑) 7.SYRH/6(浅黄緑)	7.SYRH/6(浅黄緑) 7.SYRH/6(浅黄緑)	既設実施			
						第2段 底盤				第2段 ハケ調整 A (4.4)			第1段 ハケ調整 A (3.0/2m)	ハケ調整 A (3.0/2m)	やや 不良	往1m以下の良石を少量、往 4m以下の石英を少量含む。G. 往4mのチートを含む。	7.SYRH/6(浅黄緑) 7.SYRH/6(浅黄緑)	7.SYRH/6(浅黄緑) 7.SYRH/6(浅黄緑)				
						口段				第1 夷帶			第2段 ハケ調整 A	ハケ調整 A	普通	往1m以下の良石を少量、往 4m以下の石英を少量含む。G. 往4mのチートを含む。	7.SYRH/6(浅黄緑) 7.SYRH/6(浅黄緑)	7.SYRH/6(浅黄緑) 7.SYRH/6(浅黄緑)				
						第3段 底盤				第3段 ハケ調整 A (4.4)			第1段 ハケ調整 A (3.0/2m)	ハケ調整 A (3.0/2m)	やや 不良	往1m以下の良石を少量、往 4m以下の石英を少量含む。G. 往4mのチートを含む。	7.SYRH/6(浅黄緑) 7.SYRH/6(浅黄緑)	7.SYRH/6(浅黄緑) 7.SYRH/6(浅黄緑)				
392	110	63	後平塚 日吉塚 C区 P区	1	内側部 砂場 A級	口段				第1 夷帶			第1段 ハケ調整 A (16.7)	ハケ調整 A (16.7)	普通	往1:ハケ調整 A (16.7/2m)。基盤に底盤土工 と工具で強固した地跡の痕跡あり。基盤ケズ リ・チート・アラヒ底盤工事の地跡。	ハケ調整 A (3本/2m)・基盤ケズリ・ チート・アラヒ底盤工事の痕跡。	やや 不良	往3m以下の良石を普通に、往 2m以下の石英をやや少く含む。G. 往4mのチートを含む。	7.SYRH/6(浅黄緑) 7.SYRH/6(浅黄緑)	7.SYRH/6(浅黄緑) 7.SYRH/6(浅黄緑)	既設実施
						第2段 底盤				第2段 ハケ調整 A (16.7)			第1段 ハケ調整 A		普通							
						第3段 底盤				第3段 ハケ調整 A (16.7)			第1段									
						口段				第1 夷帶			第2段 ハケ調整 A (16.3)	ハケ調整 A (16.3)	普通	往1段:不規 則	不規則	7.SYRH/6(浅黄緑) 7.SYRH/6(浅黄緑)	7.SYRH/6(浅黄緑) 7.SYRH/6(浅黄緑)			
393	110	62	後平塚 日吉塚 C区	1	内側部 砂場 A級	口段				第1 夷帶			第1段 ハケ調整 A (15.8)	ハケ調整 A (15.8)	普通	往1段:不規 則	不規則	7.SYRH/6(浅黄緑) 7.SYRH/6(浅黄緑)	7.SYRH/6(浅黄緑) 7.SYRH/6(浅黄緑)	既設実施		
						第2段 底盤				第2段 ハケ調整 A (15.8)			第1段 ハケ調整 A (15.8)	ハケ調整 A (15.8)	普通	往1段:不規 則	不規則	7.SYRH/6(浅黄緑) 7.SYRH/6(浅黄緑)	7.SYRH/6(浅黄緑) 7.SYRH/6(浅黄緑)			
						第3段 底盤				第3段 ハケ調整 A (15.8)			第1段 ハケ調整 A (15.8/2m)	ハケ調整 A (15.8/2m)	普通	往6m以下の良石を普通に、往 4m以下の石英をやや少く含む。G. 往4mのチートを含む。	7.SYRH/4(浅黄緑) 7.SYRH/6(浅黄緑)	7.SYRH/4(浅黄緑) 7.SYRH/6(浅黄緑)				
						口段				第1 夷帶			第2段 ハケ調整 A (15.8)	ハケ調整 A (15.8)	普通							
394	110	62	後平塚 日吉塚 C区	1	内側部 砂場 A級	口段				第1 夷帶			第1段 ハケ調整 A (16.0)	ハケ調整 A (16.0)	普通	往1段:不規 則	不規則	7.SYRH/4(浅黄緑) 7.SYRH/6(浅黄緑)	7.SYRH/4(浅黄緑) 7.SYRH/6(浅黄緑)	既設実施		
						第2段 底盤				第2段 ハケ調整 A (16.0)			第1段 ハケ調整 A (16.0/2m)	ハケ調整 A (16.0/2m)	普通							
						第3段 底盤				第3段 ハケ調整 A (16.0)			第1段 ハケ調整 A (16.0/2m)	ハケ調整 A (16.0/2m)	普通							
						口段				第1 夷帶			第2段 ハケ調整 A (16.0)	ハケ調整 A (16.0)	普通	往2m以下の良石をやや少く、 往3m以下の石英を少し含む。	7.SYRH/6(浅黄緑) 7.SYRH/6(浅黄緑)	7.SYRH/6(浅黄緑) 7.SYRH/6(浅黄緑)				
395	110	62	後平塚 日吉塚 C区	1	内側部 砂場 A級	口段				第1 夷帶			第1段 ハケ調整 A (16.0)	ハケ調整 A (16.0)	普通	往1段:不規 則	不規則	7.SYRH/6(浅黄緑) 7.SYRH/6(浅黄緑)	7.SYRH/6(浅黄緑) 7.SYRH/6(浅黄緑)	既設実施		
						第2段 底盤				第2段 ハケ調整 A (16.0)			第1段 ハケ調整 A (16.0/2m)	ハケ調整 A (16.0/2m)	普通							
						第3段 底盤				第3段 ハケ調整 A (16.0)			第1段 ハケ調整 A (16.0/2m)	ハケ調整 A (16.0/2m)	普通							
						口段				第1 夷帶			第2段 ハケ調整 A (16.0)	ハケ調整 A (16.0)	普通							

掘起 番号	測定 部品	実高 度	比土区	層位	分類	高さ			突 き			底 部			造成 度	地 上 土	色 調		備 考
						高さ	幅 度	厚 さ	部位	形状	幅 度	高 さ	外 面	内 面			外 面	内 面	
350	111	64	後平第 1.古吉 A区	Ⅱ	内層 付 層 A類	1.0	34.4	0.5	上端	1.0	0.5	第1段：ハケ調整A (10cm/2m) .部分的にナギ。ナギ・輪縫み・根茎等、細根付近から。					2.5YR7/6(暗赤褐色)	SYR7/6(暗)	第2付-第3付に透孔あり。 △ラジウムも認められるが、 図上では認識。後平第1.古吉同様にⅡ区員員A区 と地盤合意成反転開削。
						2.0	17.5	2	中段	1.0	0.5	第2段：ハケ調整A (10cm/2m)					2.5YR6/6(暗赤褐色)	SYR7/6(暗)	
						3.0	17.5	2	中段	1.0	0.5	第3段：ハケ調整A (10cm/2m)					2.5YR6/6(暗赤褐色)	SYR7/6(暗)	
						4.0	17.5	2	中段	1.0	0.5	第4段：ハケ調整A (10cm/2m)					2.5YR6/6(暗赤褐色)	SYR7/6(暗)	
						5.0	17.5	2	中段	1.0	0.5	第5段：ハケ調整A (10cm/2m)					2.5YR6/6(暗赤褐色)	SYR7/6(暗)	
						6.0	17.5	2	中段	1.0	0.5	第6段：ハケ調整A (10cm/2m)					2.5YR6/6(暗赤褐色)	SYR7/6(暗)	
						7.0	17.5	2	中段	1.0	0.5	第7段：ハケ調整A (10cm/2m)					2.5YR6/6(暗赤褐色)	SYR7/6(暗)	
						8.0	17.5	2	中段	1.0	0.5	第8段：ハケ調整A (10cm/2m)					2.5YR6/6(暗赤褐色)	SYR7/6(暗)	
						9.0	17.5	2	中段	1.0	0.5	第9段：ハケ調整A (10cm/2m)					2.5YR6/6(暗赤褐色)	SYR7/6(暗)	
						10.0	17.5	2	中段	1.0	0.5	第10段：ハケ調整A (10cm/2m)					2.5YR6/6(暗赤褐色)	SYR7/6(暗)	
351	111	56	後平第 1.古吉 A区	Ⅱ	内層 付 層 A類	1.0	20.0	3	上端	1.0	0.7	第1段：ハケ調整A (10cm/2m) .表面付近に細根 付近あり。					7.5YR7/6(暗)	7.5YR7/6(暗)	透孔あり△ラジウムは不 規則半円形で古吉同様C 区と地盤合意実施。
						2.0	17.0	3	中段	1.0	0.7	第2段：ハケ調整A (10cm/2m) .表面付近に細根 付近あり。					7.5YR7/6(暗)	7.5YR7/6(暗)	
						3.0	17.0	3	中段	1.0	0.7	第3段：ハケ調整A (10cm/2m) .表面付近に細根 付近あり。					7.5YR7/6(暗)	7.5YR7/6(暗)	
						4.0	17.0	3	中段	1.0	0.7	第4段：ハケ調整A (10cm/2m) .表面付近に細根 付近あり。					7.5YR7/6(暗)	7.5YR7/6(暗)	
352	111	55	後平第 1.古吉 A区	Ⅱ	内層 付 層 A類	1.0	27.2		上端			第1段：							反転実施。
						2.0			中段			第2段：							
						3.0			中段			第3段：ハケ調整A (10cm/2m) .表面付近に細根 付近あり。							
						4.0			中段			ハケ調整A (10cm/2m) .表面付近に細根 付近あり。							
353	111	55	後平第 1.古吉 A区	Ⅱ	内層 付 層 A類	1.0	27.2		上端			第1段：							反転実施。
						2.0			中段			第2段：							
						3.0			中段			第3段：ハケ調整A (10cm/2m) .表面付近に細根 付近あり。							
						4.0			中段			ハケ調整A (10cm/2m) .表面付近に細根 付近あり。							
354	111	55	後平第 1.古吉 A区	Ⅱ	内層 付 層 A類	1.0	27.2		上端			第1段：							反転実施。
						2.0			中段			第2段：							
						3.0			中段			第3段：							
						4.0			中段			ハケ調整A (10cm/2m) .表面付近に細根 付近あり。							
355	111	62	後平第 1.古吉 A区	Ⅱ	内層 付 層 A類	1.0	17.0	3	上端			第1段：							反転実施。
						2.0			中段			第2段：							
						3.0			中段			第3段：							
						4.0			中段			ハケ調整A (10cm/2m) .表面付近に細根 付近あり。							
401	111	58	後平第 1.古吉 B区	Ⅱ	内層 付 層 B類	1.0	26.0	0.5	上端			第1段：							透孔△ラジウムあり。即 時反転開削。
						2.0	17.0	3	中段			第2段：							
						3.0	17.0	3	中段			第3段：							
						4.0	17.0	3	中段			ハケ調整A (10cm/2m) .表面付近に細根 付近あり。							
402	112	58	後平第 1.古吉 B区	Ⅱ	内層 付 層 B類	1.0	26.0	0.5	上端			第1段：							透孔△ラジウムあり。即 時反転開削。
						2.0			中段			第2段：							
						3.0			中段			第3段：							
						4.0			中段			ハケ調整A (10cm/2m) .表面付近に細根 付近あり。							
403	112	54	後平第 1.古吉 D区	Ⅱ	内層 付 層 D類	1.0	26.0	0.5	上端			第1段：							透孔△ラジウムあり。即 時反転開削。
						2.0			中段			第2段：							
						3.0			中段			第3段：							
						4.0			中段			ハケ調整A (10cm/2m) .表面付近に細根 付近あり。							

実験 番号	地区 名	可算 面積	出土数	被覆	分類	高 度		実 験		調 査		地 域	地 土	色 調		備 考
						位 置	m 標高	形 状	幅 m	高 さ	外 面			外 面	内 面	
404	福平港 田吉場 D区	内海部 砂場 A類	59	口付 高さ 底地 中段 高さ 底地 高さ 底地	基 1 突 堤 基 2 突 堤	基 1 突 堤	1.8	0.6	第1段	ハケ調整B	ハケ調整B	底2m以下 の石英を普通に、 1m以下 の石英を多量に含む。	10YR8/3(凸)(P1,4)	7,5YR8/4(凸)(P1,4)	底2m以下 の石英を普通に、 1m以下 の石英を多量に含む。	
						基 1 突 堤			第2段	ハケ調整B(16本/2m)	ハケ調整B(17本/2m)		10YR8/3(凸)(P1,4)	7,5YR8/4(凸)(P1,4)		
						基 2 突 堤			第3段							
405	福平港 田吉場 D区	内海部 砂場 A類	59	口付 高さ 底地 中段 高さ 底地 高さ 底地	基 1 突 堤 基 2 突 堤	基 1 突 堤	1.6	0.6	第1段	ハケ調整B	ハケ調整B	底2m以下 の石英を普通に、 1m以下 の石英を多量に含む。	7,5YR8/4(凸)(P1,4)	7,5YR8/4(凸)(P1,4)	底2m以下 の石英を普通に、 1m以下 の石英を多量に含む。	
						基 1 突 堤			第2段	ハケ調整B(17本/2m)	ハケ調整B		7,5YR8/4(凸)(P1,4)	7,5YR8/4(凸)(P1,4)		
						基 2 突 堤			第3段							
406	福平港 田吉場 A区	内海部 砂場 A類	63	口付 高さ 底地 中段 高さ 底地 高さ 底地	基 1 突 堤 基 2 突 堤	基 1 突 堤	1.5	0.5	第1段			底1m以下の の長石・石英を普通に、 1m以下 の石英を多量に含む。	2,5YR7/3(暗) VR8/6(暗黄)	3YR7/4(暗)	底1m以下の の長石・石英を普通に、 1m以下 の石英を多量に含む。	
						基 1 突 堤			第2段	ハケ調整A(0本/2m)	ハケ調整A(7本/2m)		2,5YR7/3(暗) VR8/6(暗黄)	3YR7/4(暗)		
						基 2 突 堤			第3段	口縁底部ナジ・ハケ調整A(7本/2m)。 口縁底部ナジ・ハケ調整A(8本/2m)。	口縁底部ナジ・ハケ調整A(8本/2m)。		2,5YR7/6(暗) VR8/6(暗黄)	3YR7/6(暗)		
407	福平港 田吉場 C区	内海部 砂場 A類	63	口付 高さ 底地 中段 高さ 底地 高さ 底地 高さ 底地	基 1 突 堤 基 2 突 堤	基 1 突 堤	1.5	0.7	第1段	ハケ調整B(14本/2m)。表面に岩礁部 及上部に岩礁部。部分的に岩礁部 及上部に岩礁部。	ナジ・ハケ調整A・隕鉄錆跡部・ハケ調整 B(11本/2m)。表面に岩礁部。	底1.5m以下の の長石・石英を普通に、 1m以下 の石英を多量に含む。 1mのチーを含む。	SVR7/6(暗)	7,5YR7/6(暗)	底孔・ヘラ記号あり。底平 港田吉場開削区とMも修 合。	
						基 1 突 堤			第2段	ハケ調整B(14本/2m)。	ハケ調整B(16本/2m)。		SVR7/6(暗)	7,5YR7/6(暗)		
						基 2 突 堤			第3段	ハケ調整B(16本/2m)。	ハケ調整B(15本/2m)。		SVR7/6(暗)	7,5YR7/6(暗)		
408	福平港 田吉場 C区	内海部 砂場 A類	63	口付 高さ 底地 中段 高さ 底地 高さ 底地 高さ 底地	基 1 突 堤 基 2 突 堤	基 1 突 堤	1.9	0.9	第1段	口縁底部ナジ・ハケ調整A(7本/2m)。 ナジ・ハケ調整A(7本/2m)。	ナジ・ハケ調整A(7本/2m)。	底1mの長石・石英を少量に 含む。底1mのチーを少量に含む。	10YR6/6(明黄)	10YR6/6(明黄)	底孔あり。ヘラ記号不明。 底板実測。	
						基 1 突 堤			第2段	ハケ調整A(8本/2m)。	ハケ調整A(8本/2m)。部分的に岩礁部 及上部に岩礁部。		10YR6/6(明黄)	10YR6/6(明黄)		
						基 2 突 堤			第3段	ハケ調整A(8本/2m)。	ハケ調整B(15本/2m)。		10YR6/6(明黄)	10YR6/6(明黄)		
409	福平港 田吉場 C区	内海部 砂場 A類	65	口付 高さ 底地 中段 高さ 底地 高さ 底地 高さ 底地	基 1 突 堤 基 2 突 堤	基 1 突 堤	1.8	0.6	第1段	ハケ調整B(15本/2m)。表面に岩礁部 及上部に岩礁部。部分的に岩礁部 及上部に岩礁部。	ナジ・ハケ調整A(7本/2m)。表面に岩礁部 及上部に岩礁部。部分的に岩礁部 及上部に岩礁部。	底1m程度 の長石・石英をやや多く 含む。底1m程度のチーをやや多く 含む。	2,5YR7/6(暗)	2,5YR7/6(暗)	底孔・ヘラ記号あり。	
						基 1 突 堤			第2段	ハケ調整A(8本/2m)。	ハケ調整A(8本/2m)。部分的に岩礁部 及上部に岩礁部。		2,5YR7/6(暗)	2,5YR7/6(暗)		
						基 2 突 堤			第3段	口縁底部ナジ・ハケ調整A(8本/2m)。	口縁底部ナジ・ハケ調整A(8本/2m)。部分的に岩礁部及上部に岩礁部。		2,5YR7/6(暗)	2,5YR7/6(暗)		
410	福平港 田吉場 C区	内海部 砂場 A類	65	口付 高さ 底地 中段 高さ 底地 高さ 底地 高さ 底地	基 1 突 堤 基 2 突 堤	基 1 突 堤	1.7	0.6	第1段	ハケ調整A(16本/2m)。表面に岩礁部 及上部に岩礁部。部分的に岩礁部 及上部に岩礁部。	ナジ・ハケ調整A(16本/2m)。表面に岩礁部 及上部に岩礁部。部分的に岩礁部 及上部に岩礁部。	底1m程度 の長石をやや多く 含む。底1m程度のチーをやや多く 含む。	10YR6/2(明黄)	7,5YR6/3(凸)(P1,4)	底孔あり。ヘラ記号は不 明。福平港田吉場C区-J 150も修合。	
						基 1 突 堤			第2段	ハケ調整A(16本/2m)。	ハケ調整A(16本/2m)。部分的に岩礁部及上部に岩礁部。		10YR6/2(明黄)	7,5YR6/3(凸)(P1,4)		
						基 2 突 堤			第3段	ハケ調整A(16本/2m)。	ハケ調整B(16本/2m)。		10YR6/2(明黄)	7,5YR6/3(凸)(P1,4)		
411	福平港 田吉場 C区	内海部 砂場 A類	65	口付 高さ 底地 中段 高さ 底地 高さ 底地 高さ 底地	基 1 突 堤 基 2 突 堤	基 1 突 堤	2.0	0.6	第1段	ハケ調整B(16本/2m)。表面に岩礁部 及上部に岩礁部。部分的に岩礁部 及上部に岩礁部。	ナジ・多面ケリ・隕鉄錆跡。 ナジ・多面ケリ・隕鉄錆跡。	底1mの長石・石英をやや多く 含む。	2,5YR7/6(暗)	7,5YR7/6(暗)	底孔あり。ヘラ記号不明。 福平港田吉場A区・B区 とも修合済。	
						基 1 突 堤			第2段	ハケ調整B(16本/2m)。	複数箇所にナジ・隕鉄錆跡。		2,5YR7/6(暗)	7,5YR7/6(暗)		
						基 2 突 堤			第3段	口縁底部ナジ・ハケ調整B(16本/2m)。	ハケ調整B(16本/2m)。		2,5YR7/6(暗)	7,5YR7/6(暗)		

地質 番号	地質 構造	完 成 年 代	出土区	層位	分類	実 測 表						地 質 構 造	地 質 形 態	色 調 表	備 考
						部位	厚 さ	地質年	部位	厚 さ	外 面				
4101 115	後 平 原 田古墳 周辺 区	新 石 器 時代	2	円筒形 堆積 A層		第1 黄砂	1.6	0.4	第1段	1.1段	ハケ調査A(3本/2m)、部分的に堆積正走 向を示すための横断面があり、基盤クヌク ナデ、輪郭みぼ、堆積II、表面層・基盤ケ ズリ指標斑。	ナデ、輪郭みぼ、堆積II、表面層・基盤ケ ズリ指標斑。	7,5YR5/3(に5V4)	7,5YR5/4(に5V4)	透孔あり、今号記号平現。 後平原田古墳周辺C帯と も統合。反転出現。
						第7 灰岩	1.7	0.5	第2段	ハケ調査A(3本/2m)	ハケ調査A(3本/2m)、様子想に後進庄 相ナデ。	ハケ調査A(3本/2m)	7,5YR5/3(に5V4)	7,5YR5/4(に5V4)	
						第3段	ハケ調査A(3本/2m)	ハケ調査A(3本/2m)	ハケ調査A(3本/2m)	ハケ調査A(3本/2m)	7,5YR5/3(に5V4)	7,5YR5/4(に5V4)			
4131 116	後 平 原 田古墳 周辺 区	新 石 器 時代	671 11	円筒形 堆積 A層		第1 黄砂	1.7	0.7	第1段	1.1段	ハケ調査A(7本/2m)にテラス輪郭みぼ、 堆積II指標斑、基盤ケズリ指標。	ハケ調査A(7本/2m)にテラス輪郭みぼ、 堆積II指標斑、基盤ケズリ指標。	7,5YR6/6(6V4)	7,5YR6/4(6V4)	透孔へ今号記号平現 平白原田古墳周辺C帯と も統合。反転出現。
						第2 灰岩	1.6	0.5	第2段	ハケ調査A(3本/2m)	輪郭みぼ、層厚が部分的に堆積庄相、ハケ 調査A(3本/2m)	ハケ調査A(3本/2m)	7,5YR6/6(6V4)	7,5YR6/4(6V4)	
						第3段	部分的にナデ、ハケ調査A(3本/2m)	ハケ調査A(3本/2m)	ハケ調査A(3本/2m)	ハケ調査A(3本/2m)	7,5YR6/6(6V4)	7,5YR6/4(6V4)			
4141 116	後 平 原 田古墳 周辺 区	551 11	2	円筒形 堆積 A層		口砂			第1段						同じ。以下の各石を普通に経 3mm以上の石英をやわらかく感 じる。
						第2段			第1段						
						第3段			第2段						
415 116	後 平 原 田古墳 周辺 区	701 11	2	円筒形 堆積 A層		口砂	26.0	3	第1 黄砂						透孔あり、反転出現。
						底			第1段						
						第2段			第2段						
4161 116	後 平 原 田古墳 周辺 区	701 11	2	円筒形 堆積 A層		口砂	29.5	3	第1 黄砂						透孔あり直線的傾斜の複数 不規則。平白原田古墳周辺C 帯と統合。反転出現。
						底	16.6	3	第2 灰岩						
						第3段	8.3		第1段	1.1段	ハケ調査A(7本/2m)、部分的にナデ、 輪郭みぼ。	ハケ調査A(7本/2m)、部分的にナデ、 輪郭みぼ。	SYR7/4(4V3)	SYR7/4(4V3)	
4171 116	後 平 原 田古墳 周辺 区	701 11	2	円筒形 堆積 A層		口砂	30.5	5.5	第1 黄砂						透孔あり、今号記号平現。 後平原田古墳周辺C帯と 統合。反転出現。
						第2段	7.7		第2 灰岩						
						底	26.5		第3段	口砂混在Dテラス	ハケ調査A(7本/2m)、ハケ調査A(7本/2m)	ハケ調査A(7本/2m)	SYR7/3(3V2)	SYR7/4(4V3)	
4181 117	後 平 原 田古墳 周辺 区	701 11	2	円筒形 堆積 A層		口砂	27.4	2	第1 黄砂						透孔ありへ今号記号平現。 後平原田古墳周辺C帯と 統合。反転出現。
						底	16.0	3	第2 灰岩						
						第3段	8.1		第1段	1.1段	ハケ調査A(3本/2m)、部分的にナデ、 輪郭みぼ。	ハケ調査A(3本/2m)、部分的にナデ、 輪郭みぼ。	SYR7/7(6V4)	SYR7/6(6V4)	
4191 117	後 平 原 田古墳 周辺 区	541 11	2	円筒形 堆積 A層		口砂	25.5	12	第1 黄砂						底部既定堆積あり。透孔 へ今号記号平現。
						底	17.3	12	第2 灰岩						
						第3段	8.1		第1段	1.1段	ハケ調査A(3本/2m)、部分的にナデ、 輪郭みぼ。	ハケ調査A(3本/2m)、部分的にナデ、 輪郭みぼ。	SYR7/7(6V4)	SYR7/6(6V4)	
4201 117	後 平 原 田古墳 周辺 区	541 11	2	円筒形 堆積 A層		口砂	24.2	2.5	第1 黄砂						底部既定堆積あり。透孔 へ今号記号平現。
						底	18.0		第2 灰岩						
						第3段	8.1		第1段	1.1段	ハケ調査A(3本/2m)、部分的にナデ、 輪郭みぼ。	ハケ調査A(3本/2m)、部分的にナデ、 輪郭みぼ。	SYR7/7(6V4)	SYR7/6(6V4)	
4211 117	後 平 原 田古墳 周辺 区	541 11	2	円筒形 堆積 A層		口砂	25.5	12	第1 黄砂						透孔あり。地盤は多 少V2-2、3m程度のチャートモ ザイム。
						底	17.3	12	第2 灰岩						
						第3段	8.1		第1段	1.1段	ハケ調査A(3本/2m)、部分的にナデ、 輪郭みぼ。	ハケ調査A(3本/2m)、部分的にナデ、 輪郭みぼ。	SYR7/7(6V4)	SYR7/6(6V4)	

規格 番号	地図 記号	可算 面積	出土区	土質	分類	注 記	付 記	突 起 部			凹 部			造成	地 土	合 計		備 考			
								幅 度	丈 度	底 面	幅 度	丈 度	底 面			外 面	内 面				
401	III	54	後平野 田古墳 周辺区	E	河原野 砂場 A種			口径			第1段					中 石 不 良					
								底			第2段										
								底1段			第3段										
								底2段			第4段	口縫 砂部ナラ ハケ調整A (8m/20t)	口縫 砂部ナラ ハケ調整A (6m/12t), 部分的に隙接圧あわせ				7.5YR7/6(優)	7.5YR7/6(優)			
421	II	54	後平野 田古墳 周辺区	E	河原野 砂場 A種			口径			第1段					中 石 不 良					
								底			第2段										
								底1段			第3段	ハケ調整A (7m/2m), 摩耗し剥離不可能。					7.5YR7/6(優)	7.5YR7/6(優)			
								底2段			第4段	口縫 砂部ナラ ハケ調整A (2m/2m)					10YR8/4(洗濯性)	10YR8/4(洗濯性)			
422	II	71	後平野 田古墳 周辺区	Z	河原野 砂場 A種			口径	28.0	2	第1段					中 石 不 良					
								底	17.5		第2段	ハケ調整A,	ハケ調整A (9m/12m) 部 分的に隙接圧 あわせ				10YR8/4(洗濯性)	10YR8/4(洗濯性)	透孔ヘラ起引不可用 反転実験		
								底1段	7.5		第3段	ハケ調整A (1.8m/0.7m)	ハケ調整A (6m/2m)				10YR8/4(洗濯性)	10YR8/4(洗濯性)			
								底2段	1.8	0.7	第4段	口縫 砂部ナラ ハケ調整A (2m/2m)	ハケ調整A (6m/2m)				10YR8/4(洗濯性)	10YR8/4(洗濯性)			
423	II	69	後平野 田古墳 周辺区	Z	河原野 砂場 A種			口径	25.5	9	第1段					中 石 不 良					
								底	16.9	12	第2段	ハケ調整A,	ハケ調整A (6m/12m) 部 分的に隙接圧 あわせ				7.5YR7/6(優)	7.5YR7/6(優)	堅密な隙接合と少なめ のアーチ起引が可能		
								底1段	8.5		第3段	ハケ調整B (10m/2m), 部分的にナラ 摩耗底	ハケ調整B (10m/2m)				7.5YR7/6(優)	7.5YR7/6(優)			
								底2段	6.9		第4段	口縫 砂部ナラ ハケ調整B (20m/2m), 部分的にナラ, ハケ調整B (20m/2m)	ハケ調整B (20m/2m)				7.5YAT7/6(優)	7.5YAT7/6(優)			
424	II	69	後平野 田古墳 周辺区	Z	河原野 砂場 A種			口径	26.0		第1段					中 石 不 良					
								底	16.9		第2段	ハケ調整A (20m/2m), 部分的に隙接圧 あわせ	ハケ調整A (20m/2m)				7.5YR7/6(優)	7.5YR7/6(優)	透孔ヘラ起引不可用 反転実験		
								底1段	8.5		第3段	ハケ調整B (10m/2m), 部分的にナラ, ハケ調整B (10m/2m)	ハケ調整B (10m/2m)				7.5YR7/6(優)	7.5YR7/6(優)			
								底2段	6.9		第4段	口縫 砂部ナラ ハケ調整B (20m/2m), 部分的にナラ, ハケ調整B (20m/2m)	ハケ調整B (20m/2m)				7.5YR7/6(優)	7.5YR7/6(優)			
425	II	58	後平野 田古墳 周辺区	Z	内側野 砂場 B種			口径	25.6	6	第1段					中 石 不 良					
								底	16.2		第2段	ハケ調整A (10m/2m), 部分的に隙接 圧あわせ	ハケ調整A (10m/2m)				SYR6/3(にじい優)	SYR6/3(にじい優)	透孔ヘラ起引不可用 K 14~K 15, L 14~L 15, B 透合実験		
								底1段	10.6		第3段	ハケ調整B (10m/2m), 部分的にナラ, ハケ調整B (10m/2m)	ハケ調整B (10m/2m)				SYR6/3(にじい優)	SYR6/3(にじい優)			
								底2段	2.2	0.6	第4段	口縫 砂部ナラ ハケ調整A (10m/2m), 口縫 砂部ナラ ハケ調整A (10m/2m)	口縫 砂部ナラ ハケ調整A (10m/2m)				SYR6/4(にじい優)	SYR6/4(にじい優)			
426	II	58	後平野 田古墳 周辺区	Z	内側野 砂場 B種			口径	22.8	4	第1段					中 石 不 良					
								底	12.0		第2段	ハケ調整B (9m/2m), 部分的にナラ, ハケ調整B (9m/2m)	ハケ調整B (9m/2m)				10YR7/6(優)	10YR7/6(優)	透孔あれヘラ起引不可用 反転実験		
								底1段	8.0		第3段	ハケ調整B (15m/2m), 部分的にナラ, ハケ調整B (15m/2m)	ハケ調整B (15m/2m)				10YR7/6(優)	10YR7/6(優)			
								底2段	11.5		第4段	口縫 砂部ナラ "調 整A (9m/20t), 口縫 砂部ナラ ハケ調整A (9m/20t)	口縫 砂部ナラ "調 整A (9m/20t)				7.5YR7/6(優)	7.5YR7/6(優)			
427	II	58	後平野 田古墳 周辺区C	Z	内側野 砂場 A種			口径	34.2	1	第1段					中 石 不 良					
								底	17.0		第2段								反転実験		
								底1段	10.7		第3段										
								底2段	4.7		第4段	口縫 砂部ナラ "調 整A (9m/20t), 口縫 砂部ナラ ハケ調整A (9m/20t)	口縫 砂部ナラ "調 整A (9m/20t)				7.5YR7/6(優)	7.5YR7/6(優)			

地盤 番号	測定 位置	可変 深度	出土区	層位	分類	法 量	丈 度	深 度	測 定 部	外 面	内 面	地盤 名	地 土	色 調	編 号										
						測定 面	cm	堆存層	層厚	形状	輪	基	第1段	第2段	第3段	ハケ調整A(3本/2m)	不規	外 面	内 面						
428	119 54	後平塚 白石塚 周辺C 区	2	測定部 基礎 A種		口縫							第1段												
						底縫							第2段												
						第1段高 第2段高 第3段高 基高	(2.4) (2.5)						第3段：ハケ調整A(3本/2m)	不規			SYR8/6(青緑)	IOH8/6(青緑)							
429	119 55	後平塚 白石塚 周辺C 区	2	測定部 基礎 A種		口縫							第1段												
						底縫							第2段												
						第1段高 第2段高 第3段高 基高	(2.9) (2.9)						第3段：ハケ調整A(3本/2m)	U底縫部 ハケ調整A(3本/2m)			SYR8/6(青緑)	SYR612(青緑)							
430	110 54	後平塚 白石塚 周辺C 区	3	測定部 基礎 A種		口縫							第1段												
						底縫							第2段												
						第1段高 第2段高 第3段高 基高	(3.1) (3.1)						第3段：口縫 調節ナシ；ハケ調整A(3本/2m)、 断続面・凹部不可視。				やや 不良	1.5m以下の中石をやや少 くGn	7.7YR7/6(橙)	7.5YR7/6(橙)					
431	113 54	後平塚 白石塚 周辺C 区	E	測定部 基礎 A種		口縫							第1段												
						底縫							第2段												
						第1段高 第2段高 第3段高 基高	(3.8) (2.6)						第6段：1.ウケ調整A(3本/2m) → 1.ウケ調整A(3本/2m)				やや 不良	径1-1.3mの岩石を含む。	7.5YR8/4(浅黄緑)	7.5YR7/4D(黄緑)					
432	119 56	後平塚 白石塚 周辺C 区	2	測定部 基礎 A種		口縫							第1段：ハケ調整A(3本/2m)	ハケ調整A(3本/2m)、 断続面・凹部不可視。			1.8 8.8		7.5YR8/4(浅黄緑)	7.5YR8/4(浅黄緑)					
						底縫							第2段：ハケ調整A(3本/2m)	ハケ調整A(3本/2m)、 断続面・凹部不可視。					1.8 8.8		7.5YR8/4(浅黄緑)	7.5YR8/4(浅黄緑)			
						第1段高 第2段高 第3段高 基高	(1.6) (1.6)						第3段：												
433	119 58	後平塚 白石塚 周辺C 区	2	測定部 基礎 A種		口縫							第1段												
						底縫							第2段：ハケ調整A(10B32.05)	ハケ調整A(10B32.05)、 断続面・凹部不可視。							1.4 9.6		SYR8/4C(青い緑)	SYR7/4C(青い緑) - SYR7/4(青)	
						第1段高 第2段高 第3段高 基高	(7.0) (8.6) (7.9)						第3段：口縫底部ナシ、ハケ調整A(3本/2m)、 断続面・凹部不可視。	口縫底部ナシ、ハケ調整A(3本/2m)、 断続面・凹部不可視。									SYR7/4C(青い緑) - SYR7/4(青)	SYR7/4(青)	
434	119 57	後平塚 白石塚 周辺C 区	2	測定部 基礎 A種		口縫							第1段												
						底縫							第2段：ハケ調整A(10B32.05)	ハケ調整A(10B32.05)、 断続面・凹部不可視。							1.4 9.6		SYR8/4C(青い緑)	SYR7/4C(青い緑) - SYR7/4(青)	
						第1段高 第2段高 第3段高 基高	(5.1) (7.4) (12.0)						第3段：口縫底部ナシ、ハケ調整A(3本/2m)、 断続面・凹部不可視。	口縫底部ナシ、ハケ調整A(3本/2m)、 断続面・凹部不可視。									SYR8/4C(青い緑) - SYR7/4(青)	SYR7/4(青)	
435	119 61	後平塚 白石塚 周辺C 区	2	測定部 基礎 A種		口縫							第1段												
						底縫							第2段：ハケ調整A(10B32.05)	ハケ調整A(10B32.05)、 断続面・凹部不可視。							1.5 9.8		SYR8/4C(青い緑)	SYR7/4C(青い緑) - SYR7/4(青)	
						第1段高 第2段高 第3段高 基高	(5.1) (7.4) (12.0)						第3段：ハケ調整A(10B32.05)	ハケ調整A(10B32.05)、 断続面・凹部不可視。									SYR8/4C(青い緑) - SYR7/4(青)	SYR7/4(青)	
						口縫							第1段												
						底縫							第2段：ハケ調整A(10B32.05)	ハケ調整A(10B32.05)、 断続面・凹部不可視。							1.5 9.8		SYR8/4C(青い緑)	SYR7/4C(青い緑) - SYR7/4(青)	
						第1段高 第2段高 第3段高 基高	(5.1) (7.4) (12.0)						第3段：ハケ調整A(10B32.05)	ハケ調整A(10B32.05)、 断続面・凹部不可視。									SYR8/4C(青い緑) - SYR7/4(青)	SYR7/4(青)	

規格 番号	地図 番号	写真 位置	土工区	層位	分類	法 規				実 験				調 査				合 成		土 工		合 規		備 考
						高 度	in	荷 重	形 状	幅	高 さ	外 面	内 面	結 成	土 材	外 面	内 面	規 格						
436	119	71	待合場 改良C 区	Z	内規格 場面 A類	口絆 底地 高さ 19.5	6	第1 実験	1.2	0.5	第1段 底地 高さ 8.7	ナタ調整 A (底地/2m)。表面に表面加工工事 施工した際の底地高さを基準ケツナダ。ナタ アドバイスの施工工事の結果。	ナタ、接着剤、底地高さを基準ケツナダ。ナタ アドバイスの施工工事の結果。	不良	往復1m以下 の長石・石屑、基 礎L往復3mのトレー ト合計	10YRB/3(洗剥離)	10YRB/3(洗剥離)	過丸、ヘラ記号あり、反転 実験用						
						底地 高さ 7.2	2.2	第2 実験	1.6	0.5	第2段 底地 高さ (2.1)	ナタ調整 A (底地/2m)。	底地のため耐久性不可。			10YRB/3(洗剥離)	10YRB/3(洗剥離)							
						底地 高さ 26.4	4	第3 実験	1.6	0.5	第3段 底地 高さ (3.1)	ナタ調整 A (底地/2m)。	底地のため耐久性不可。			10YRB/3(洗剥離)	10YRB/3(洗剥離)							
437	119	60	待合場 改良C 区	Z	内規格 場面 A類	口絆 底地 高さ 26.0	1	第1 実験	2.1	0.5	第1段 底地 高さ (3.7)	ナタ調整 A (底地/2m)。表面に表面加工工事 施工した際の底地高さを基準ケツナダ。ナタ アドバイスの施工工事の結果。	ナタ、接着剤、底地高さを基準ケツナダ。ナタ アドバイスの施工工事の結果。	良好	往復3m程度 の長石を通過に、往 復1m程度の石英を通過に含む。	7.5YRB/3(洗剥離)	7.5YRB/3(洗剥離)	過丸あり、ヘラ記号不明。 反転実験。						
						底地 高さ 8.2	2.2	第2 実験	1.6	0.5	第2段 底地 高さ (3.7)	ナタ調整 A (底地/2m)。	ナタ、接着剤、底地高さを基準ケツナダ。ナタ アドバイスの施工工事の結果。											
						底地 高さ (3.4)	4	第3 実験	1.6	0.5	第3段 底地 高さ (3.7)	ナタ調整 A (底地/2m)。	ナタ、接着剤、底地高さを基準ケツナダ。ナタ アドバイスの施工工事の結果。											
438	119	62	待合場 改良C 区	Z	内規格 場面 A類	口絆 底地 高さ 26.0	1	第1 実験			第1段 底地 高さ (3.7)	ナタ調整 A (底地/2m)。	ケズリ目剥離正直	普通	往復0.5~1mの長石を少々、1m ~2.5mの石英を通過に含む。	7.5YRB/6(洗剥離)	7.5YRB/6(洗剥離)	反転実験						
						底地 高さ 8.2	2.2	第2 実験			第2段 底地 高さ (3.7)	ナタ調整 A (底地/2m)。												
						底地 高さ (3.7)	4	第3 実験			第3段 底地 高さ (3.7)	ナタ調整 A (底地/2m)。												
439	119	63	待合場 改良C 区	Z	内規格 場面 A類	口絆 底地 高さ 16.4	3	第1 実験	1.7	0.5	第1段 底地 高さ (3.7)	ナタ調整 A (底地/2m)。表面に表面加工工事 施工した際の底地高さを基準ケツナダ。ナタ アドバイスの施工工事の結果。	ナタ、接着剤、底地高さを基準ケツナダ。ナタ アドバイスの施工工事の結果。	良好	往復1m以下の長石を少々、1m ~2.5mの石英を通過に含む。	7.5YRB/4(洗剥離)	7.5YRB/4(洗剥離)	過丸あり、ヘラ記号あり、反転 実験。						
						底地 高さ 9	2.2	第2 実験	1.6	0.5	第2段 底地 高さ (3.5)	ナタ調整 A (底地/2m)。	ナタ、接着剤、底地高さを基準ケツナダ。ナタ アドバイスの施工工事の結果。		mmの長石、石英を通過に含 む。	7.5YRB/4(洗剥離)	7.5YRB/4(洗剥離)							
						底地 高さ (6.2)	4	第3 実験	1.6	0.5	第3段 底地 高さ (3.7)	ナタ調整 A (底地/2m)。												
440	120	54	待合場 改良C 区	Z	内規格 場面 A類	口絆 底地 高さ 29.7	0.5	第1 実験	1.7	0.7	第1段 底地 高さ (4.2)	ナタ調整 A (底地/2m)。	ナタ調整 A (底地/2m)。部分的にナタ アドバイスの施工工事の結果。	良好	往復0.5m以下の長石を通過に含 む。	SYR7/6(留)	7.5YRB/6(洗剥離)	過丸あり、ヘラ記号不明、反転 実験。						
						底地 高さ 7.2	2.2	第2 実験	1.6	0.7	第2段 底地 高さ (4.2)	ナタ調整 A (底地/2m)。	ナタ調整 A (底地/2m)。部分的にナタ アドバイスの施工工事の結果。		往復0.5m以下の長石を通過に含 む。	SYR7/6(留)	7.5YRB/6(洗剥離)							
						底地 高さ 8.4	4	第3 実験	1.6	0.7	第3段 底地 高さ (4.2)	ナタ調整 A (底地/2m)。	ナタ調整 A (底地/2m)。			SYR7/6(留)	7.5YRB/6(洗剥離)							
441	120	71	待合場 改良C 区	Z	内規格 場面 A類	口絆 底地 高さ 27.3	10	第1 実験			第1段 底地 高さ (5.2)	ナタ調整 A (底地/2m)。	ナタ調整 A (底地/2m)。部分的にナタ アドバイスの施工工事の結果。	不良	往復1m以下の長石を通過に含 む。	SYR7/6(留)	7.5YRB/6(洗剥離)	過丸あり、ヘラ記号不明。						
						底地 高さ 7.2	2.2	第2 実験	1.6	0.6	第2段 底地 高さ (5.2)	ナタ調整 A (底地/2m)。	ナタ調整 A (底地/2m)。部分的にナタ アドバイスの施工工事の結果。		往復1m以下の長石を通過に含 む。	SYR7/6(留)	7.5YRB/6(洗剥離)							
						底地 高さ 9.5	4	第3 実験	1.6	0.6	第3段 底地 高さ (5.2)	ナタ調整 A (ナタ)・ナタ調整 A (底地/2m)。	ナタ調整 A (ナタ)・ナタ調整 A (底地/2m)。			SYR7/6(留)	7.5YRB/6(洗剥離)							
442	120	57	待合場 改良C 区	Z	内規格 場面 B類	口絆 底地 高さ 29.0	3	第1 実験			第1段 底地 高さ (5.2)	ナタ調整 A (底地/2m)。	ナタ調整 A (底地/2m)。部分的にナタ アドバイスの施工工事の結果。	良好	往復1m以下の長石を通過に含 む。									
						底地 高さ 8.4	2.2	第2 実験	1.6	0.6	第2段 底地 高さ (5.2)	ナタ調整 A (底地/2m)。	ナタ調整 A (底地/2m)。部分的にナタ アドバイスの施工工事の結果。		往復1m以下の長石を通過に含 む。	SYR7/6(留)	7.5YRB/6(洗剥離)							
						底地 高さ (3.4)	4	第3 実験	1.6	0.6	第3段 底地 高さ (5.2)	ナタ調整 A (底地/2m)。	ナタ調整 A (底地/2m)。部分的にナタ アドバイスの施工工事の結果。			SYR7/6(留)	7.5YRB/6(洗剥離)							
443	120	58	待合場 改良C 区	Z	内規格 場面 A類	口絆 底地 高さ 19.5	3	第1 実験	1.5	0.5	第1段 底地 高さ (5.0)	ナタ調整 A (底地/2m)。	Jナタ調整 A	良好	往復1m以下の長石を通過に含 む。									
						底地 高さ 8.4	2.2	第2 実験	1.5	0.5	第2段 底地 高さ (5.0)	ナタ調整 A (底地/2m)。	ナタ調整 A (底地/2m)。部分的にナタ アドバイスの施工工事の結果。		往復1m以下の長石を通過に含 む。	SYR6/4(留)	5YRB/4(洗剥離)							
						底地 高さ (5.5)	4	第3 実験	1.5	0.5	第3段 底地 高さ (5.0)	ナタ調整 A (底地/2m)。	ナタ調整 A (底地/2m)。部分的にナタ アドバイスの施工工事の結果。		往復1m以下の長石を通過に含 む。	SYR6/4(留)	5YRB/4(洗剥離)							

地図 番号	地図 出典	写真 出典	出土区	層位	分類	法 則	実 験			調 査			地 成	地 土	色 調		備 考
							層位	cm	厚さ	形状	幅	高さ			外 面	内 面	
444	120	71	後平塚 日吉塚 尾根C 区	2	内側部 埴輪 A種	V	口絆	26.6		直角			直孔	第1段			透孔ありへ記号不明。 骨半端日吉塚C区とも接合。 反転実測。
							底板							第2段	ハケ調整A (3本/2cm)。	ハケ調整A (3本/2cm)、部分的にナゲ 地頭压出。	
							第1段高	(5.7)						第3段	口縁底部ナゲハケ調整A (3本/2cm)。 部分的に指圧延板付。	口縁底部ナゲハケ調整A (3本/2cm)。	
445	120	57	後平塚 日吉塚 尾根C 区	2	内側部 埴輪 B種	V	口絆	27.6	1.5	直角			直孔	第1段			透孔へ記号不明。 骨半端日吉塚C区とも接合。 反転実測。
							底板							第2段	ハケ調整B (3本/2cm)。	ハケ調整B (3本/2cm)。	
							第1段高	(6.3)						第3段	口縁底部ナゲハケ調整B (3本/2cm)。 口縁底部ナゲハケ調整B (3本/2cm)。	口縁底部ナゲハケ調整B (3本/2cm)。	
446	120	58	後平塚 日吉塚 尾根C 区	2	内側部 埴輪 B種	V	口絆	27.6	2	直角			直孔	第1段			透孔へ記号不明。反転 実測。
							底板							第2段	ハケ調整B。	ハケ調整B。	
							第1段高	(0.8)						第3段	口縁底部ナゲハケ調整B (18本/2cm)。 口縁底部ナゲハケ調整B (18本/2cm)。	口縁底部ナゲハケ調整B (18本/2cm)。	
447	120	55	後平塚 日吉塚 尾根C 区	2	内側部 埴輪 B種	V	口絆	21.0	1	直角			直孔	第1段			透孔へ記号不明。青筋 骨半端の痕跡あり。反転 実測。
							底板							第2段		ハケ調整B。	
							第1段高	(0.4)						第3段	口縁底部ナゲハケ調整B (18本/2cm)。 口縁底部ナゲハケ調整B (18本/2cm)。	口縁底部ナゲハケ調整B (18本/2cm)。	
448	121	56	後平塚 日吉塚 尾根C 区	2	内側部 埴輪 B種	V	口絆			直角			直孔	第1段			透孔へ記号不明。
							底板							第2段			
							第1段高	(0.4)						第3段	ハケ調整B (15本/2cm)。	ハケ調整B (15本/2cm)。	
449	121	58	後平塚 日吉塚 尾根C 区	2	内側部 埴輪 B種	V	口絆			直角			直孔	第1段			透孔へ記号不明。
							底板							第2段	ハケ調整B (18本/2cm)。	ハケ調整B (18本/2cm)。	
							第1段高	(0.5)						第3段	口縁底部ナゲハケ調整B (17本/2cm)。 口縁底部ナゲハケ調整B (18本/2cm)。 地頭压出。	口縁底部ナゲハケ調整B (18本/2cm)。	
450	121	56	後平塚 日吉塚 尾根C 区	2	内側部 埴輪 B種	V	口絆	29.0	1	直角			直孔	第1段			透孔へ記号不明。反転 実測。
							底板							第2段	ハケ調整B (18本/2cm)。	ハケ調整B (18本/2cm)。	
							第1段高	(0.9)						第3段	ハケ調整B (17本/2cm)。	口縁底部ナゲハケ調整B (18本/2cm)。	
451	121	55	後平塚 日吉塚 尾根C 区	2	内側部 埴輪 B種	V	口絆			直角			直孔	第1段			透孔へ記号不明。
							底板							第2段			
							第1段高	(1.4)						第3段	ハケ調整B (17本/2cm)。	口縁底部ナゲハケ調整B (18本/2cm)。	
							口絆							第1段			
							底板							第2段			
							第1段高	(0.3)						第3段	口縁底部ナゲハケ調整B (16本/2cm)。 部分的に指圧延板付。	口縁底部ナゲハケ調整B (16本/2cm)。	
							口絆							第1段			
							底板							第2段			
							第1段高	(11.2)						第3段	口縁底部ナゲハケ調整B (16本/2cm)。 部分的に指圧延板付。	口縁底部ナゲハケ調整B (16本/2cm)。 部分的に指圧延板付。	

路線 番号	構造 形式	写真 番号	出土区	位置	分野	高さ m	現存高	地 基				地 調 査			供成	地 土	地 基		備考
								部位	形状	幅	厚さ	外 壁	内 壁	外 壁	内 壁		外 壁	内 壁	
457	内側斜 面積 A型	57	後平原 右岸高C 地区	2	内側斜 面積 A型	1.5	0.7	口壁	直立	第1 突起		第1段				経し性 硬い 岩石を多量含む 3°傾度の石質を有す れども	7.5VR7/4に 手い 程)	7.5VR7/4に 手い 程)	透孔あらへ記号不明 透孔あらへ記号不明
								底盤	直立	第2 突起	(2.3)	第2段	ハケ調整 B (18本/2m)、 部分的に指接 状態	ハケ調整 B (18本/2m)、 部分的に指接 状態			7.5VR7/4に 手い 程)	7.5VR7/4に 手い 程)	
								第3段	直立	第4 突起	(2.7)	第3段	ハケ調整 B (17本/2m)、 部分的に指接 状態	ハケ調整 B (17本/2m)、 部分的に指接 状態			7.5VR7/4に 手い 程)	7.5VR7/4に 手い 程)	
								基盤	直立	第5 突起	(2.7)	第5段	ハケ調整 B (18本/2m)、 部分的に指接 状態	ハケ調整 B (18本/2m)、 部分的に指接 状態			7.5VR7/4に 手い 程)	7.5VR7/4に 手い 程)	
458	内側斜 面積 A型	61	藤平原 左岸高C 地区	2	内側斜 面積 A型	1.6	0.6	口壁	直立	第1 突起		第1段	ハケ調整 B (18本/2m)、 部分的に指接 状態	ハケ調整 B (17本/2m)、 部分的に指接 状態		経し性 硬い 岩石を普通に含む 2m以下下の石質を3°傾 度のチャート混合含む	7.5VR7/4に 手い 程)	7.5VR7/4に 手い 程)	透孔あらへ記号あり 透孔あらへ記号あり
								底盤	直立	第2 突起	(5.8)	第2段	ハケ調整 B (18本/2m)、 部分的に指接 状態	ハケ調整 B (18本/2m)、 部分的に指接 状態			5VR7/6(程)	5VR7/6(程)	
								基盤	直立	第3 突起	(5.7)	第3段	ハケ調整 B (18本/2m)、 部分的に指接 状態	ハケ調整 B (18本/2m)、 部分的に指接 状態			5VR7/6(程)	5VR7/6(程)	
								基盤	直立	第4 突起	(2.1)	第4段	ハケ調整 B (18本/2m)、 部分的に指接 状態	ハケ調整 B (18本/2m)、 部分的に指接 状態			5VR7/6(程)	5VR7/6(程)	
454	内側斜 面積 A型	61	後平原 右岸高C 地区	2	内側斜 面積 A型	1.5	0.6	口壁	直立	第1 突起		第1段	ハケ調整 B (18本/2m)、 部分的に指接 状態	ナメル質硬岩、ハケ調整 B (17本/2m)、 部分的に指接 状態		ナメル質硬岩、 ハケ調整 B (17本/2m)、 部分的に指接 状態	5VR7/4に 手い 程)	5VR7/4に 手い 程)	透孔あらへ記号不明 透孔あらへ記号不明
								底盤	直立	第2 突起	(7.9)	第2段	ハケ調整 B (18本/2m)、 部分的に指接 状態	ハケ調整 B (18本/2m)、 部分的に指接 状態			5VR7/4に 手い 程)	5VR7/4に 手い 程)	
								基盤	直立	第3 突起	(2.7)	第3段	ハケ調整 B (18本/2m)、 部分的に指接 状態	ハケ調整 B (18本/2m)、 部分的に指接 状態			5VR7/4に 手い 程)	5VR7/4に 手い 程)	
								基盤	直立	第4 突起	(2.1)	第4段	ハケ調整 B (18本/2m)、 部分的に指接 状態	ハケ調整 B (18本/2m)、 部分的に指接 状態			5VR7/4に 手い 程)	5VR7/4に 手い 程)	
455	内側斜 面積 A型	60	後平原 左岸高C 地区	2	内側斜 面積 A型	1.5	0.7	口壁	直立	第1 突起	(19.4)	第1段	ハケ調整 B (18本/2m)、 部分的に指接 状態	ナメル質硬岩、ハケ調整 B (19本/2m)、 部分的に指接 状態		ナメル質硬岩、 ハケ調整 B (19本/2m)、 部分的に指接 状態	5VR7/4に 手い 程)	5VR7/6(程)	透孔あらへ記号不明 透孔あらへ記号不明
								底盤	直立	第2 突起	(8.1)	第2段	ハケ調整 B (18本/2m)、 部分的に指接 状態	ハケ調整 B (18本/2m)、 部分的に指接 状態			5VR7/4に 手い 程)	5VR7/6(程)	
								基盤	直立	第3 突起	(4.1)	第3段	ハケ調整 B (18本/2m)、 部分的に指接 状態	ハケ調整 B (18本/2m)、 部分的に指接 状態			5VR7/4に 手い 程)	5VR7/6(程)	
								基盤	直立	第4 突起	(3.7)	第4段	ハケ調整 B (18本/2m)、 部分的に指接 状態	ハケ調整 B (18本/2m)、 部分的に指接 状態			5VR7/4に 手い 程)	5VR7/6(程)	
456	内側斜 面積 A型	58	後平原 右岸高C 地区	2	内側斜 面積 A型	1.5	0.7	口壁	直立	第1 突起	(27)	第1段	ハケ調整 B (18本/2m)、 部分的に指接 状態	ナメル質硬岩、1-ケ調査 B (19本/2m)、 部分的に指接 状態		ナメル質硬岩、 1-ケ調査 B (19本/2m)、 部分的に指接 状態	5VR7/4に 手い 程)	5VR7/6(程)	透孔あらへ記号不明 透孔あらへ記号不明
								底盤	直立	第2 突起	(3.4)	第2段	ハケ調整 B (18本/2m)、 部分的に指接 状態	ハケ調整 B (18本/2m)、 部分的に指接 状態			5VR7/4に 手い 程)	5VR7/6(程)	
								基盤	直立	第3 突起	(5.3)	第3段	ハケ調整 B (18本/2m)、 部分的に指接 状態	ハケ調整 B (18本/2m)、 部分的に指接 状態			5VR7/4に 手い 程)	5VR7/6(程)	
								基盤	直立	第4 突起	(0.1)	第4段	ハケ調整 B (18本/2m)、 部分的に指接 状態	ハケ調整 B (18本/2m)、 部分的に指接 状態			5VR7/4に 手い 程)	5VR7/6(程)	
457	内側斜 面積 A型	59	後平原 左岸高C 地区	2	内側斜 面積 A型	1.3	0.11	口壁	直立	第1 突起		第1段				経4m以下下の長石を普通に含む 1m以下下の石質をや少なめ 1m以下下のチャート混合含む	10VR6/6に 手い 程)	10VR6/6に 手い 程)	透孔あらへ記号不明 透孔あらへ記号不明
								底盤	直立	第2 突起	(3.4)	第2段	ハケ調整 A (8本/2m)、 部分的に指接 状態	ハケ調整 A (8本/2m)、 部分的に指接 状態			10VR6/6に 手い 程)	10VR6/6に 手い 程)	
								基盤	直立	第3 突起	(3.8)	第3段	1-ケ調査部ナメル、ハケ調整 A (8本/2m)、 部分的に指接 状態	1-ケ調査部ナメル、ハケ調整 A (8本/2m)、 部分的に指接 状態			10VR6/6に 手い 程)	10VR6/6に 手い 程)	
								基盤	直立	第4 突起	(3.6)	第4段	ハケ調整 A (5本/2m)、 部分的に指接 状態	ハケ調整 A (5本/2m)、 部分的に指接 状態			5VR7/3に 手い 程)	5VR7/3に 手い 程)	
458	内側斜 面積 A型	90	L15区	2	内側斜 面積 A型	1.4	0.6	口壁	直立	第1 突起	(3.6)	第1段	ハケ調整 A (5本/2m)、 部分的に指接 状態	ハケ調整 A (5本/2m)、 部分的に指接 状態		1-ケ調査部の長石を普通に含む 1-ケ調査部の石質を普通に含む 1-ケ調査部の石質を普通に含む 1-ケ調査部の石質を普通に含む	5VR7/4に 手い 程)	5VR7/6(程)	透孔あらへ記号不明 透孔あらへ記号不明
								底盤	直立	第2 突起	(2.6)	第2段	ハケ調整 A (5本/2m)、 部分的に指接 状態	ハケ調整 A (5本/2m)、 部分的に指接 状態			5VR7/4に 手い 程)	5VR7/6(程)	
								基盤	直立	第3 突起	(2.6)	第3段	ハケ調整 A (5本/2m)、 部分的に指接 状態	ハケ調整 A (5本/2m)、 部分的に指接 状態			5VR7/4に 手い 程)	5VR7/6(程)	
								基盤	直立	第4 突起	(10.6)	第4段	ハケ調整 A (5本/2m)、 部分的に指接 状態	ハケ調整 A (5本/2m)、 部分的に指接 状態			5VR7/4に 手い 程)	5VR7/6(程)	
459	内側斜 面積 A型	591	125区	2	内側斜 面積 A型	1.7	0.6	口壁	直立	第1 突起	(4.5)	第1段	ハケ調整 A (8本/2m)、 部分的に指接 状態	ハケ調整 A (8本/2m)、 部分的に指接 状態		片 以下の長石を普通に含む 片 以下の石質を普通に含む 片 以下の石質を普通に含む 片 以下の石質を普通に含む	5VR7/6(程)	5VR7/6(程)	透孔あらへ記号あり
								底盤	直立	第2 突起	(4.7)	第2段	ハケ調整 A (8本/2m)、 部分的に指接 状態	ハケ調整 A (8本/2m)、 部分的に指接 状態			5VR7/6(程)	5VR7/6(程)	
								基盤	直立	第3 突起	(4.2)	第3段	ハケ調整 A (8本/2m)、 部分的に指接 状態	ハケ調整 A (8本/2m)、 部分的に指接 状態			5VR7/6(程)	5VR7/6(程)	
								基盤	直立	第4 突起	(2.9)	第4段	ハケ調整 A (8本/2m)、 部分的に指接 状態	ハケ調整 A (8本/2m)、 部分的に指接 状態			5VR7/6(程)	5VR7/6(程)	

監査番号	測定箇所	石英斑	出土区	層位	分類	法面		災害		調査		地質	土	色図		備考
						部位	cm	既存率	部位	形状	幅	高さ		外 国	内 国	
460	122	51	L14区	伏	内側部 岩塊 A種	口縫			第1段	突起			部分的にナメ 倒壊圧縮・ハケ剥離 A(B 本12cm・基部ケズ)。	2.SYR7/6(壁) 2.SYR7/6(壁)	局部既定の痕跡あり。反転 実測。	
						底縫	18.0	2	第2段	突起						
						第1段高	(9.2)		第3段	突起						
						第2段高	(6.2)		第4段	突起						
461	122	54	L14区	伏	内側部 岩塊 B種	口縫			第1段	突起			注...、以下の各石を普通に径 2m以下 の石英をやかなな(8 cm)。	3m-2m以下 の石英をやか な(8 cm)。	透孔 ヘラ記号なし	
						底縫			第2段	突起						
						第3段高			第3段	突起						
						底縫	(6.2)		第6段	ハケ剥離 A(7m/2cm)。						
462	122	59	後平岡 周辺D 区	2	内側部 岩塊 A種	口縫			第1段	突起	2.0	0.6	注...以下の各石を普通に径 2m以下 の石英を少量含む(8 cm程度)のチャートを少量含む。	2.SYR8/1(白色) 2.SYR8/1(白色) SYR8/1(白色) SYR8/1(白色)	透孔 ヘラ記号あり	
						底縫			第1段高	(2.2)						
						第2段高	(2.5)		第2段	突起						
						第3段高	(6.7)		第3段	突起						
463	122	59	K15区	伏	内側部 岩塊 B種	口縫			第1段	突起			注...以下の各石を普通に径 2m以下 の石英を少量含む(8 cm)。	2.SYR8/1(白色) 2.SYR8/1(白色) SYR8/1(白色) SYR8/1(白色)	透孔 ヘラ記号あり	
						底縫			第2段高	(5.2)						
						第3段高	(6.7)		第3段	突起						
						底縫			第1段	突起						
464	122	59	D20区	Ⅲ	内側部 岩塊 B種	口縫			第1段	突起	1.5	0.65	注...、以下の各石を普通に径 2m以下 の石英を少量含む(8 cm)。	SYR8/4(ぬれ) SYR8/6(壁)	透孔 ヘラ記号なし	
						底縫			第2段	突起						
						第3段高	(4.0)		第3段	突起						
						底縫	(6.3)		第3段	突起						
465	122	59	報復		内側部 岩塊 B種	口縫			第1段	突起			注...、以下の各石を普通に径 2m以下 の石英を少量含む(8 cm)。	SYR8/4(ぬれ) SYR8/6(壁)	透孔 ヘラ記号なし	
						底縫			第1段高	(2.0)						
						第2段高	(3.5)		第2段	突起						
						底縫	(6.9)		第3段	突起						
466	122	62	S.D.A		内側部 岩塊 B種	口縫			第1段	突起			注...、以下の各石を普通に径 2m以下 の石英を少量含む(8 cm)。	SYR8/4(ぬれ) SYR8/6(壁)	透孔 ヘラ記号なし	
						底縫			第1段高	(1.5)						
						第2段高	(5.5)		第2段	突起						
						第3段高	(5.5)		第3段	突起						
467	122	62	報復		内側部 岩塊 B種	口縫			第1段	突起			注...、以下の各石を普通に径 2m以下 の石英を少量含む(8 cm)。	SYR8/4(ぬれ) SYR8/6(壁)	反転実測。	
						底縫	13.8	1.5	第2段	突起						
						第3段高	(3.7)		第3段	突起						
						底縫	(3.7)		第3段	突起						

施設 番号	施設 名	位置 図版	地土名	層位	分類	計量			実測			調査			地成	地土	色調		備考	
						単位	m	積荷率	単位	枚状	幅	高さ	外 国	内 国	外 国	内 国				
468	122	61	L150X	E	内側部 砂礫 砂層	口縁			第1 実験	1.6	0.6		第1段：ハケ調整日(18m/2m)。表面に直線基面 を定め、定工員を配置し、砂の盛込込み、各段々 ナゴ・脚筋注填器を、各段々ケジ、 スリーブアーリーまたは底盤注填工員の係続。	第1段：ハケ調整日(18m/2m)。				7SYR0/4(にじい緑)	SYR0/6(緑)	直軸実測。
						底縁	19	2	第2 実験				第2段：ハケ調整日。		ハケ調整日(20m/2m)。			7SYR7/4(にじい緑)	SYR7/6(緑)	
						底縁	7.0		第3 実験				第3段：							
						底縁	(11.0)		第4 実験											
469	122	61	L200X	E	内側部 砂礫 砂層	口縁			第1 実験	1.7	0.5		第1段：ハケ調整日(18m/2m)。表面に直線基面 を定め、定工員を配置し、砂の盛込込み、各段々 ナゴ・脚筋注填器を、各段々ケジ、 スリーブアーリーまたは底盤注填工員の係続。	第1段：ハケ調整日(18m/2m)。表面に直線基面 を定め、定工員を配置し、砂の盛込込み、各段々 ナゴ・脚筋注填器を、各段々ケジ、 スリーブアーリーまたは底盤注填工員の係続。				7SYR0/4(C.JI-緑)	SYR8/4(赤緑)	透孔かん直軸実測。
						底縁	16.2	2	第2 実験				第2段：ハケ調整日。					7SYR7/4(にじい緑)	SYR8/4(赤緑)	
						底縁	30.2		第3 実験				第3段：							
						底縁	8.4													
						底縁	10.0		第4 実験											

第15表 鉄製品観察表

単位: cm

規範番号	名 称	出土位置	層位	全長	頭身部長	頭身部 最大幅	頭身部 最小幅	頭身部 最大幅	基準長	備 考	寸法 写真 因数
356	短頭錐	複葉丸	L	(2.15)	(2.15)	(1.95)				三角式錐身部。	107 74
357	長頭錐	主体部	L	(3.60)	2.50	0.80	(1.10)	(0.50)		片刃式錐身部。	107 74
358	長頭錐	主体部	L2	(2.70)			(1.30)	(0.65)	(0.90)	片刃式錐身部。	107 74
359	長頭錐	主体部	L	(3.40)			(3.40)	(0.55)		錐頭片。	107 74
360	長頭錐	主体部	L	(3.35)			(3.35)	(0.65)		錐頭片。	107 74
361	長頭錐	主体部	L	(3.10)			(3.10)	(0.55)		錐頭片。	107 74
362	長頭錐	主体部	L	(2.20)			(2.20)	(0.60)		錐頭片。	107 74
363	長頭錐	主体部	L	(2.60)			(2.60)	(0.60)		錐頭片。	107 74
364	長頭錐	主体部	L	(2.35)			(2.35)	(0.65)		錐頭片。	107 74
365	長頭錐	主体部	L	(5.60)			(5.60)	(0.50)		錐頭片。	107 74
366	長頭錐	主体部	L	(5.80)			(5.80)	(0.75)		錐頭片。	107 74
367	長頭錐	主体部	L	(3.35)			(2.00)	(0.70)	(1.35)	台形状の錐頭部を有する。頭部～基部片。基部硬度卷・木質残存。	107 74
368	長頭錐	主体部	L	(2.85)			(1.65)	(0.80)	(1.20)	台形状の錐頭部を有する。頭部～基部片。基部硬度卷？・木質残存。	107 74
369	長頭錐	主体部	L	(2.00)			(1.30)	(0.85)	(0.70)	台形状の錐頭部を有する。頭部～基部片。基部硬度卷・木質残存。	107 74
370	長頭錐	主体部	L	(2.00)			(0.70)	(0.90)	(1.30)	台形状の錐頭部を有する。頭部～基部片。基部硬度卷？残存。	107 74
371	長頭錐	主体部	L	(1.50)			(1.00)	(0.70)	(0.50)	台形状の錐頭部を有する。頭部～基部片。	107 74
372	長頭錐	主体部	L	(3.65)			(2.20)	(0.80)	(1.45)	台形状の錐頭部を有する。頭部～基部片。基部硬度卷？・木質残存。	107 74
373	長頭錐	主体部	L	(3.80)			(1.55)	(0.85)	(2.30)	台形状の錐頭部を有する。頭部～基部片。基部硬度卷？残存。	107 74
374	長頭錐	主体部	L	(5.65)			(4.65)	(0.60)	(1.00)	台形状の錐頭部を有する。頭部～基部片。	107 74
375	長頭錐	主体部	L	(5.50)			(5.60)	(0.75)	(0.90)	台形状の錐頭部を有する。頭部～基部片。基部硬度卷・木質残存。	107 74
376	長頭錐	主体部	2Ir	(9.10)			(7.70)	(0.90)	(1.40)	台形状の錐頭部を有する。頭部～基部片。基部硬度卷・木質残存。	107 74
377	長頭錐	主体部	L	(3.55)			(1.35)	(0.90)	(2.20)	台形状の錐頭部を有する。頭部～基部片。基部硬度卷？残存。	107 74
378	長頭錐	主体部	L	(2.40)					(2.40)	基部片。硬度卷残存。	107 74
379	長頭錐	主体部	L	(2.25)					(2.25)	基部片。木質残存？	107 74
380	長頭錐	主体部	L	(2.50)					(2.50)	硬度卷？残存	107 74
381	長頭錐	主体部	L	(4.00)					(4.00)	基部片。木質残存？	107 74
382	刀子	主体部	L	(1.65)	(1.65)	(0.95)				切先	107 74
383	刀子	主体部	L2	(1.90)	(1.90)	(1.15)				切先	107 74
384	刀子	主体部	L	(3.60)		(0.70)				木質残存。	107 74

規範番号	名 称	出土位置	層位	全長	頭身部			質量(g)	備 考	寸法 写真 因数
385	鋸具	後平素日 古墳性再 施設部		(6.20)	4.60			(29.1)		7 4 76
386	釘具	後平素日 古墳性主 體部	L	(6.20)	4.50			(27.6)		7 4 76
387	劍	後平素日 古墳性主 體部	LLL2	24.30	17.30			(320.0)	木心鉄板張輪継、質量は廻存処理後に計測。	108 5 76
497	骨	後平素日 古墳		(30.00)	8.00			(235.5)	差譜板付骨	125 1 5 76

L: 床面想定の高さ
L2: 差譜孔埋土下層(床面想定ラインより下位レベル)

質量は一部を剥き廻存前に計測。

第16表 石器観察表 A地区

通 番 号	出土区	層位	器種	時期	石材	加工	素材形態	素材特徴	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	備 考		通 番 号	等 級
												特 徴	等 級		
47	K15	V	石器	不明	燧造	HP	不明	不明	26	17.1	5.9	トロトロ石器の可能性もある。		27	78
48	H14	M/U	石器	不明	燧造	HP	剥片	不規	17.9	20.4	6.7			27	78
49	H14	V	石器	不明	呂古石	HP	不明	不明	12.7	18.9	4.1			27	78
50	H15	V	石器	不明	燧造	SP	不明	不明	21.4	16.4	4.1			27	78
51	I14	V	石器	不明	燧造	HP	不明	不明	13.5	16.3	3.6			27	78
52	T14	V	石器	不明	下呂古石	HP	不明	不明	18	16.1	3.9			27	78
53	T14	V	石器	不明	燧造	HP	不明	不明	17.3	15.4	5.1			27	78
54	I15	V	石器	不明	燧造	HP	両側削片	両側打撲	19.5	14.1	3.9			27	78
55	I15	V	石器	不明	下呂古石	HP	不明	不明	16.9	12.6	3.5			27	78
56	J14	M/U	石器	不明	下呂古石	SP	平磨	不明	17.8	14.7	3.2			27	78
57	K14	V	石器	不明	下呂古石	SP	平磨	小磨	20.4	17.1	3.5			27	78
58	K15	V	石器	不明	サスカイト	SP	不明	不明	16.8	16.7	2.8			27	78
59	L14	V	石器	不明	燧造	HP	不明	不明	17.2	14.6	3.8			27	78
60	L14	V	石器	不明	赤玉髓	HP	不明	不明	17.3	15.1	3.2			27	78
61	I14	V	石器	不明	下呂古石	HP	不明	不明	19.9	15.9	4.3			27	78
62	I15	V	石器	不明	下呂古石	SP	不明	不明	19.8	14.4	3.4			27	78
63	K14	V	石器	不明	下呂古石	HP	不明	不明	18.8	10.7	2.8			27	78
64	I14	V	石器	不明?	下呂古石	SP	不明	不明	20.2	11.5	3.9			27	78
65	K14	V	石器	不明	下呂古石	HP	不明	不明	19.3	16.1	4.8			27	78
66	J14	V	石器	不明	燧造	HP	不明	不明	23.4	16.3	4.5			27	78
67	J13	V	石器	不明	下呂古石	HP	不明	不明	29	15.9	4.7			27	78
68	I14	V	石器	不明	下呂古石	HP	不明	不明	28.3	9.4	3.6			27	78
69	K14	M	石器	不明	下呂古石	HP	不明	不明	25	11.4	4.6			27	78
70	J15	M/U	石器	不明	サスカイト	SP	不明	不明	19.8	13.3	3.2			27	78
71	H14	V	石器	不明	瓦製削出基	HP	不明	不明	25	17.1	3			27	78
72	I14	V	石器	不明	サスカイト	SP	不明	不明	26.2	18.8	3.5			27	78
73	L14	V	石器	不明	下呂古石	HP	両側削片	両側打撲	22.5	17.7	3.1			27	78
74	L15	M/B	器種不明	不明	燧造	HP	小磨	なし	21.3	20	5.9	尖端剥片?。		27	78
75	I12	M/B	石器未判明	不明	赤玉髓	HP(不規則)	両側削片	両側打撲	18.8	13.6	3.8			27	78
76	I14	V	石器未判明?	不明	燧造	HP	剥片	不明	26.8	21.3	7.2	末端辺に右側の押圧剝離の加工痕。		27	78
77	J14	V	石器	不明	燧造	HP	直長形片	直長打撲	35.9	20.8	8.2	正面を側邊は古い折れ面。加工はそれを切っている。		28	78
78	K14	V	石器の礫	不明	燧造なし	鉄造なし	鉄造なし	鉄造なし	22	24	22			28	78
79	H14	M	石器	不明	燧造	HD	剥片	直長打撲	43.7	36.8	15.2	両側辺に薄右底や直角剝離が観察できる。鳥羽縞の可能性がある。		28	78
80	I14	N/D	直長形片	不明	ホルンフェラス	HD	剥片	直長打撲	55	41.5	14.6	鶴嘴形底部の削器。		28	78
81	J12	V	石器	不明	燧造	HI	剥片	HD	22.6	24.5	21.0			28	78
82	I14	V	両側削片	不明	サスカイト	なし	剥片	両側打撲	25.8	30	8.2			28	78
83	K14	V	両側石器	不明	燧造	HD+HP	剥片	直長打撲	19.1	18.4	6.5	ビエヌエヌキューの水滴片に不規則な押圧剝離をした石器。石器未判明の可能性あり。		28	78
84	K14	V	両側削片	不明	燧造	なし	剥片	両側打撲	23.1	14.4	6.6			28	78
85	I14	V	両側削片	不明	下呂古石	なし	剥片	両側打撲	33.2	16.1	8.8	裏面側の側面は不規則剝離。		28	78

記載番号	出土区	番位	器種	時期	石材	加工	系材料	裏材接着	長 (m)	幅 (m)	厚 (mm)	備考	検出回数	写真枚数
86	K 13	V	使用後削片	不明	珪岩	HP	削片	垂直打壓	14.9	25.6	6.2	左側面に不規則な押圧削離。	28	78
87	H 14	V	使用後削片	不明	珪岩	なし	延長削片	HI	36.3	13.9	5.7		28	78
88	I 15	NB	使用後削片	不明	珪岩	なし	削片	不明	18.5	26.8	7.6	右端部に不規則な押圧削離。加工ではない。使用痕か否かは不明。	28	78
89	G 15	V	削片	不明	下品石	なし	削片	垂直打壓	22.4	10.2	7		28	78
90	H 14	V	削片	不明	砂のう	なし	削片	垂直打壓	20.9	19.4	7		28	78
91	H 14	V	削片	不明	下品石	なし	削片	垂直打壓	26.8	15.6	11.8		28	78
92	H 14	V	削片	不明	下品石	なし	削片	垂直打壓	18	13.9	4.4		28	78
93	I 14	V	削片	不明	下品石	なし	削片	垂直打壓	23.2	13.5	5.8		28	78
94	K 14	V	削片	不明	砂岩	なし	削片	直接打壓	28.4	39.9	9.2	打開穴。	28	78
95	K 14	V	石錐	不明	下品石	HP	削片	不明	24.5	15.4	7.4		29	79
96	K 13	V	石錐	不明	珪岩	HP	削片	間接打壓	22.9	21.6	6.4	側面の良い直角の面と押圧削離の角邊で鋭い刃形を形成。	29	79
97	SBA05	1	石錐	不明	珪岩	HD - HI	削片	不明	43.2	23.3	13.5		29	79
98	SBA11	3	石錐	不明	珪岩	HI - HP	(横長削片) (直接打壓)	49.9	21.3	9.1	尖頭器の可能性もある。石材は推定した。	29	79	
99	後平1号古墳	1	夷形石器	不明	サスカイト	SP	不明	不明	33.7	22.4	6.9		29	79
100	SBA05	1	石錐	不明	赤珪岩	HD	削片	HD	78.8	59.2	21.8		29	79
101	方形圓溝墓	3	削片	不明	赤珪岩	HP / 砂岩	削片	不明	30	13.3	3.6		29	79
102	F 13	I	ヘラ状石器	早原文化	赤珪岩	HD	直接打壓	33.8	32	10.6	石材表面に直線打壓の平坦削離で成形加工。加工の剝離は手前で止まっている。	29	79	
103	SBA01	1	ヘラ状石器	早原文化	赤珪岩	HD	削片	直接打壓	52.9	42.3	17.3	右側面を直接打壓で成形加工。左側面は折れり。	29	79
104	後平茅臼古墳	2	打製石片断面	不明	砂岩	HD	打製石片断面	直接打壓	47.3	29.3	9.1		29	79
105	後平茅臼古墳	2	ヘラ状石器?	早原文化	赤珪岩	HD	打製石片断面	直接打壓	65.7	46.2	17.1	地熱資料。左側面に直接打壓で成形加工。刃端に不規則削離。	29	79
106	岡上 丸桟		打製石片断面	不明	砂岩	HD / 平坦	不規則	不規則	47.3	46.3	9.2		30	79
107	後平茅臼古墳	2	打製石片	不明	砂岩	HD / 平坦	不規則	不規則	58.1	36	7.6		30	79
108	後平茅臼古墳		打製石片	不明	砂岩	HD / 平坦	削片	直接打壓	84.2	36.7	14.9		30	79
109	岡上 丸桟		打製石片	不明	砂岩	HD / 平坦	削片	直接打壓	88.8	38	15.1		30	79
110	後平茅臼古墳	2	打製石片	不明	ホルンフェルス	HD / 平坦	不規則	不規則	100.6	38.3	12		30	79
111	後平茅臼古墳	L	敲石	不明	砂岩	なし	内縫	なし	79.1	71.1	38.6	表面に敲打の使用痕。	30	79
112	岡上 斜溝	2	使用後削片	不明	赤珪岩	なし	削片	声波打壓	61.7	45.9	13.5	旧石器?	31	80
113	後平茅臼古墳C区		敲石	不明	ホルンフェルス	HD	不規則	不規則	88.6	65	39.1		31	80
114	後平茅臼古墳A区		磨石	不明	安山岩	なし	不規則	なし	52.3	78.4	61.6	磨りは使用痕。	31	80
115	後平茅臼古墳D区		磨石・砾石	不明	砂岩	なし	内縫	なし	96.1	76.6	69.3		31	80
116	後平茅臼古墳A区	2	打欠石錐	不明	砂岩	HD	輪平小内縫	なし	30.9	22.9	8.7		32	80
117	G 12	II	打欠石錐	不明	砂岩	HD	輪平小内縫	なし	36.9	23.4	8.1		32	80
118	G 10	II	打欠石錐(摩石跡)	不明	砂岩	HD	内縫	なし	41.8	25.8	10.4		32	80
119	G 16	III	打欠石錐	不明	砂岩	HD	輪平小内縫	なし	38.5	30.6	12.1		32	80
120	I 16	III	打欠石錐	不明	砂岩	HD	輪平小内縫	なし	42.9	27.5	13.3		32	80
121	I 14	V	打欠石錐	不明	砂岩	HD	輪平小内縫	なし	42.6	27.1	11.7		32	80
122	H 15	V	打欠石錐	不明	砂岩	HD	輪平小内縫	なし	51.1	46.3	21.1		32	80
123	H 14	V	打欠石錐	不明	砂岩	HD	輪平小内縫	なし	50.4	31.6	8.4		32	80
124	H 14	V	打欠石錐	不明	砂岩	HD	輪平小内縫	なし	54.8	52.1	10.1		32	80

番号	出土区	層位	器種	時期	石材	加工	素材形状	素材技術	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	備考	神田 写真 図版	
125	F12	Ⅳ	打欠石錐	不明	砂岩	HD	扁平小円錐	なし	45	35.3	10.5		32 80	
126	J 14	V	打欠石錐	不明	砂岩	HD	扁平小円錐	なし	67.5	48.7	27.5		32 80	
127	H15	V	磨石・砾石	不明	安山岩		なし	機内錐	なし	96.2	78.5	46		33 81
128	SUA01	I	磨石	不明	細粒砂岩		なし	小機内錐	なし	79.7	56.3	33.3	叩き痕は使用痕。	33 81
129	I 14	V	高平骨擦磨石	不明	砂岩	研磨・敲打	扁平錐	なし	144.4	53.4	24.6		33 81	
130	SBA07	3	磨石	不明	砂岩		なし	長機円錐	なし	113.4	45.2	24.8	表面面と端部に叩きの使用痕。	33 81
131	K 14	V	骨擦磨石	岸経末	砂岩		なし	機円錐	なし	145.4	89.2	53.8		33 81
132	SBA13	I	磨石	不明	凝灰岩		なし	長機円錐	なし	61.2	56.1	31.4		33 81
133	SZ403		磨石	不明	砂岩		なし	機円錐	なし	87	100.6	43	表面に敲打の使用痕。側面にテツザラの横擦面。	33 81
134	SBA06	I	磨石	不明	砂岩		なし	長機円錐	なし	104.8	66.4	53	使用痕は表面側面に敲打の使用痕。	34 80
135	SZ401	I	石皿	不明	砂岩		なし	扁平錐	なし	*	89.6	60		34 80
136	SBA06		石皿	不明	砂岩		なし	不明	なし	*	80.9	97.8		34 80
135	G15	II	磨石	不明	凝灰質頁岩		なし	機円錐	なし	134.5	112.3	78	端部に叩きの使用痕。此らかい対象物に使用。トセ磨き石の使用痕に近似。	45 81
183	G 6	II	砾石	不明	砂岩		なし	不明	不明	214.8	153.2	68.4	無い溝状の裏面が数多觀察される。	54 81
184	J 15	II	砾石	不明	細粒砂岩		なし	不明	不明	136.6	52.9	43.1	金属性に使用する砾石。	54 81
256	J 15	II	石頭農耕機	不明	砂岩		なし	扁平小円錐	なし	46.8	29.1	11.3		77 81
490	J 14	II	石錐	不明	下呂石	HP	剥片	不明	39.3	19.7	4.5		124 82	
491	G14	II	細針石錐	共生	凝灰岩	研磨	不明	不明	14.8	28.6	3.2	基部の剥片	124 82	
492	I 13	II	石名丁	不明	頁岩	研磨	不明	不明	51.6	53.8	8.8		124 82	
493	G16	II	石名丁	不明	片岩	研磨	不明	不明	59.3	74.2	11.1		124 82	
494	I 11	II	石錐	不明	砂岩	敲打	不明	不明	81.3	38.4	33.4		124 82	
495	J 15	II	砾石	不明	砂岩	研磨	不明	不明	101.1	50.4	22.3		124 82	
496	L 14		砾石	不明	砂岩	研磨	不明	不明	112.3	80.5	10.4		124 82	

第17表 石器観察表 B 地区

番号	出土区	層位	取上番号	器種	石材	加工	素材技術	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	神田 写真 図版
533	BE12	II	193	水晶の小錐	水晶	なし	なし	19	11	9	147 82
534	BM11	V	368	水晶の小錐	水晶	なし	なし	14	9	7	147 82
535	BN9	V	255	石錐	下呂石	SP	不明	19.4	12.1	2.8	147 82
536	SDB01	I	287	剥片	下呂石	なし	直線打穿	25.5	25.3	10.1	147 82
537	SDB01	I	262	石錐	下呂石	HP	不明	35.1	16.1	6.1	147 82
538	SBB04	I	119	砾石	砂岩	なし	不明	120.1	68.6	30.3	147 82
539	BM11	IV	349	片刃器	ホルンフェルス	HD	直線打穿	102.6	104.1	48.6	147 82
540	SDB01	I	290	両刃剥片	頁岩	なし	両刃打穿	50.1	16.9	7.7	147 82

図 版



後平茶臼古墳・後平1号古墳・後平遺跡空中写真撮影（南上り）

図版 2





A地区G14～I14断面（北より）



A地区I14～I11断面（東より）



A地区I14～K14断面（北より）



A地区試掘Tr9断面（北西より）



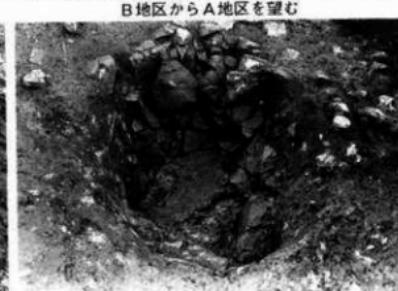
A地区K14列断面（北より）



B地区からA地区を望む

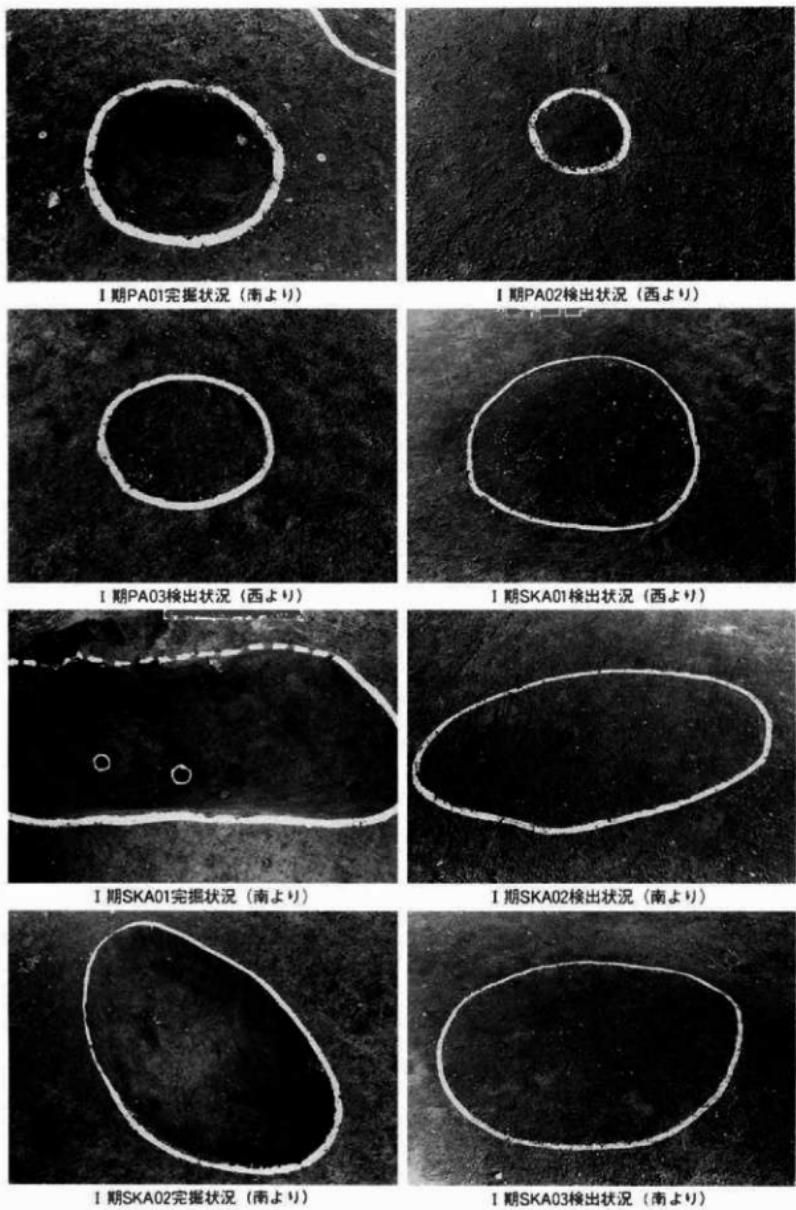


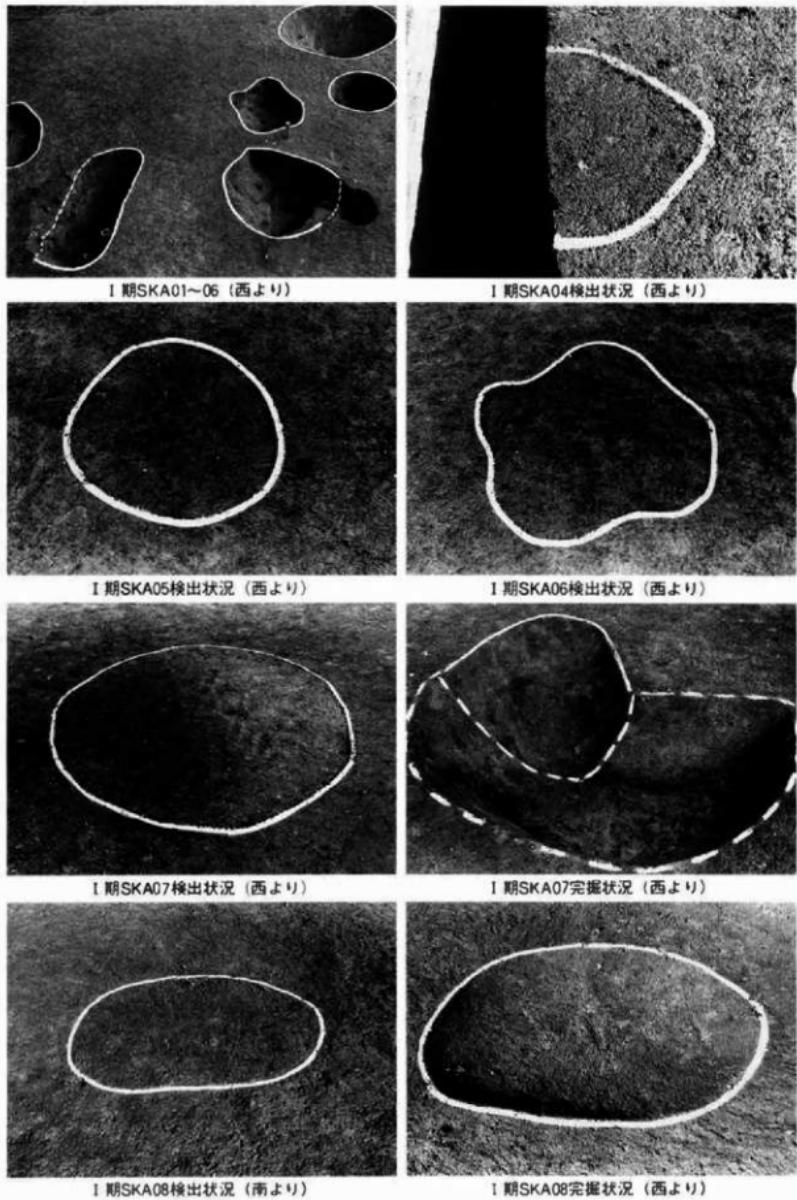
I期SIA01検出状況（西より）



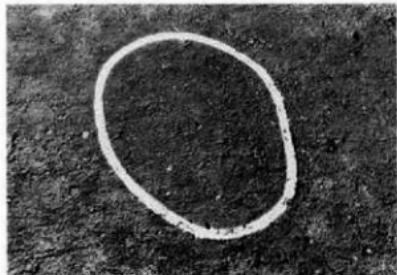
I期SIA01発掘状況（西より）

図版 4

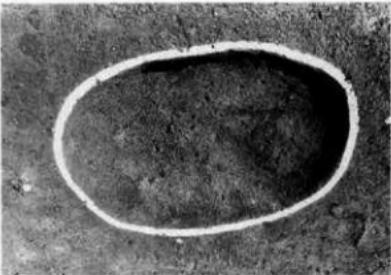




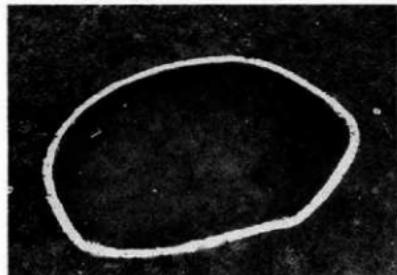
図版 6



I期SKA09検出状況（西より）



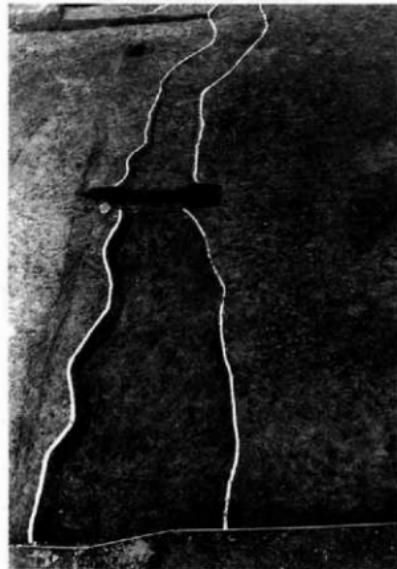
I期SKA09完掘状況（南より）



I期SKA10完掘状況（南より）



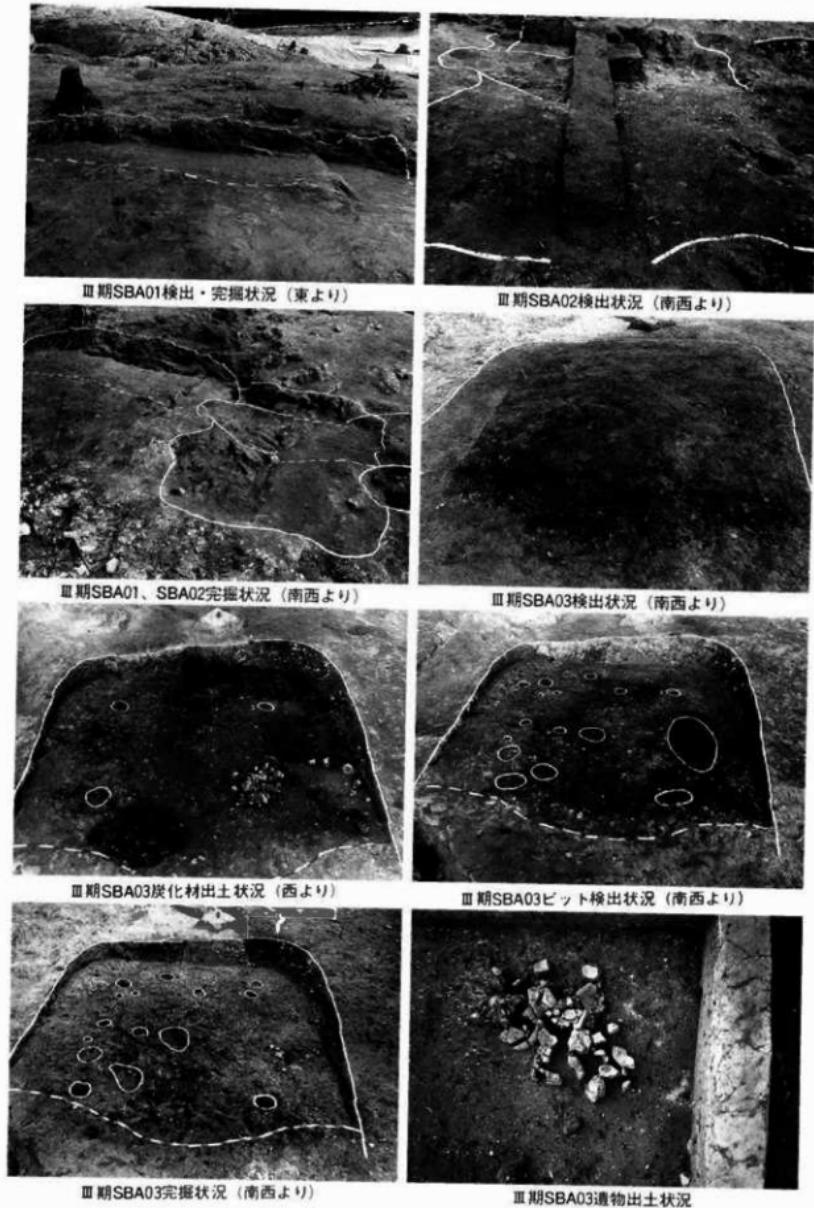
II期NRA01断面（G12付近）（北より）



II期NRA01完掘状況（南より）10列～12列まで



II期NRA01完掘状況（南より）(14列より南)



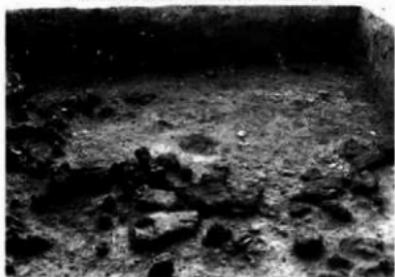
図版 8



III期SBA03炭化材検出状況（南より）



III期SBA03炭化材出土状況（東より）



III期SBA03炭化材検出状況（東より）



III期SBA04、IV期後平1号古墳周清検出状況(南より)



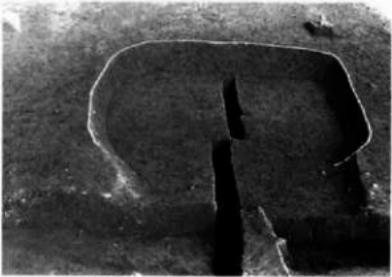
III期SBA04完掘状況（南より）



III期SBA05検出状況（西より）



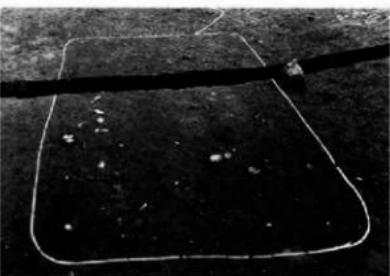
III期SBA05土器・石器出土状況



III期SBA05完掘状況（西より）



Ⅲ期SBA06検出状況（南より）



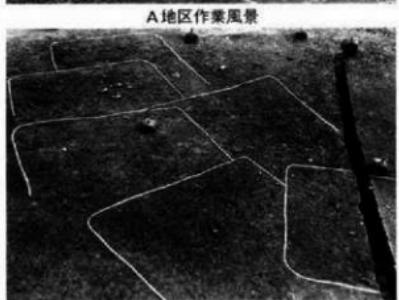
Ⅲ期SBA07検出状況（西より）



A地区作業風景



A地区作業風景



Ⅲ期SBA07~10検出状況（北より）



Ⅲ期後平茶臼古墳北側SBA07~10遺物出土状況（北西より）

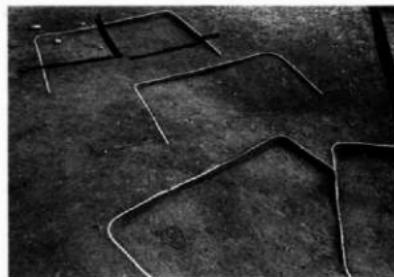


Ⅲ期SBA10遺物出土状況（北東より）



Ⅲ期SBA10土器出土状況（北西より）

図版10



Ⅲ期後平茶臼古墳北側SBA07～SBA10完掘状況（北より）



Ⅲ期SBA12完掘状況（南より）



Ⅲ期SBA13、SBA15検出状況（南より）



Ⅲ期SBA13完掘状況（南より）



Ⅲ期SBA14検出状況（南より）



Ⅲ期SBA14完掘状況（南より）



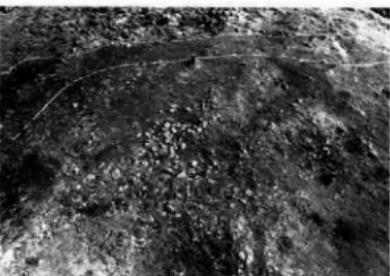
Ⅲ期SBA16、SBA20検出状況（南より）



Ⅲ期SBA15、SBA16、SBA17、SBA18完掘状況（南より）



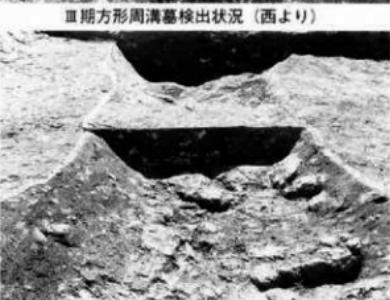
Ⅲ期SBA19完掘状況（南より）



Ⅲ期方形周溝墓検出状況（西より）



Ⅲ期方形周溝墓検出状況（西より）



Ⅲ期方形周溝墓周溝C断面（北より）



Ⅲ期方形周溝墓C断面（西より）



Ⅲ期方形周溝墓遺物出土状況（北より）

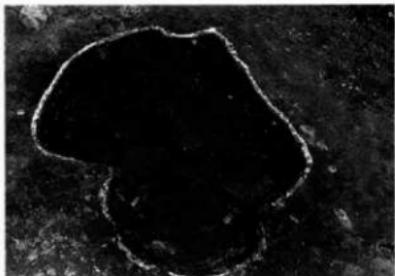


Ⅲ期方形周溝墓完掘状況（南西より）

図版12



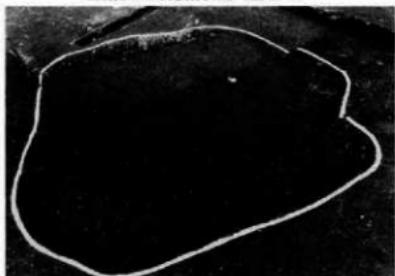
Ⅲ期SKA12検出状況（西より）



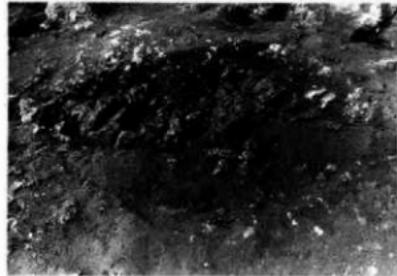
Ⅲ期SKA12完掘状況（西より）



Ⅲ期SKA13検出状況（南西より）



Ⅲ期SKA13完掘状況（南より）



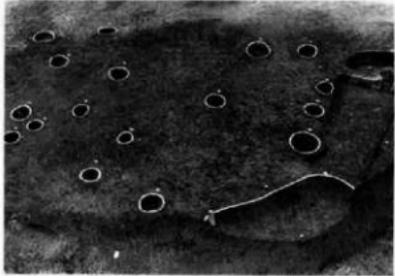
Ⅲ期SKA14完掘状況（南より）



Ⅲ期SKA16検出状況（南西より）



Ⅲ期SUA01検出状況（南より）



Ⅲ期PA06～PA22全景（南より）



IV期後平茶臼古墳主体部検出状況（南より）



IV期後平茶臼古墳主体部完掘状況（南より）



IV期後平茶臼古墳主体部完掘状況（東より）



IV期後平茶臼古墳全景（南より）



IV期後平茶臼古墳主体部鉢出土状況（東より）



IV期後平茶臼古墳主体部完掘状況（南より）

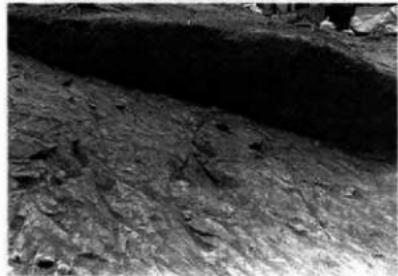
図版14



IV期後平茶臼古墳周溝検出状況（東より）



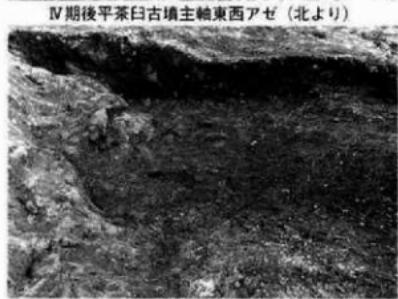
IV期後平茶臼古墳周溝B区断面（西より）



IV期後平茶臼古墳主軸東西アセ（北より）



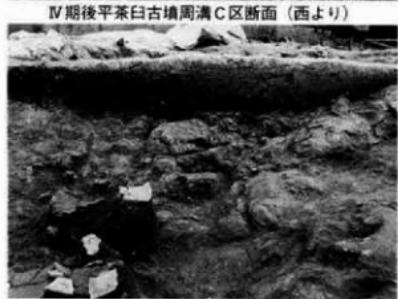
IV期後平茶臼古墳主軸東西アセ（北より）



IV期後平茶臼古墳周溝C区断面（西より）



IV期後平茶臼古墳周溝C区断面（南より）



IV期後平茶臼古墳周溝C区断面（南より）



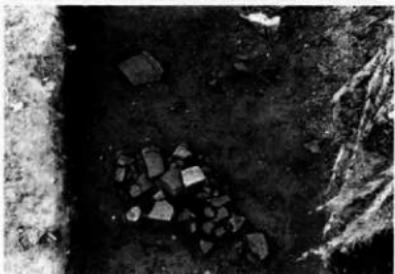
B地区からA地区を望む



IV期後平茶臼古墳周溝B区埴輪出土状況（南より）



IV期後平茶臼古墳周溝B区埴輪出土状況



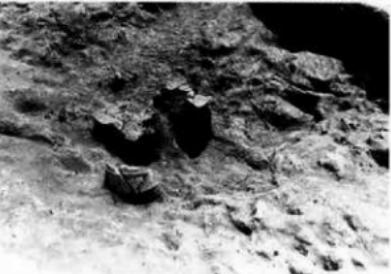
IV期後平茶臼古墳周溝遺物出土状況（西より）



IV期後平茶臼古墳周溝B区埴輪出土状況（西より）(413、423)



IV期後平茶臼古墳周溝内埴輪出土状況（東より）



IV期後平茶臼古墳周溝内埴輪出土状況（東より）UP



IV期後平茶臼古墳B区作業風景

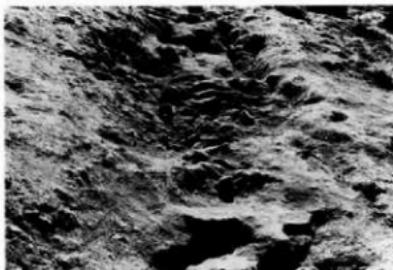


A地区作業風景

図版16



IV期後平茶臼古墳周溝A区完掘状況（西より）



IV期後平茶臼古墳周溝A区完掘状況（北より）



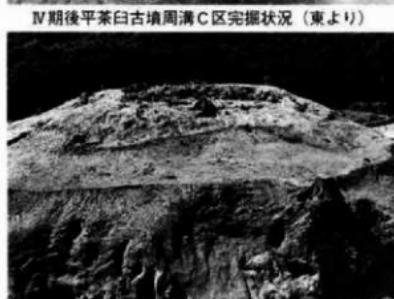
IV期後平茶臼古墳周溝B区完掘状況（西より）



IV期後平茶臼古墳周溝B区完掘状況（南より）



IV期後平茶臼古墳周溝C区完掘状況（東より）



IV期後平茶臼古墳全景（東より）



IV期後平茶臼古墳周溝C区完掘状況（北より）



IV期後平茶臼古墳C区P1P2埴輪検出状況(南より)



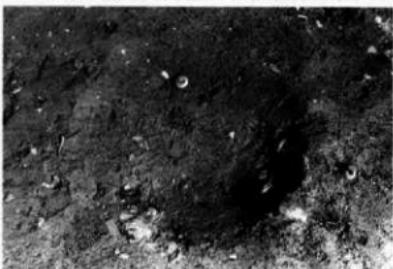
IV期後平茶臼古墳造り出し部P1P2埴輪断面状況(南より)



IV期後平茶臼古墳造り出し部P1P2埴輪断面状況(東より)



IV期後平茶臼古墳埴輪列P4半剖状況(西より)



IV期後平茶臼古墳埴輪列P6完掘状況(西より)



IV期後平茶臼古墳造り出し部埴輪列完掘状況(南より)



IV期後平茶臼古墳主体部控え積み検出状況(南より)

図版18



IV期後平茶臼古墳主体部控え積み検出状況（西より）



IV期後平茶臼古墳主体部控え積み検出状況（西より）



IV期後平茶臼古墳主体部控え積み検出状況（西より）



IV期後平茶臼古墳主体部控え積み検出状況（西より）



IV期後平茶臼古墳主体部控え積み検出状況（西より）



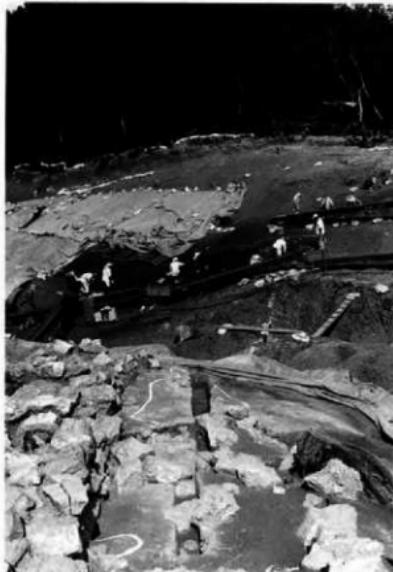
IV期後平茶臼古墳主体部控え積み検出状況（西より）



IV期後平茶臼古墳主体部控え積み検出状況（西より）



IV期後平茶臼古墳主体部控え積み検出状況（西より）



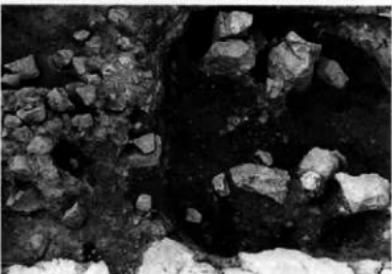
IV期後平茶臼古墳主体部内カクラン検出状況（南より）



IV期後平茶臼古墳盜掘範囲実掘状況（南より）



IV期後平茶臼古墳盜掘範囲検出状況（南より）



IV期後平茶臼古墳主体部盜掘坑掘削状況（東より）



IV期後平茶臼古墳検出状況（南より）



IV期後平茶臼古墳検出状況（南より）

図版20



IV期後平茶臼古墳検出状況（南より）



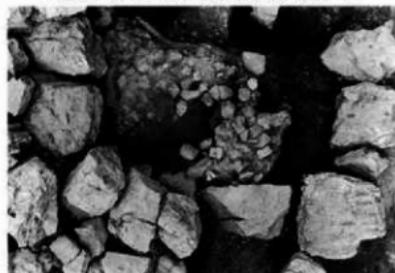
IV期後平茶臼古墳検出状況（北より）



IV期後平茶臼古墳開口部完掘状況（南より）



IV期後平茶臼古墳入り口確認状況（北より）



IV期後平茶臼古墳開口部完掘状況（南より）



IV期後平茶臼古墳開口部確認状況（北より）



IV期後平茶臼古墳開口部完掘状況（南より）



IV期後平茶臼古墳開口部確認状況（北より）



図版22



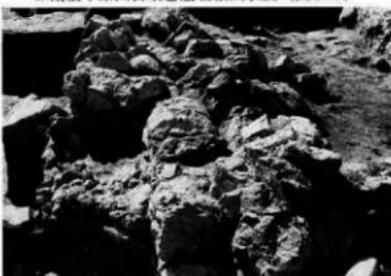
IV期後平茶臼古墳基底石検出状況（南より）



IV期後平茶臼古墳基底石検出状況（西より）



IV期後平茶臼古墳基底石検出状況（西より）



IV期後平茶臼古墳石室解体状況（下から2段目まで）（北より）



IV期後平茶臼古墳石室西側壁解体状況（下から2段目）（西より）



IV期後平茶臼古墳石室西側壁解体状況（下から2段目）（西より）



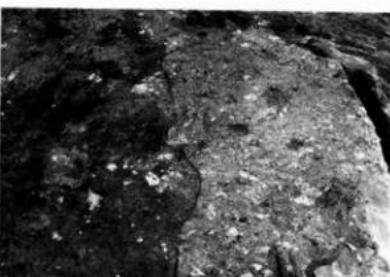
IV期後平茶臼古墳B区第Ⅱ工程検出状況（南より）



IV期後平茶臼古墳B区第Ⅱ工程検出状況（南より）



IV期後平茶臼古墳主体部B区粘土検出状況（南より）



IV期後平茶臼古墳主体部掘削状況（南より）



IV期後平茶臼古墳主体部断面



IV期後平茶臼古墳主体部断面



IV期後平茶臼古墳主体部断面



IV期後平茶臼古墳主軸アゼ（南より）



IV期後平茶臼古墳西側壁（東より）



IV期後平茶臼古墳石室開口部半剖状況（東より）

図版24



IV期後平茶臼古墳主体部Cライン（東より）



IV期後平茶臼古墳主体部Bライン（北より）



IV期後平茶臼古墳墳丘主軸S-N(Aライン)断面全景(東より)



IV期後平茶臼古墳墳丘主軸S-N(Aライン)断面①(東より)



IV期後平茶臼古墳墳丘主軸S-N(Aライン)断面②(東より)



IV期後平茶臼古墳墳丘主軸S-N(Aライン)断面③(東より)



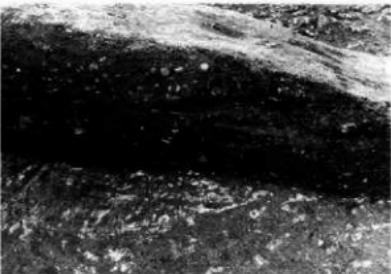
IV期後平茶臼古墳墳丘主軸S-N(Aライン)断面④(東より)



IV期後平茶臼古墳墳丘主軸S-N断面(東より)



IV期後平茶臼古墳埴丘主軸E-W断面①(北より)



IV期後平茶臼古墳埴丘主軸E-W断面②(北より)



IV期後平茶臼古墳A区東壁断面(西より)(Aライン)



IV期後平茶臼古墳A区東壁断面(西より)(Aライン)



IV期後平茶臼古墳A区南壁(北より)(Bライン)



IV期後平茶臼古墳Bライン(埴丘主軸E-W断面)(北より)



IV期後平茶臼古墳BラインUP(北より)



IV期後平茶臼古墳BラインUP(北より)

図版26



IV期後平茶臼古墳Cライン（東より）



IV期後平茶臼古墳Cライン（東より）



IV期後平茶臼古墳主体部Dライン（東より）



IV期後平茶臼古墳Dライン断面（南より）



IV期後平茶臼古墳Eライン（北より）



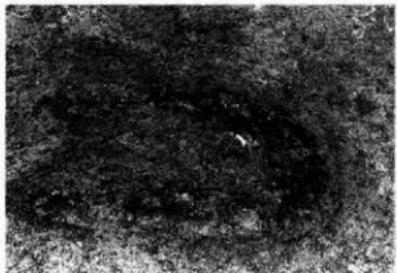
IV期後平茶臼古墳Eライン（北より）



IV期後平1号古墳周溝（南東より）



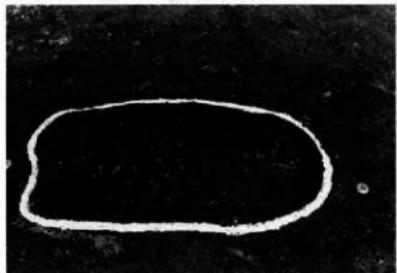
IV期後平1号古墳空掘状況（南東より）



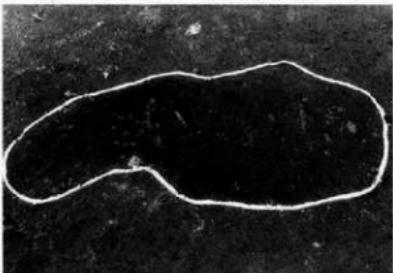
V期SZA01検出状況（西より）



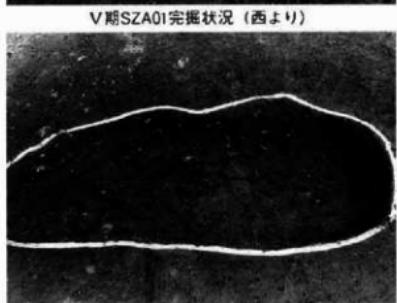
V期SZA01完掘状況、遺物出土状況（西より）



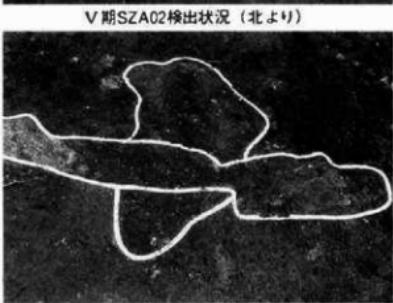
V期SZA01完掘状況（西より）



V期SZA02検出状況（北より）



V期SZA02完掘状況（南より）



V期SZA03検出状況（南西より）



V期SZA03完掘状況（南より）

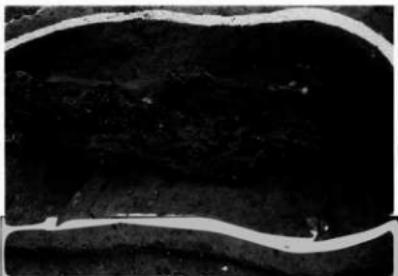


V期SZA03完掘状況（南より）

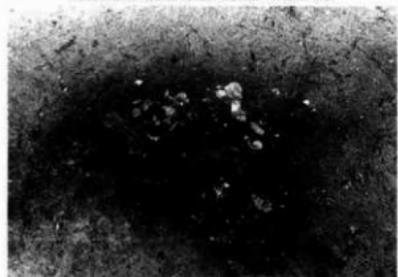
図版28



V期SZA03炭化材検出状況（南より）



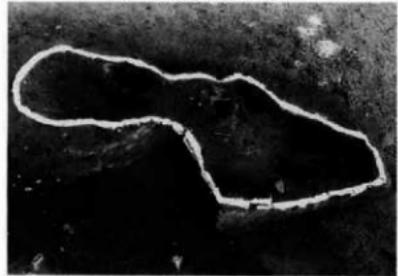
V期SZA03炭化材模田状況（南より）



V期SZA04検出状況（西より）



V期SZA04完振状況（西より）



V期SZA05完振状況（西より）



VI期SDA01北東部西側カタ振削状況（南より）



VI期SDA01完振10列断ち割りまで（南より）



後平道路B地区調査前風景（東より）



B地区調査前風景（東より）



B地区調査前風景（西より）



B地区範囲確認調査（西より）



B地区東区西壁断面（東より）



B地区東区西壁断面（東より）

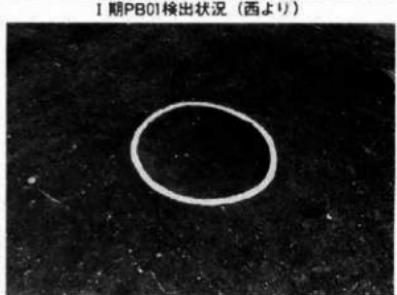
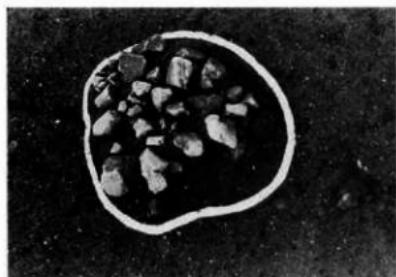


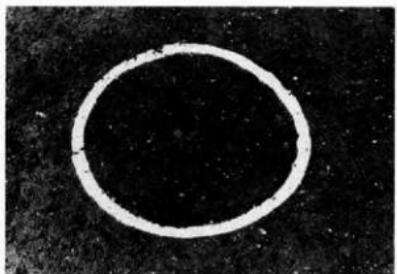
B地区西区東壁断面（西より）



B地区作業風景

図版30





I期PB02検出状況（東より）



I期PB02完掘状況（東より）



II期PB03検出状況（西より）



II期PB04検出状況（南より）



III期SBB01～SBB03検出状況（南より）



III期SBB01～SBB03完掘状況（南より）



III期SBB01壁溝内小ピット（西より）

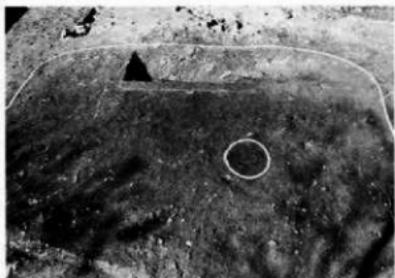


III期SBB01焼土（西より）

図版32



IV期SDB01検出状況（南より）



III期SBB04検出状況（南より）



III期SDB01、SDB02、SBB04完掘状況（南より）



III期SDB02、SBB04完掘状況（南西より）



III期SBB05、SBB06検出状況（南西より）



III期SBB05、SBB06完掘状況（南より）



III期PB06検出状況（西より）



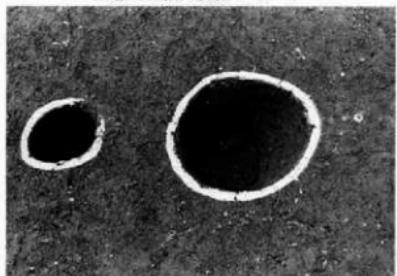
III期PB07検出状況（西より）



Ⅲ期PB09検出状況（西より）



Ⅲ期PB09完掘状況（南より）



Ⅲ期PB10、PB11完掘状況（南より）



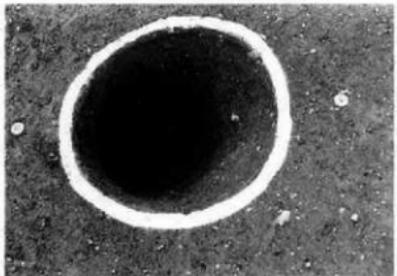
Ⅲ期PB12完掘状況（南より）



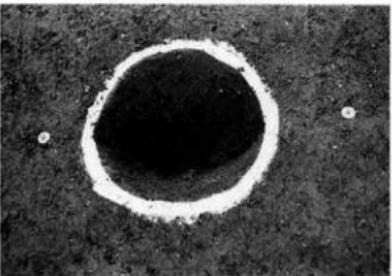
Ⅲ期PB13～PB17検出状況（南より）



Ⅲ期PB13完掘状況（南より）

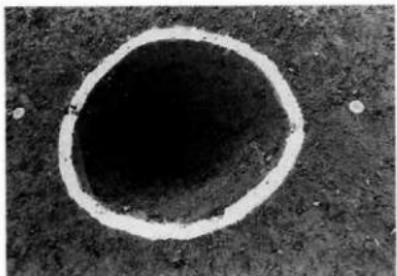


Ⅲ期PB14完掘状況（南より）

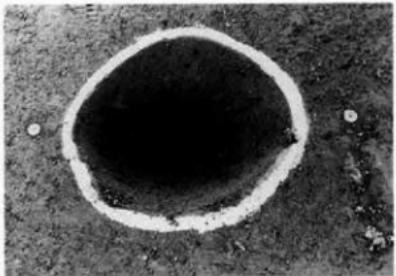


Ⅲ期PB15完掘状況（南より）

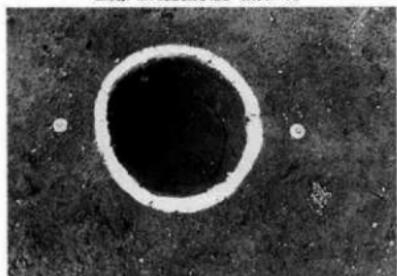
図版34



Ⅲ期PB16完掘状況（南より）



Ⅲ期PB17完掘状況（南より）



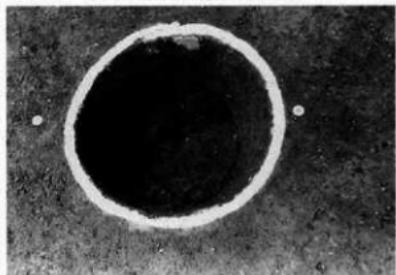
Ⅲ期PB18完掘状況（南より）



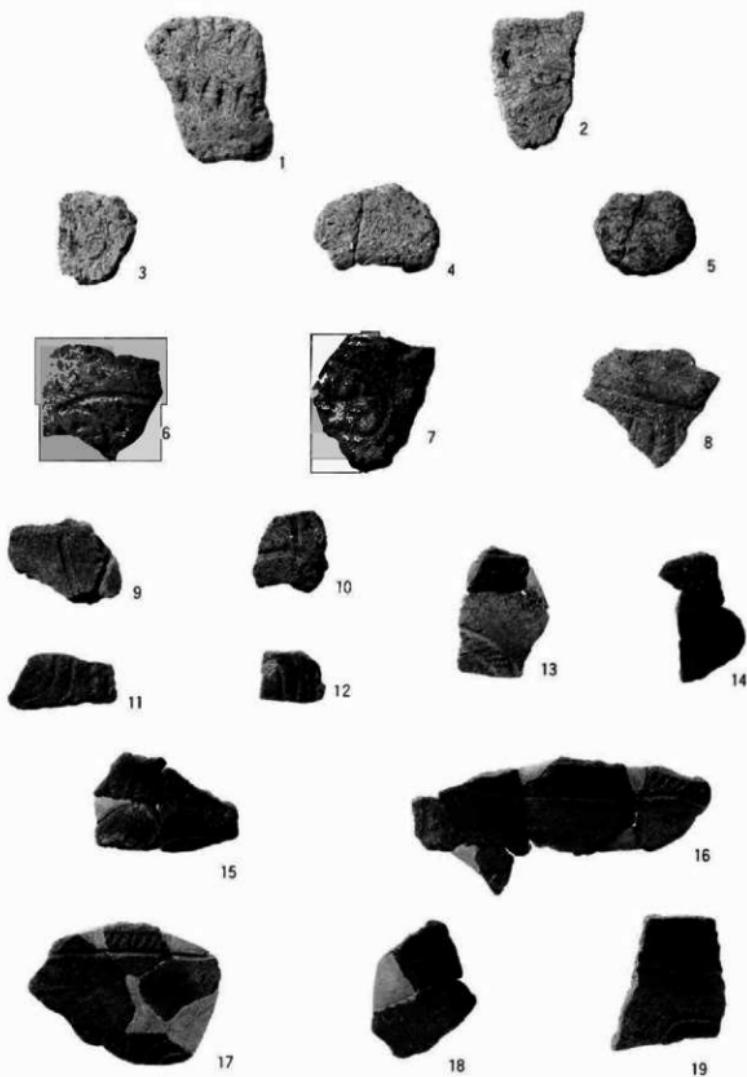
Ⅲ期PB19完掘状況（南より）



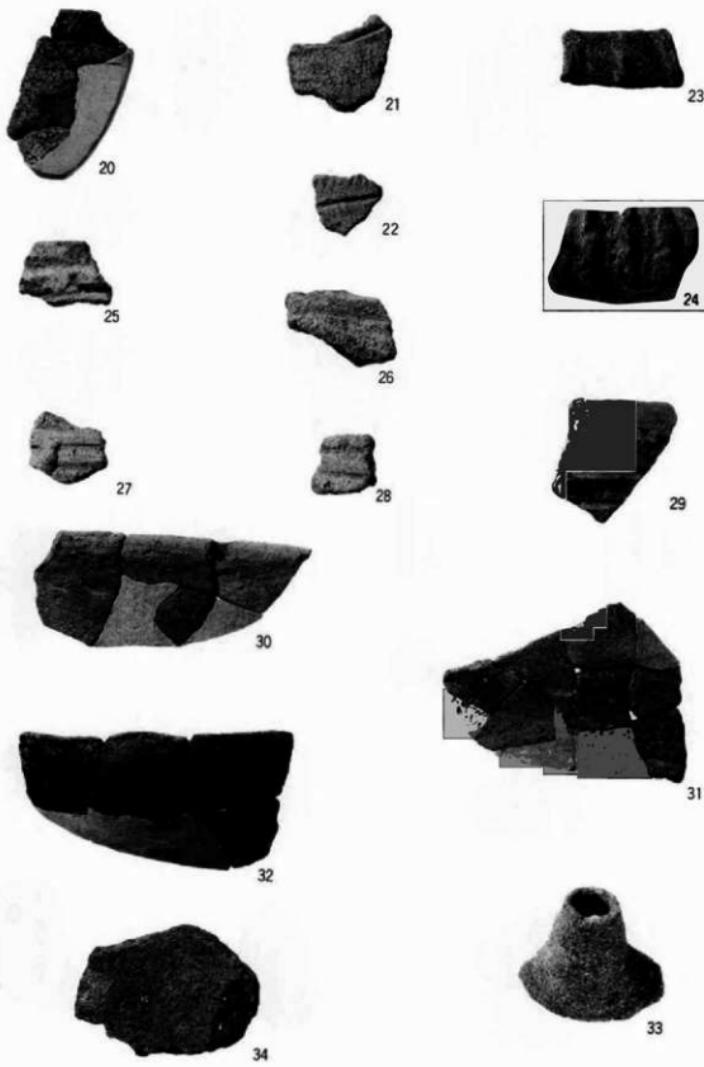
Ⅲ期PB20完掘状況（南より）



Ⅲ期PB21完掘状況（南より）

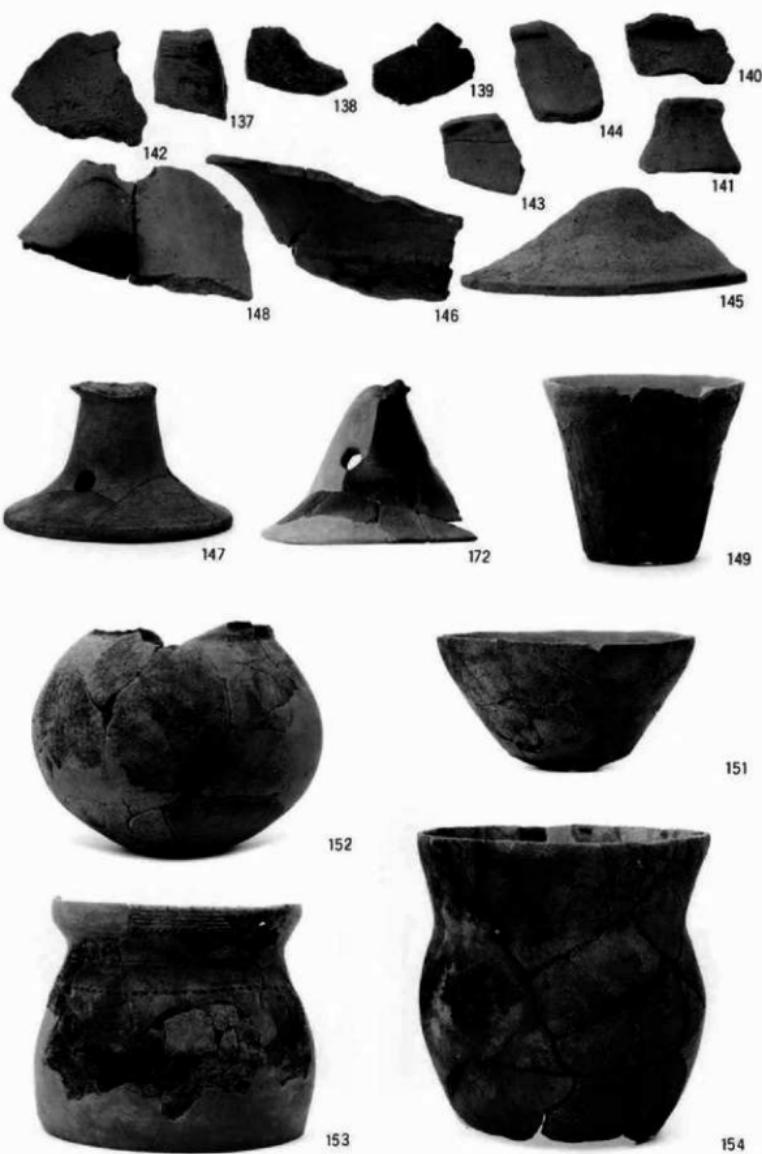


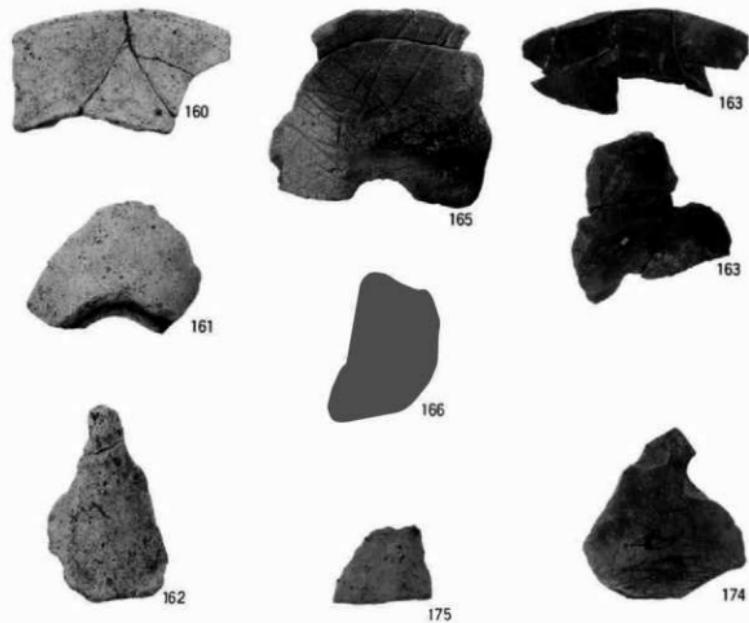
图版36





図版38





图版40



176

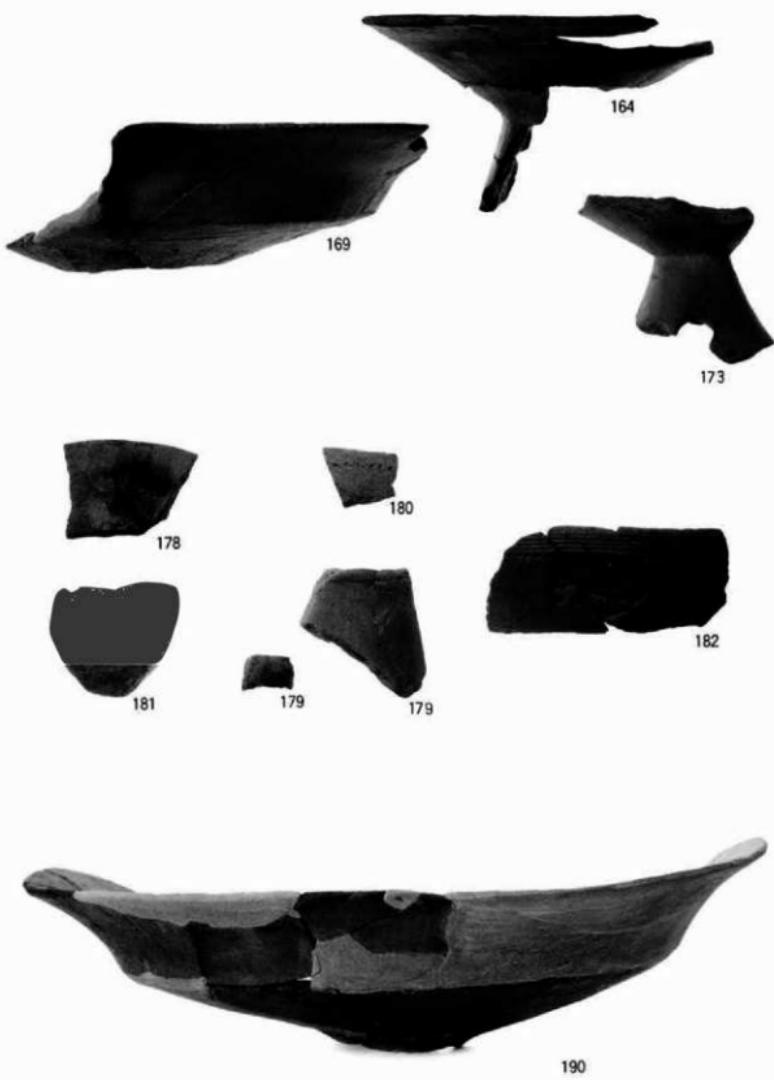


167

168



177



図版42



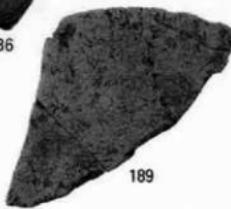
186



185



187



189



194



192



191



193



195



196



197



200



199



201



198



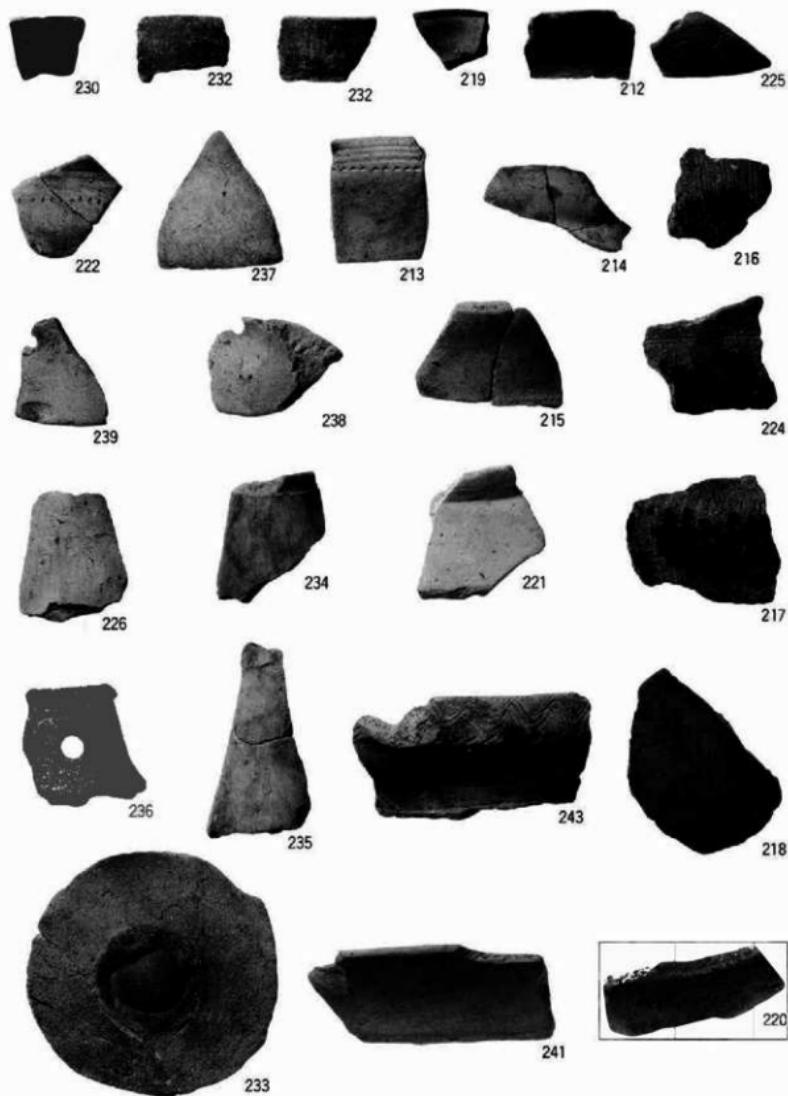
300



299

図版44





図版46



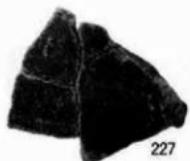
228



228



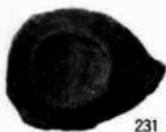
240



227



229



231



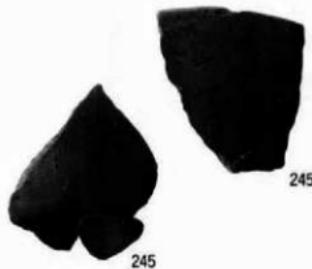
223



223



244



245



245



245



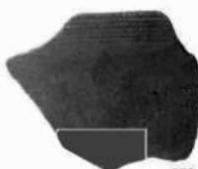
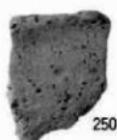
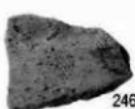
242



245



245



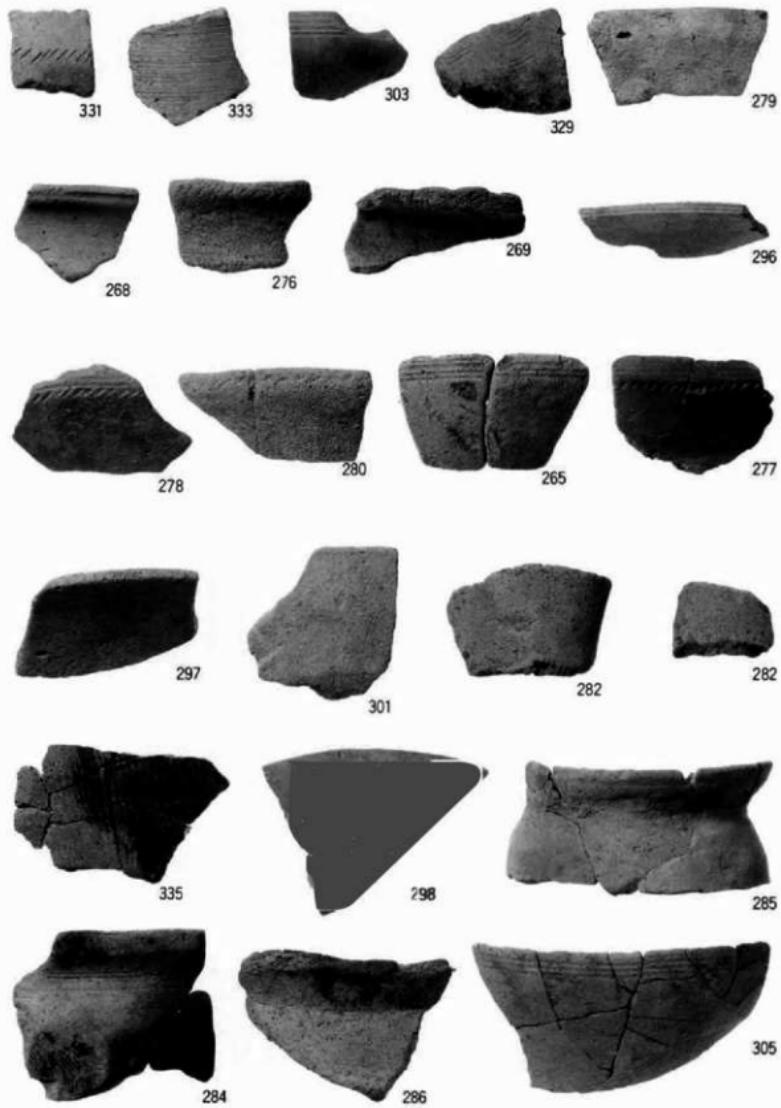
図版48



図版49

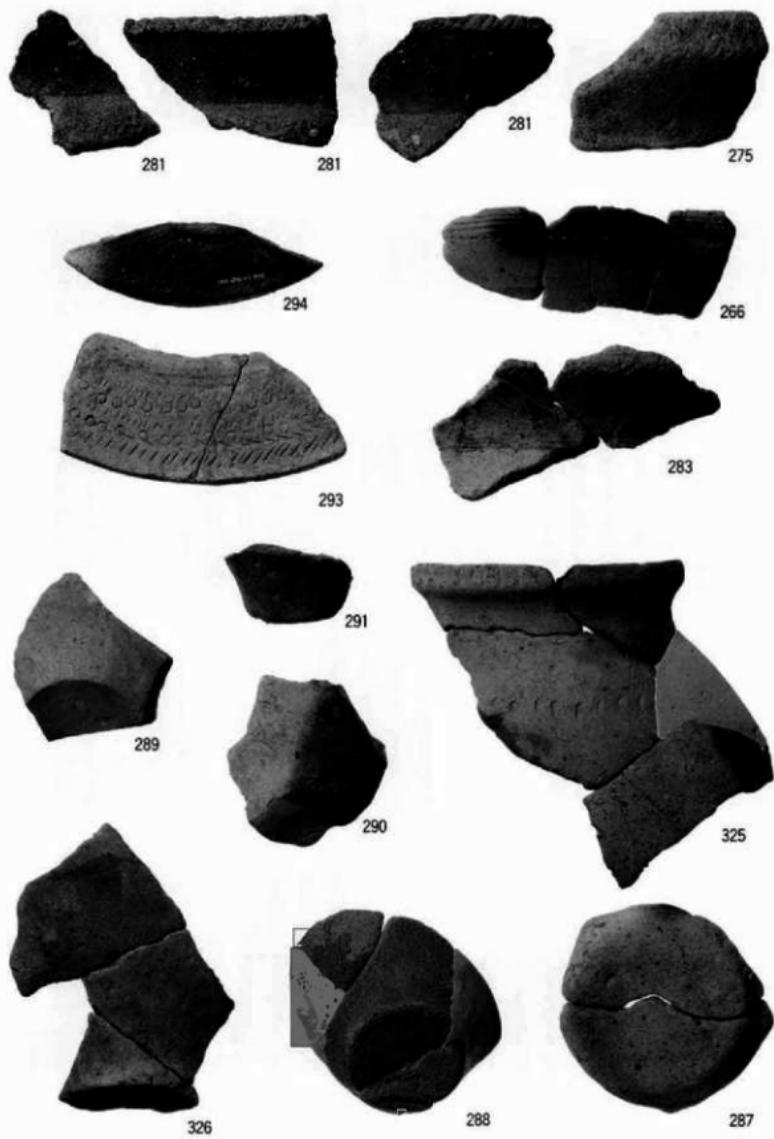


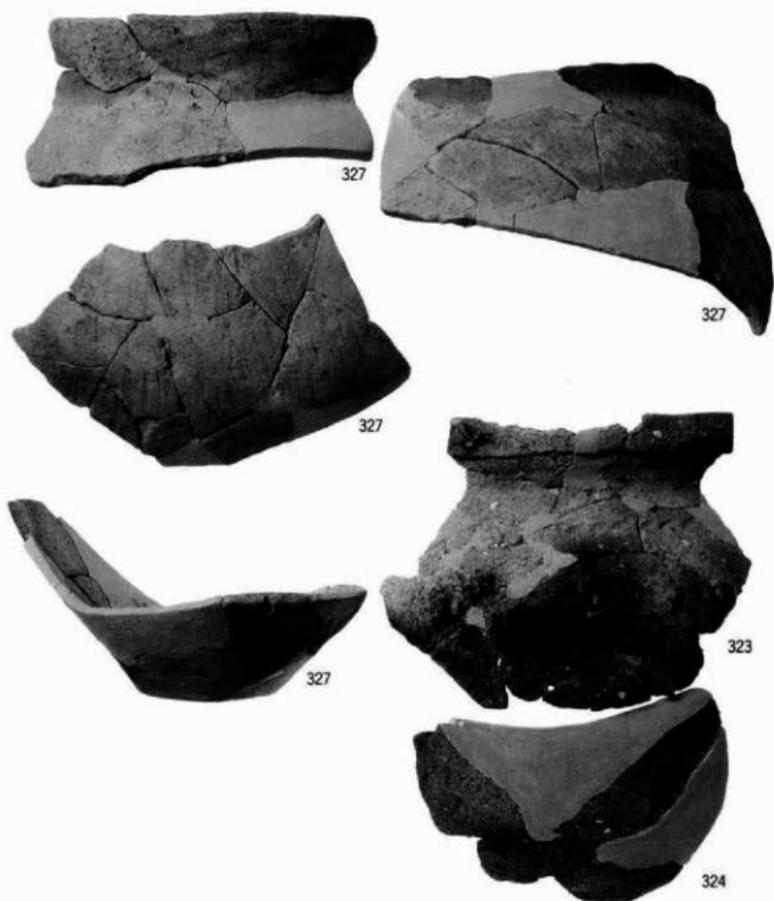
図版50





図版52







430



428



402



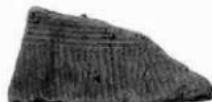
461



427



420



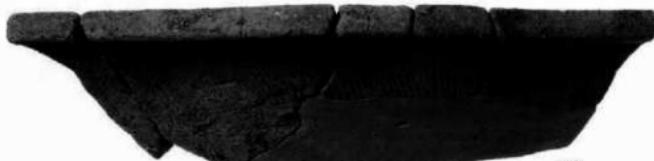
431



403



421

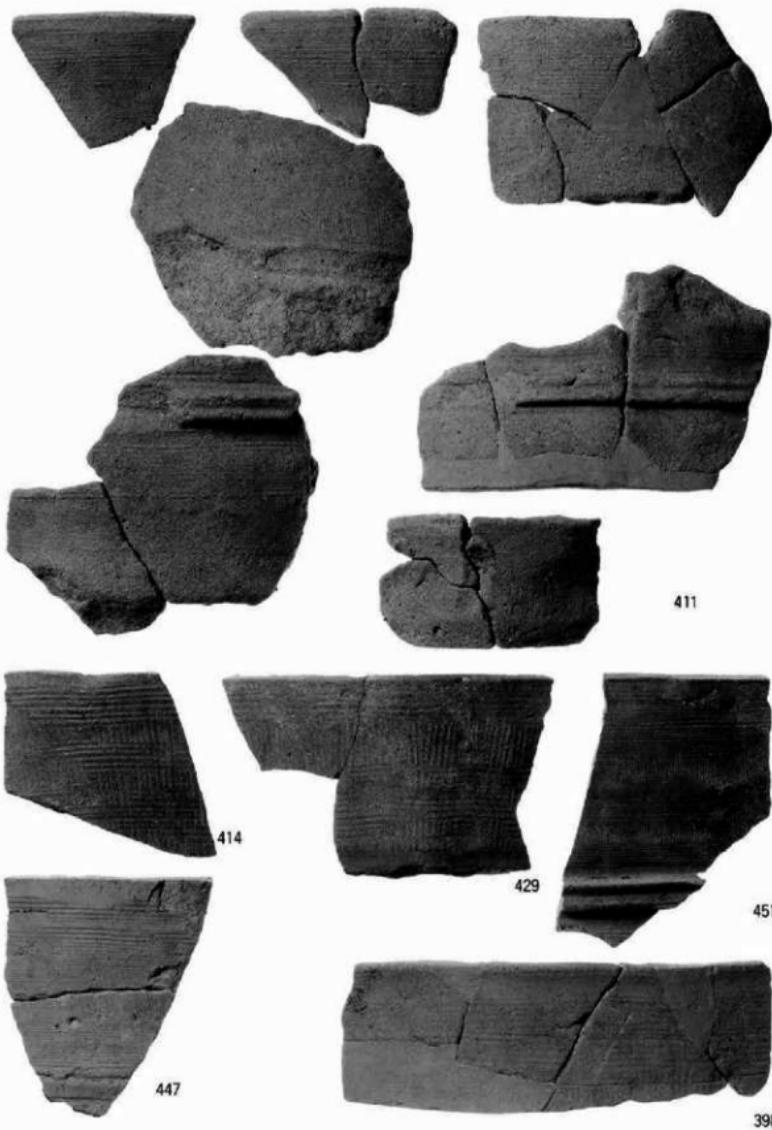


419

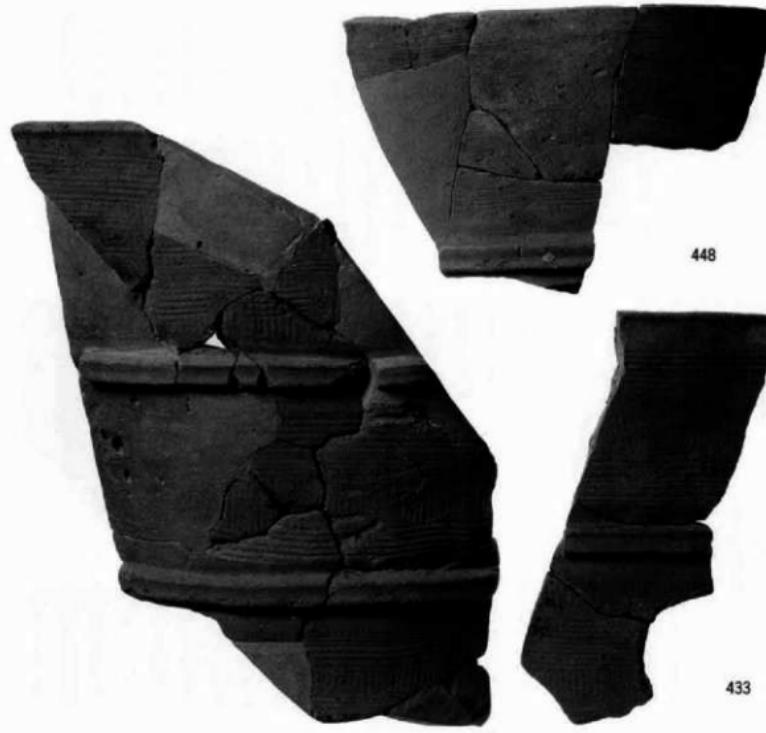


419





図版56





452



445



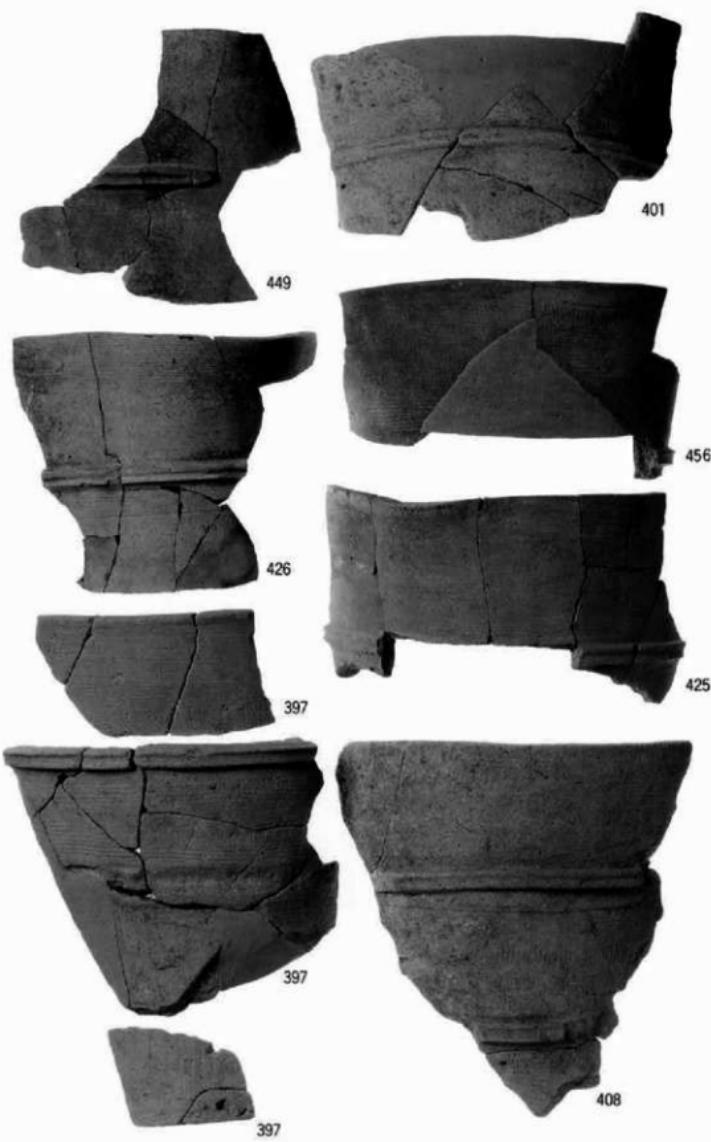
445

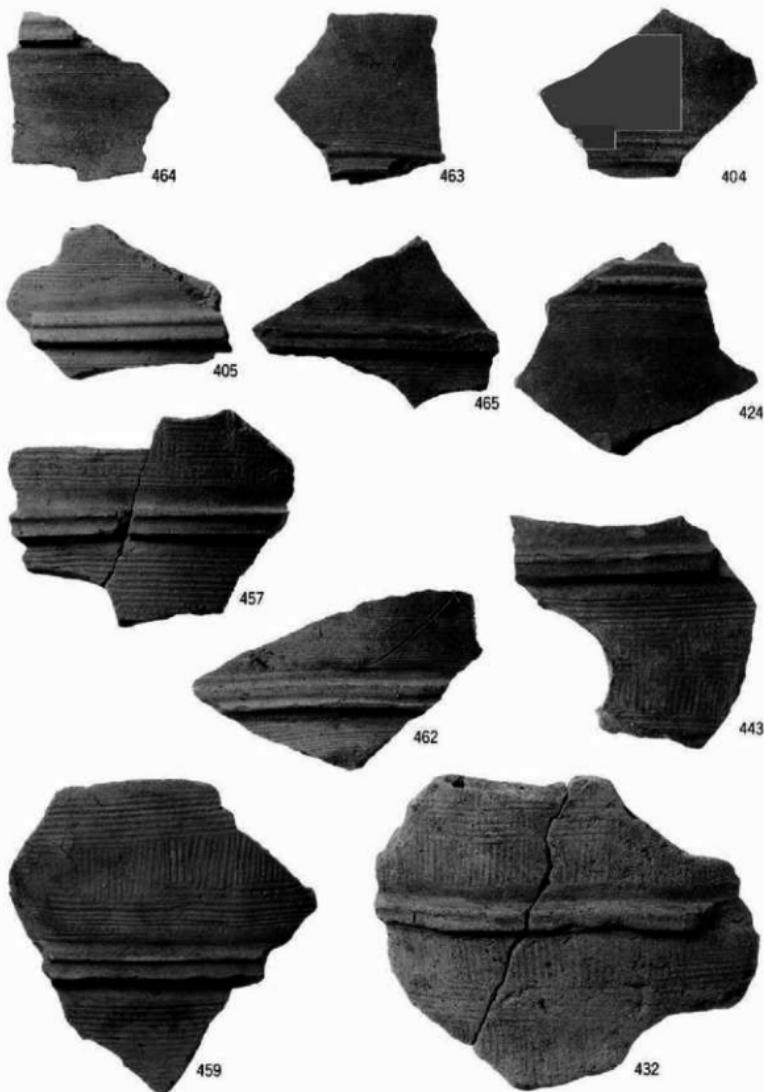


434



442







458



439



455



399



412



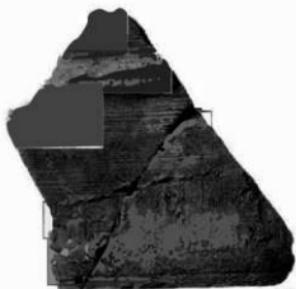
437



460



469



468



435



453



454

図版62



467



438



400



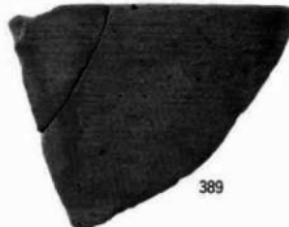
466



390



391



389



393



394



395



388



406



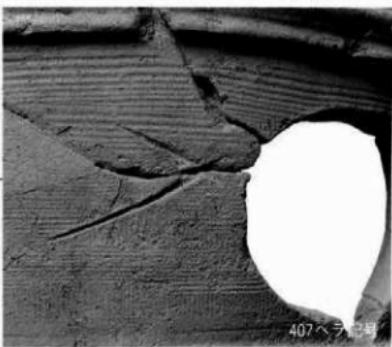
392



407



406ヘラ記号



407ヘラ記号



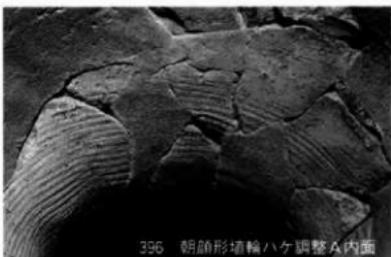
396表



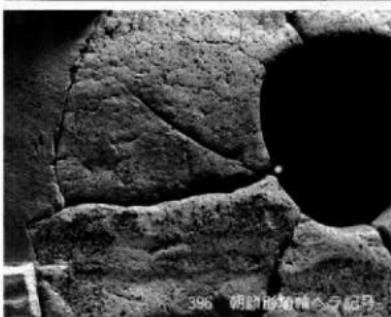
396裏



396 軸頭形埴輪ハケ調整A外面



396 軸頭形埴輪ハケ調整A内面



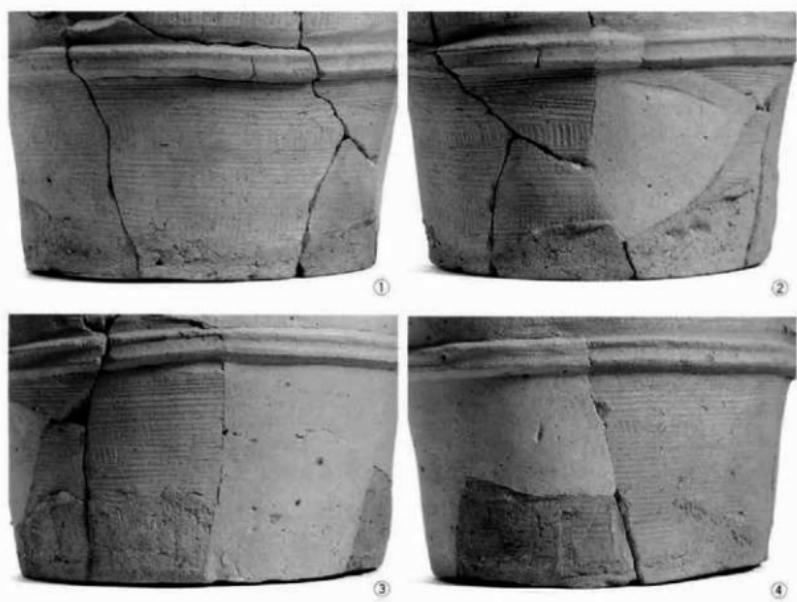
396 軸頭形埴輪ハケ調整A

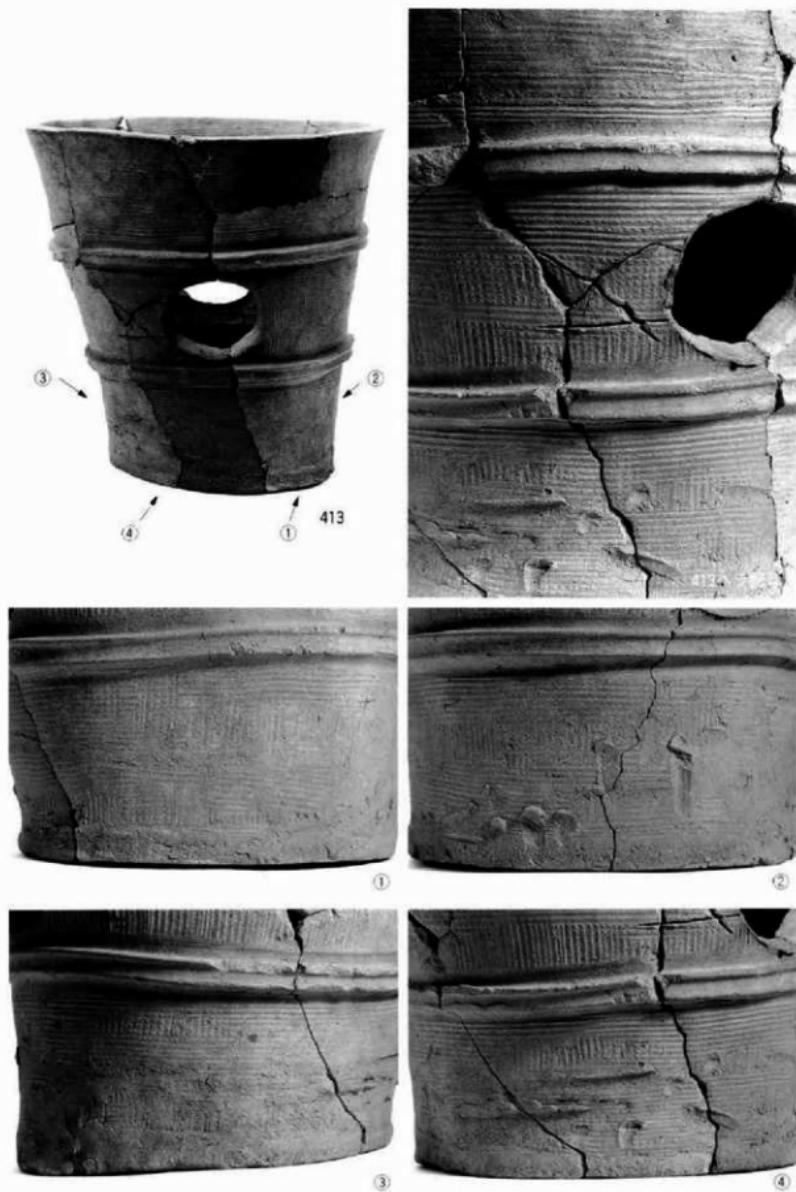


图版66

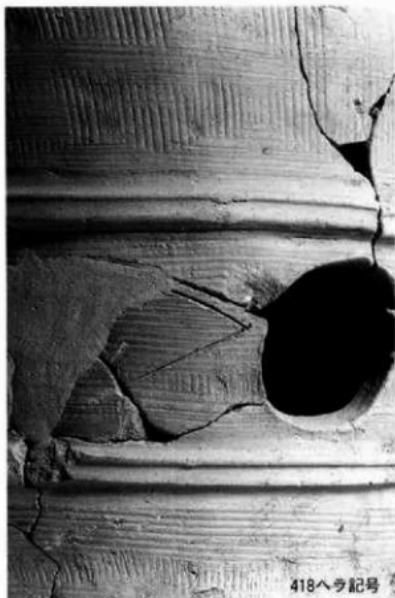


410底部





図版68





①



②

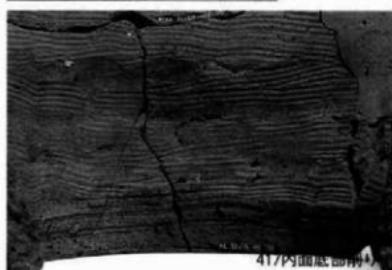
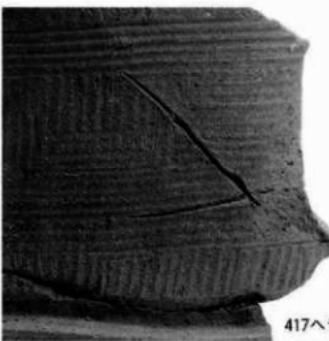


③



④

図版70





422



436



444



441



436ヘラ 記号

図版72



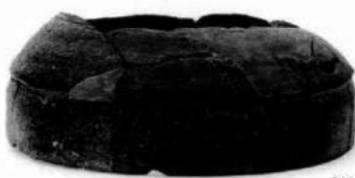
336



340



337



344



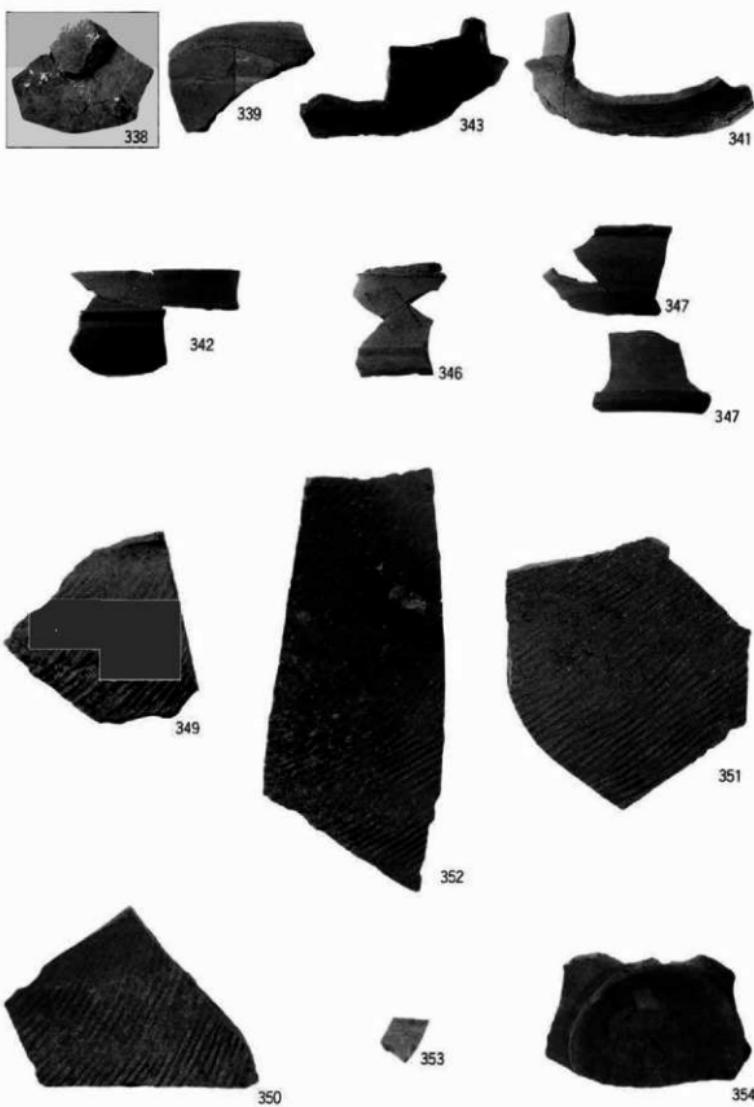
345



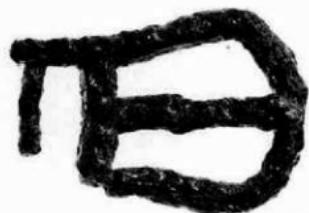
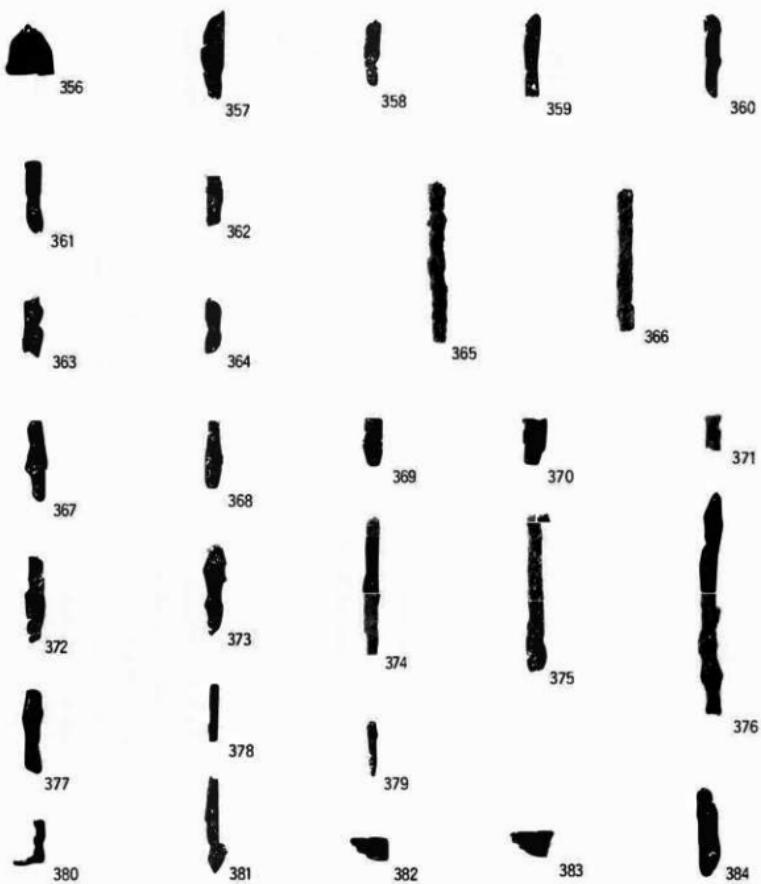
355



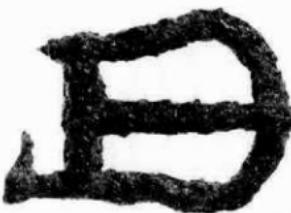
348



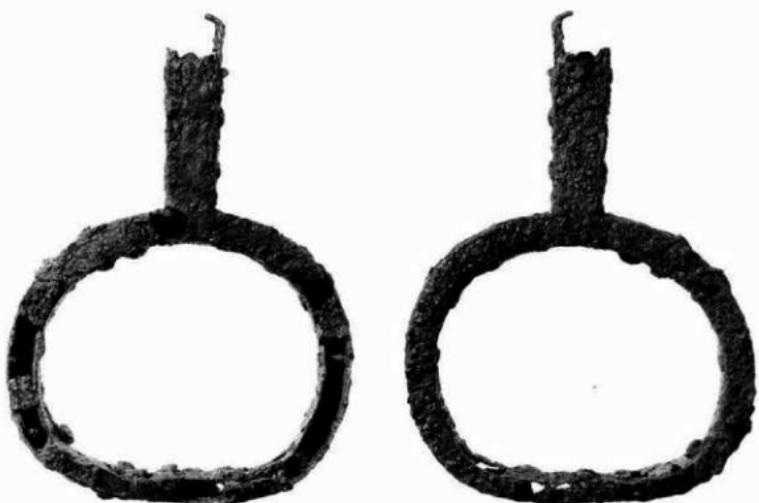
図版74



385



386



387表

387裏



497復元前



497復元後



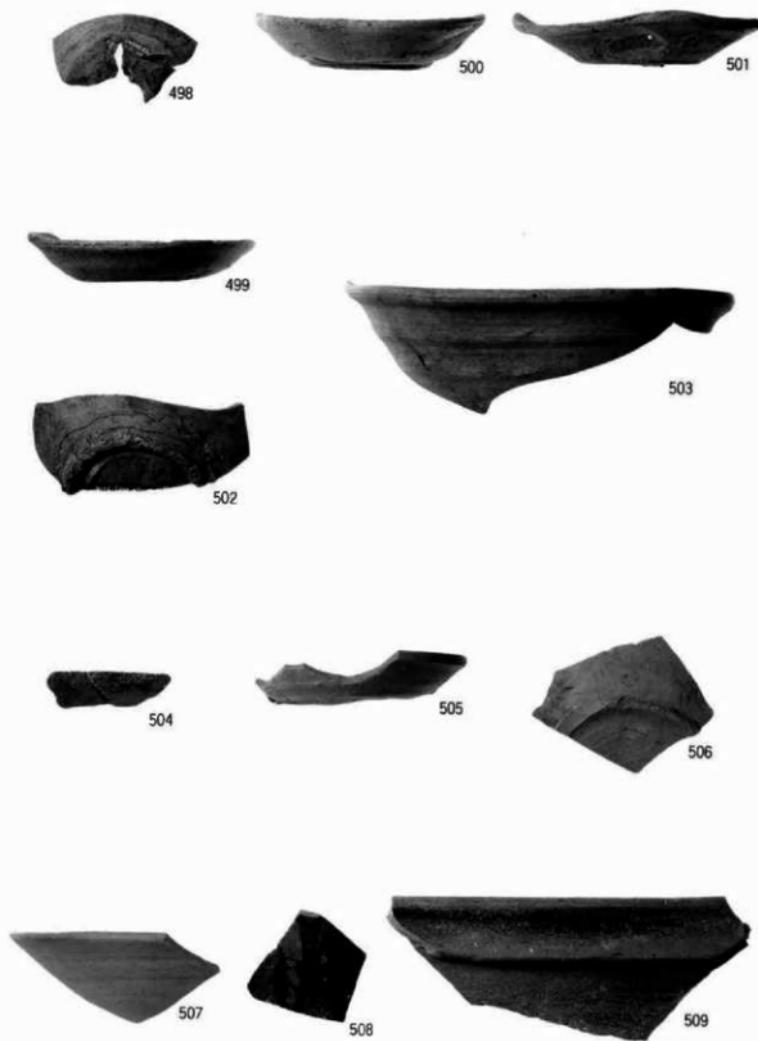
387レントゲン写真



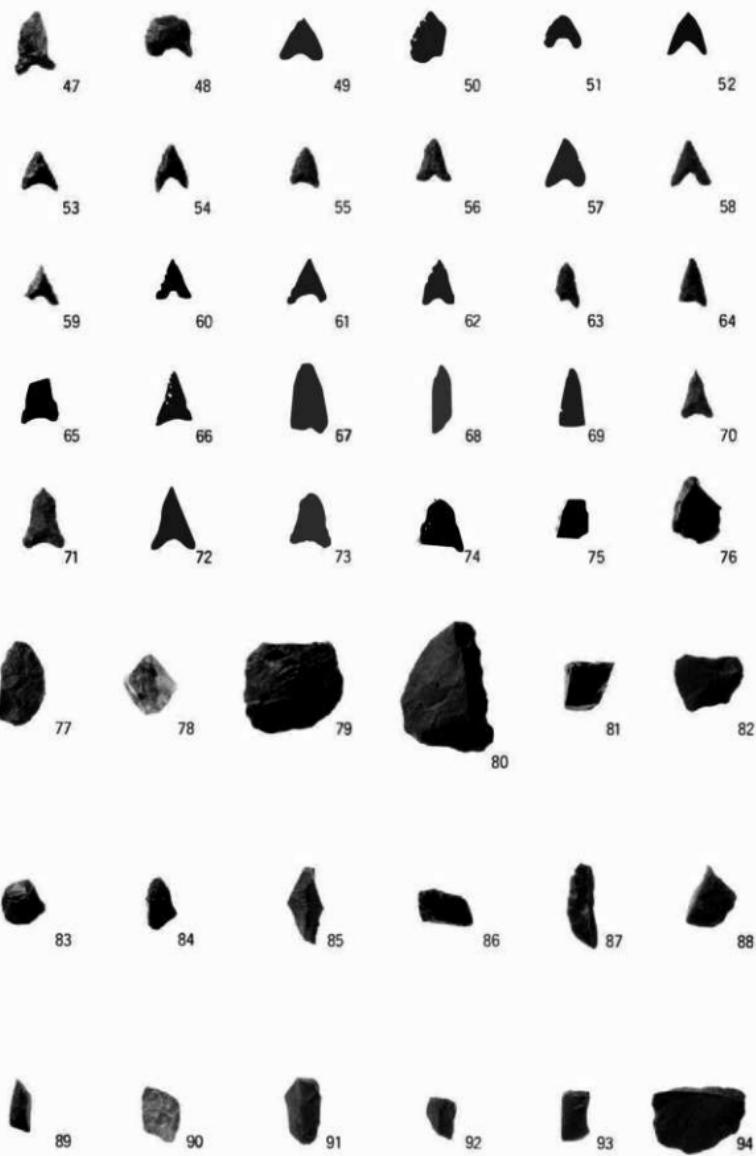
385レントゲン写真
386レントゲン写真



497レントゲン写真



図版78





95



96



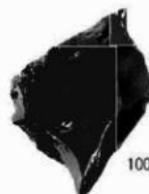
97



98



99



100



101



102



103



104



105



106



107



108



109

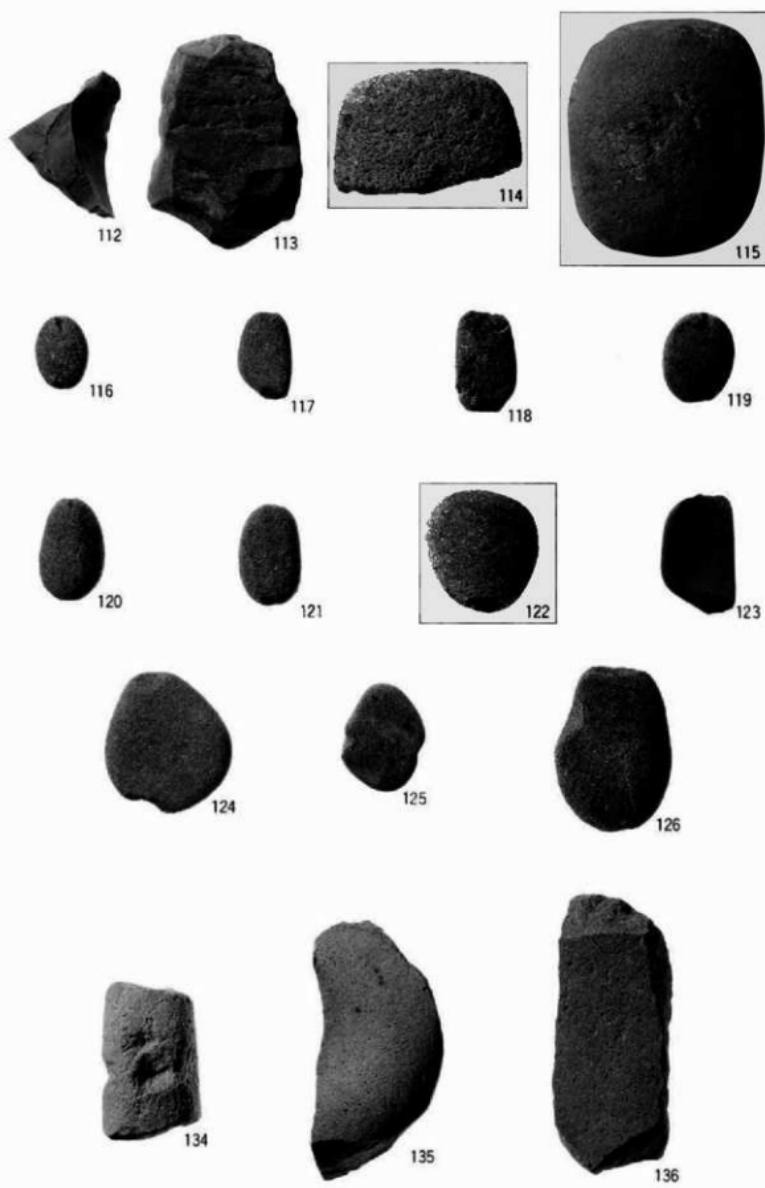


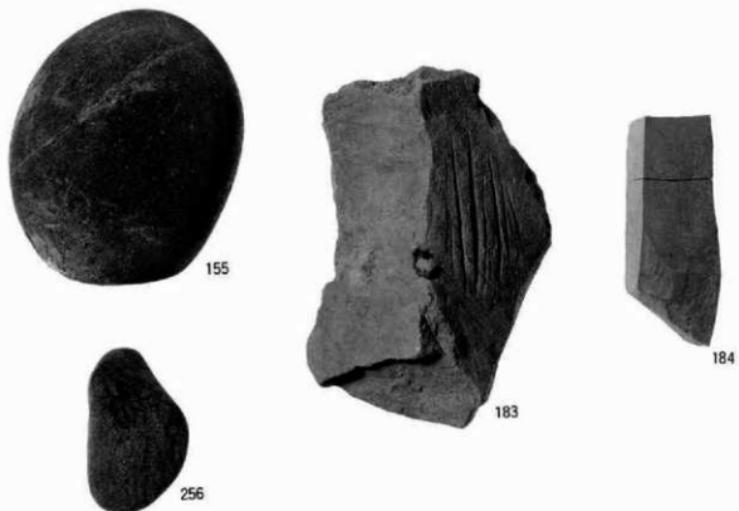
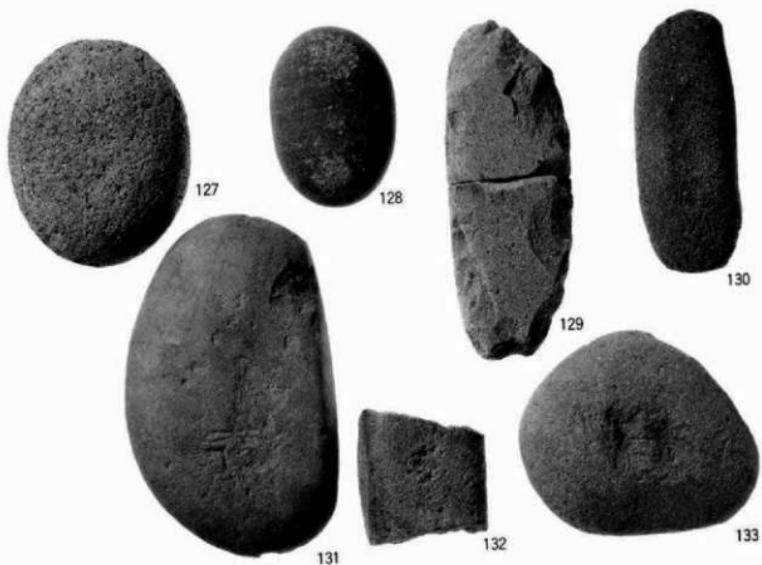
110



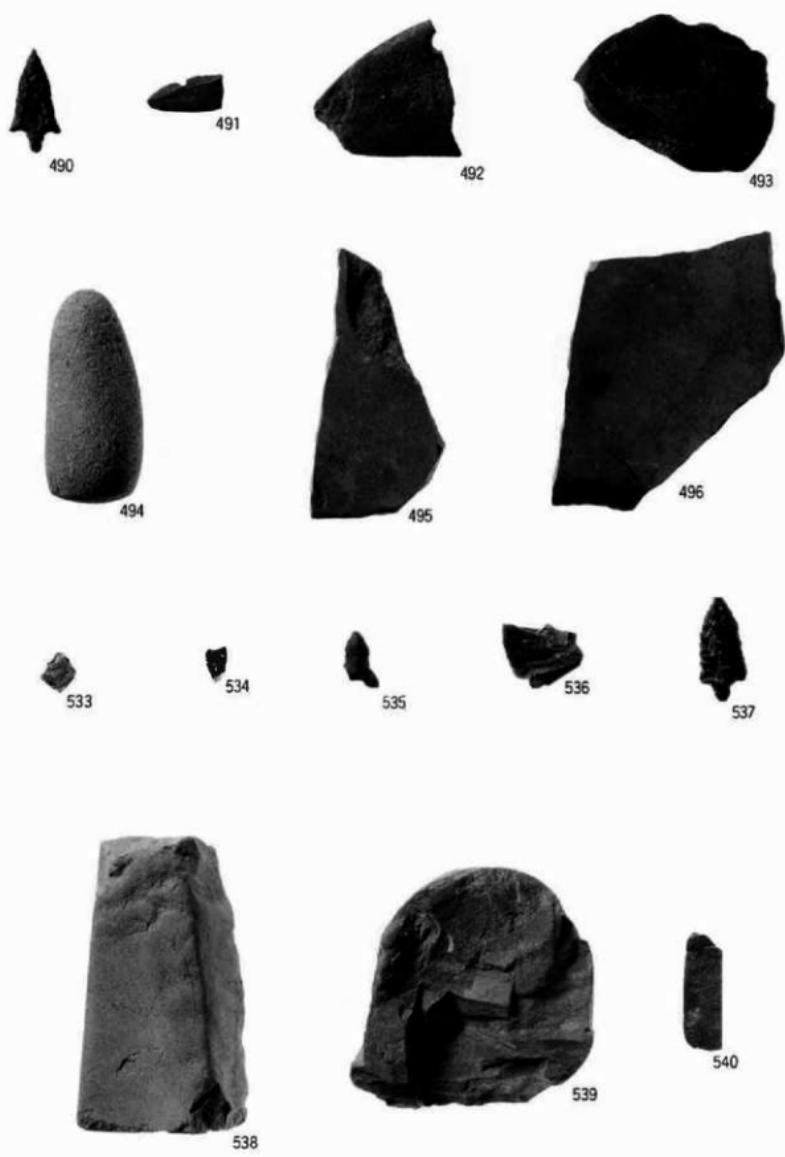
111

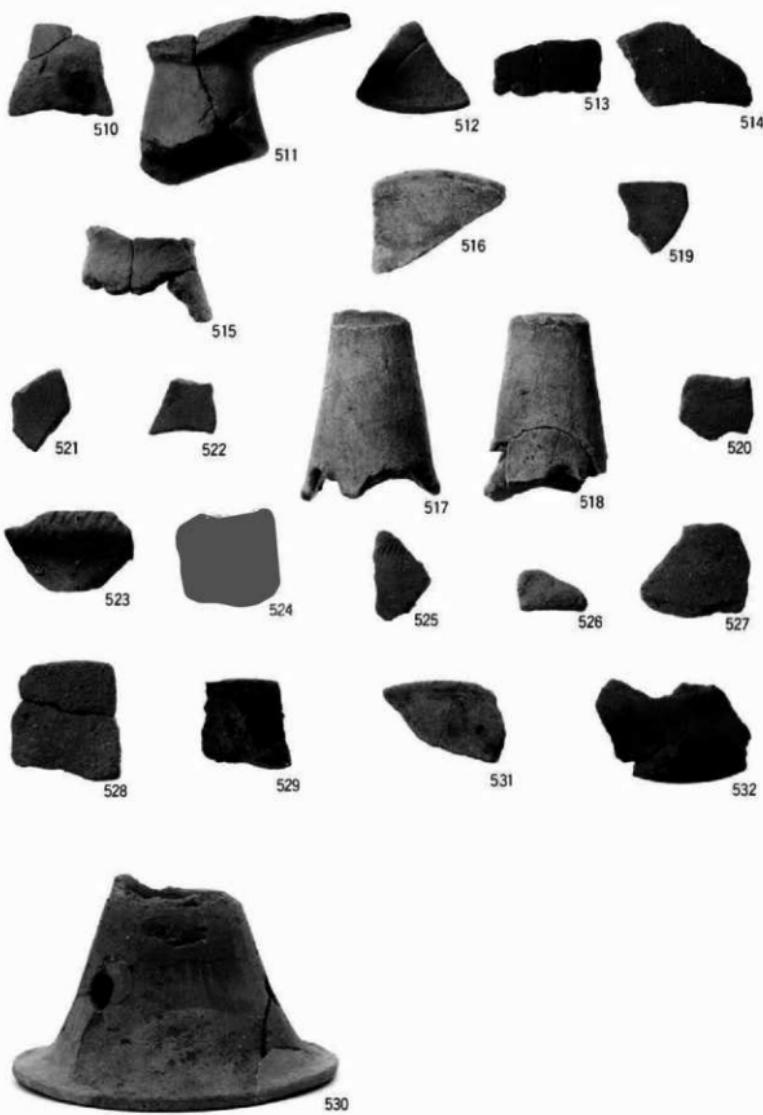
図版80

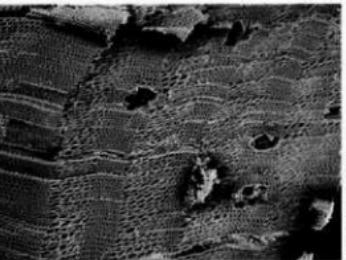
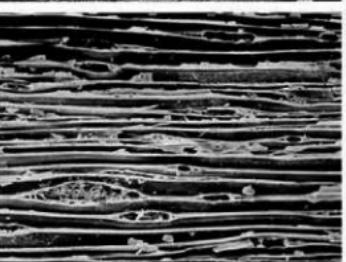
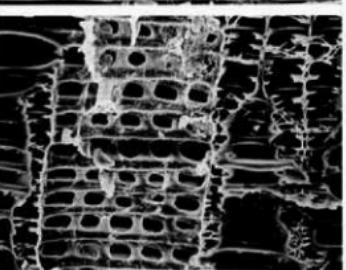
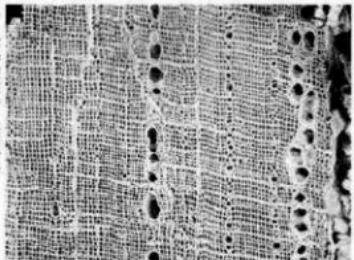
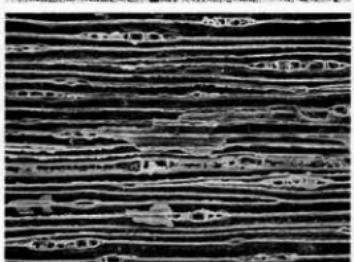
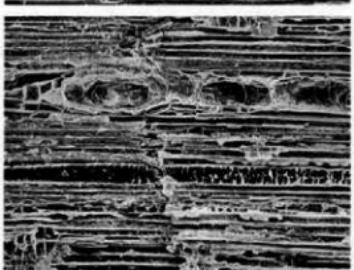
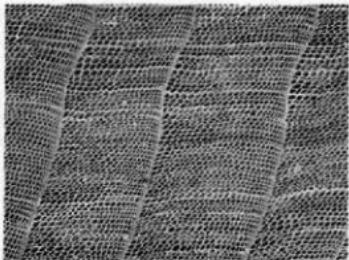
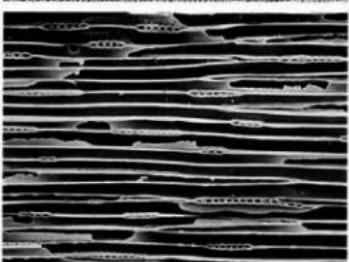
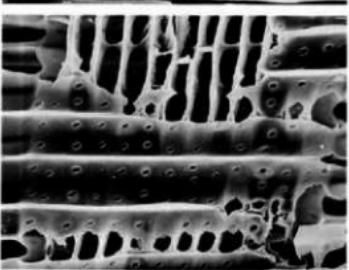


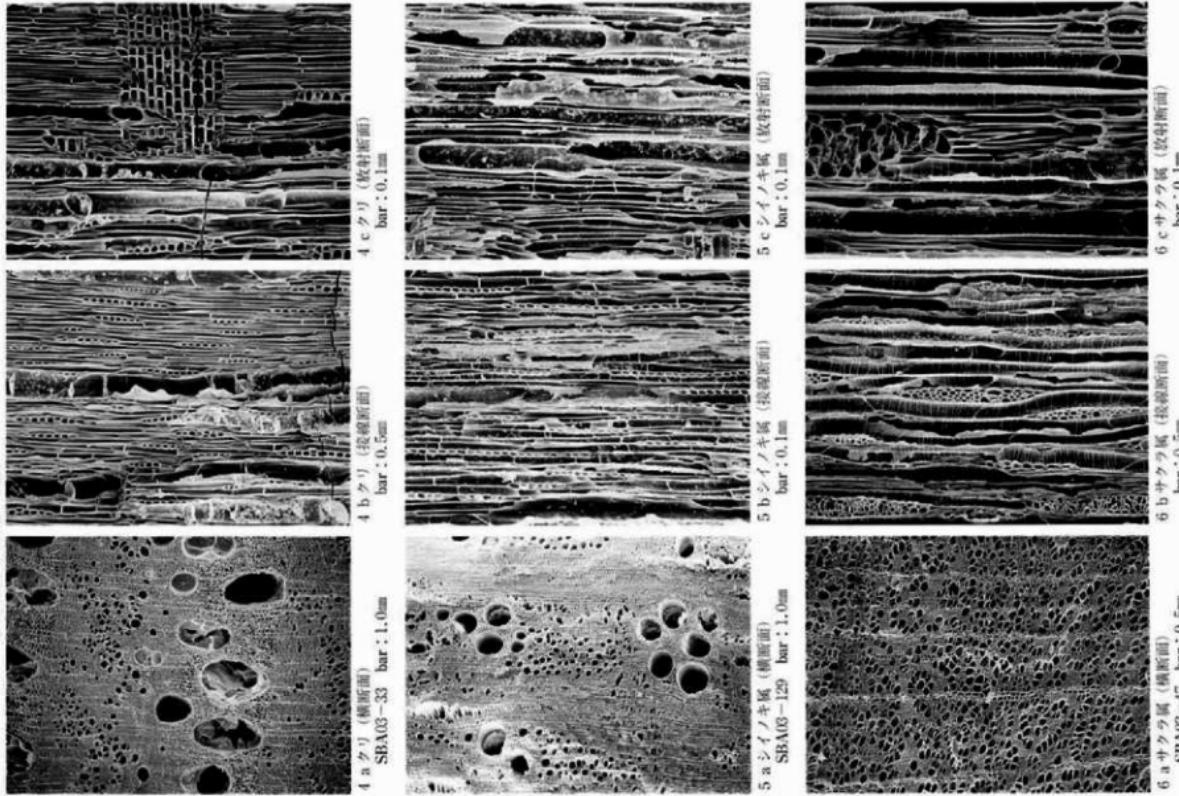


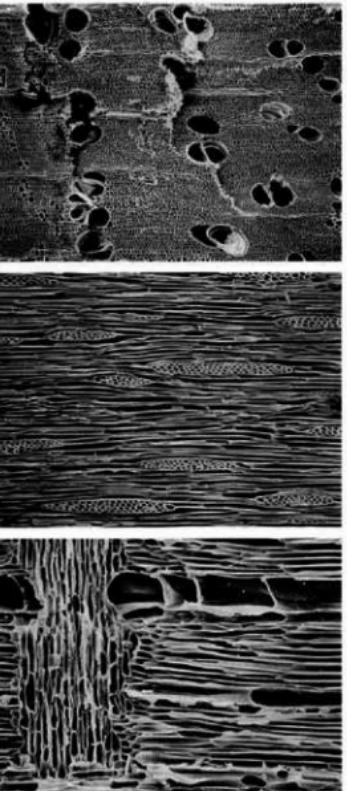
図版82



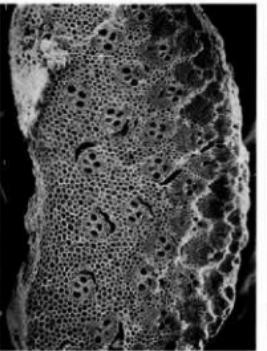


1. ニホンカマツ (横断面)
SHAMG-113 bar : 0.5mm1. ニホンカマツ (縦断面)
bar : 0.1mm1. ニホンカマツ (斜断面)
bar : 0.1mm2. a ニホンカマツ (横断面)
SHAMG-101 bar : 0.5mm2. b ニホンカマツ (縦断面)
bar : 0.1mm2. c ニホンカマツ (斜断面)
bar : 0.1mm3. a ニホンカ (横断面)
SHAMG-113 bar : 0.5mm3. b ニホンカ (縦断面)
bar : 0.1mm3. c ニホンカ (斜断面)
bar : 0.05mm





7 a キハダ (横断面)
SB-AUG-58 bar : 0.5mm
7 b キハダ (管状断面)
SB-C-302 bar : 0.5mm
7 c キハダ (径向断面)
bar : 0.1mm



8 a タケ葉材 (タケ・ササ類) (横断面)
SB-BOR-302 bar : 1.0mm

報告書抄録

ふりがな	あとひらぢやうすこふん・あとひらいせき							
書名	後平茶臼古墳・後平遺跡							
副書名	東海環状自動車道(関~美濃加茂)建設事業に伴う緊急発掘調査報告書							
卷次								
シリーズ名	岐阜県文化財保護センター 調査報告書							
シリーズ番号	第77集							
編著者名	藤田英博・安田正枝・三辻利一							
編集機関	財団法人岐阜県文化財保護センター							
所在地	〒502-0003 岐阜市三田洞東1-26-1 TEL 058-237-8550							
発行年月日	西暦2002年12月25日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査 原因
		市町村	遺跡番号					
後平茶臼古墳	岐阜県加茂郡 後平1号古墳	21502	04309	35°	136°	19981028~	8,480m ²	東海環 状自動
後平1号古墳	岐阜市大平賀		09263	30'	58'	19981120		車道建
後平遺跡			09237	16"	27"	19990610~ 20000302		設事業 に伴う
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
後平茶臼古墳	集落跡	縄文時代	竪穴住居	26軒	石器	後平茶臼古墳は竪穴式横口式石室を持つ造り出し付き円墳で中濃地域の主長墓と思われる。木芯鉄板張輪鏡は県内2例目の出土、尾張型埴輪は県内5例目の出土で北限にあたる。砂行・南青柳・深橋前遺跡とともに弥生時代末~古墳時代初頭に丘陵部の急斜面に集落を形成した。また方形周溝墓も確認した。		
後平1号古墳	古墳	弥生時代末~	方形周溝墓	1基	縄文土器			
後平遺跡		古墳時代	古墳	2基	上師器			
			中世墓	5基	須恵器			
			土坑	19基	埴輪			
			ピット	43基	鉄製品			
					山茶碗			

岐阜県文化財保護センター調査報告書 第77集

後平茶臼古墳・後平遺跡

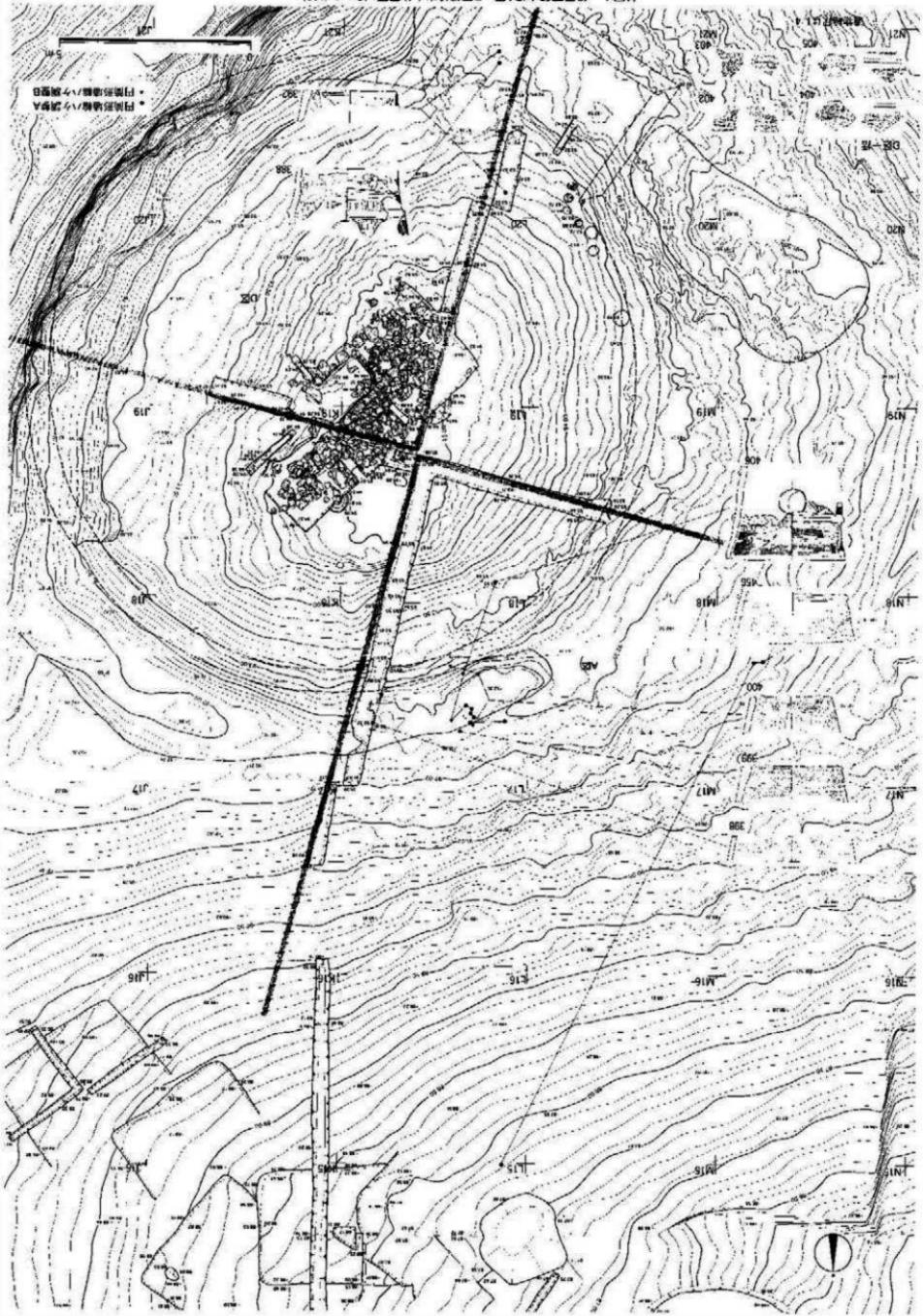
【第2分冊】

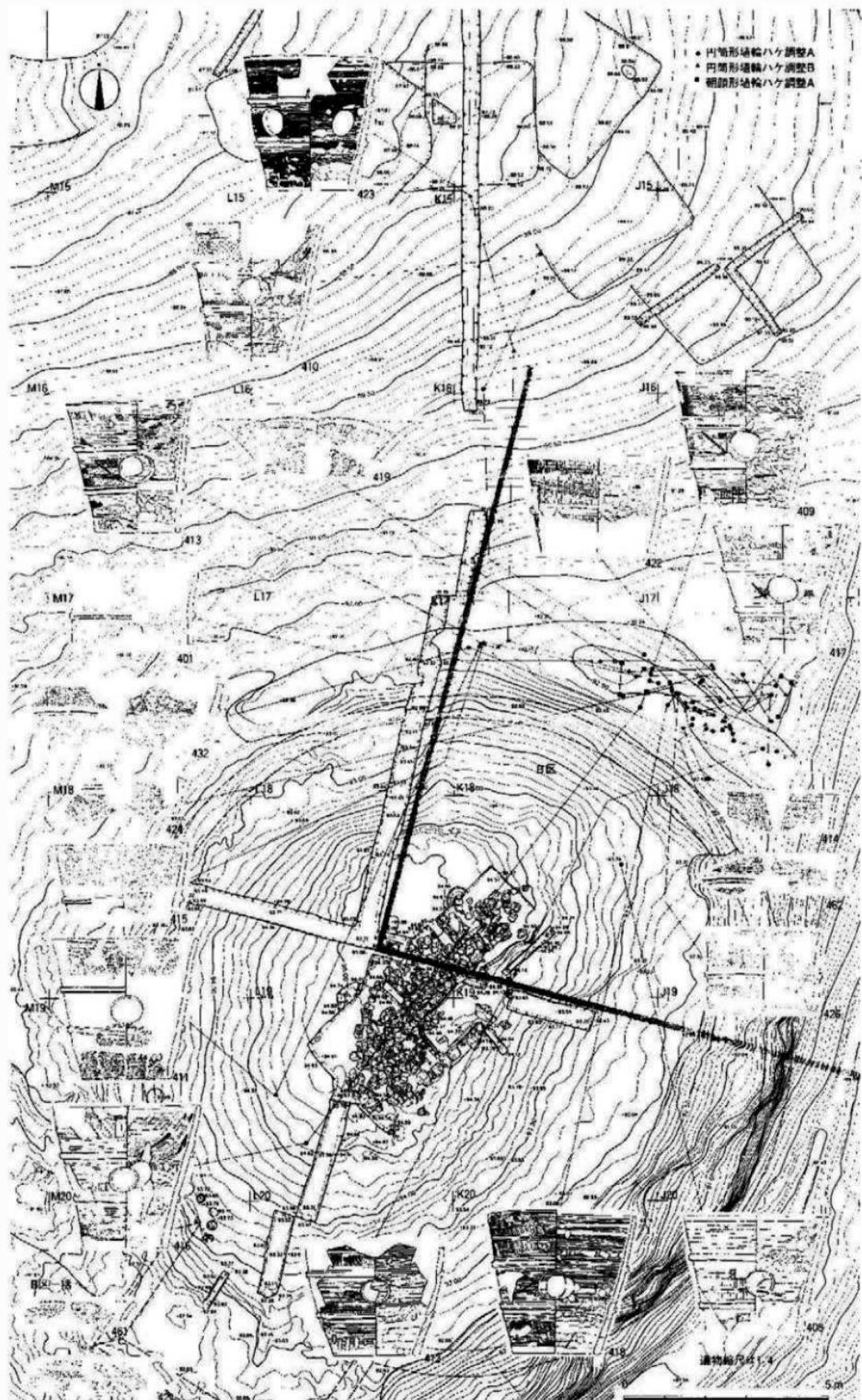
2002年12月25日

編集発行 財團法人 岐阜県文化財保護センター
岐阜県岐阜市三田洞東1-26-1

印 刷 サンメッセ株式会社

图四 1 梁平东汉古墓A区、D区随葬出土陶画图 (S: 1 / 100)

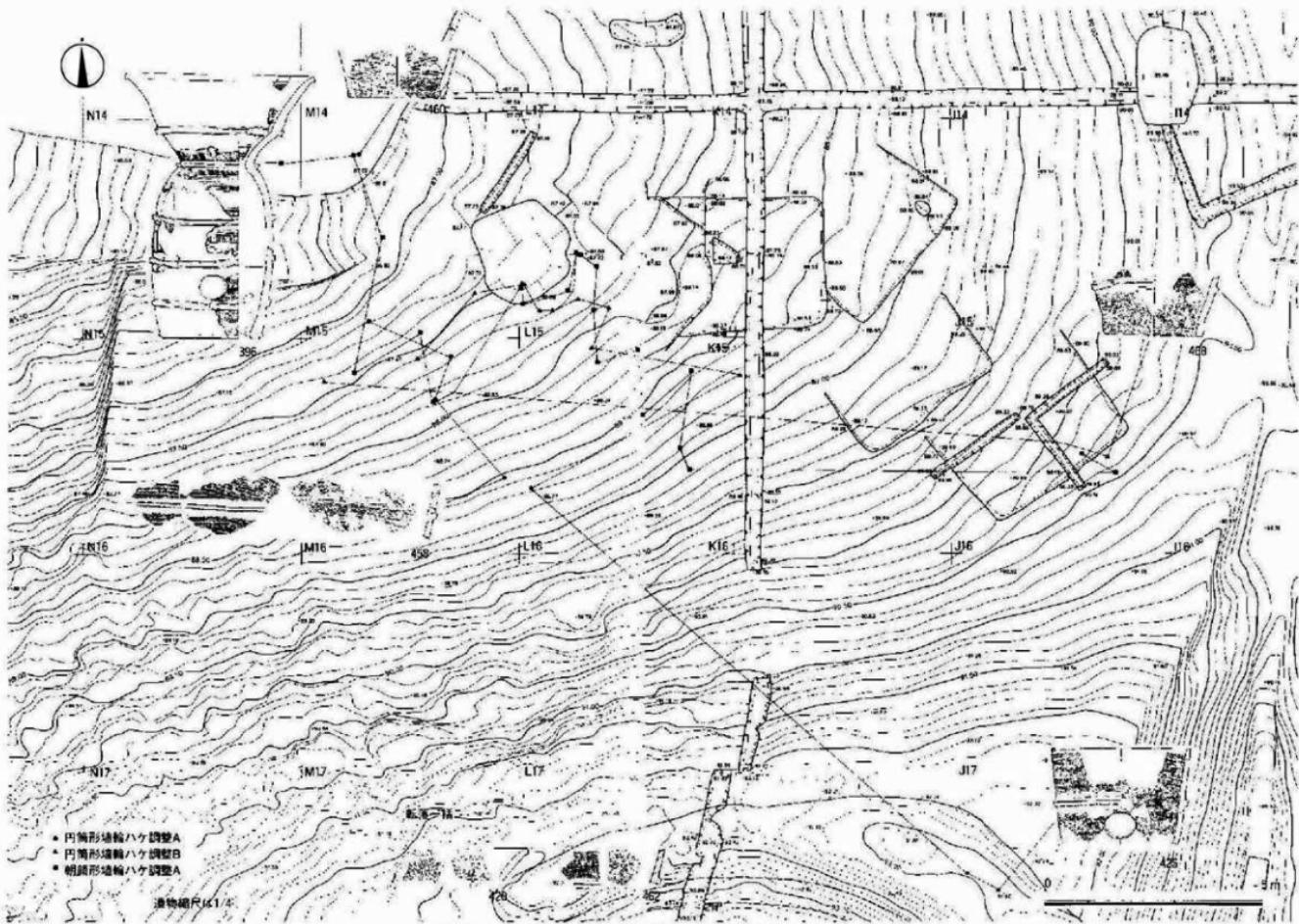




付図2 後平茶臼古墳B区埴輪出土位置図 (S : 1/100)

付図3 桜平糸田古墳群出土位置図 (S: 1/100)





付図4 後平茶臼古墳埴丘北側埴輪出土位置図 (S : 1/100)